

毎日百四十輛ハ多過ギテ積荷ナキニ至ルヲ恐ル。倍數ノ揚陸アル如ク取  
計ヒテ望ム。否ザレハ貨車ヲ減テ本ノ外ナシ。

右ニ付、大連本倉庫令泉主計正へ左ノ如ク電報ス午後十時四十分遼陽發

遼日、貴管下武内副提理下ノ間ニ協議セシ如ク、營口ヨリ百車、大連ヨリ百五十  
車ノ割ニテ輸送ノ計畫ヲ定テ置キタル故、餘リ大ナル相違アリテハ準備品ニ  
差支ヲ生ズベキニ付、右ノ旨同副提理へ至急協議スベシ。

同時ニ金子支庫長へ電報。

答、遼陽へ送ル糧秣ナケレバ薪炭及清酒ヲ加ヘテ可ナリ。○提理部へハ大連ニ  
於テ協議セシム。

右營口發車數ノ件ニ付、令泉主計正ノ返電左ノ如シ十五日午後一時遼陽發

貨車ノ件協議セシニ、最初ノ要求ニ基キ計畫シタル故、今俄ニ變シ難シ勿論營  
口ニ糧秣外ノ貨物揚テバ之ヲモ輸送スル故、其時ハ糧秣ノ貨車ガ減ルコトニ  
ナル今イラスドテ減ズレバ又増スノガ六ツカシイカラ貨物ナクハ空デモ仕

方ガナイ本月下旬迄ハ變更セズゴトニ承知アリタシト。

四月四日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後十時遼陽發

支那米ノ見本ヲ持ツダブツシユノ使支那人着ク。明日、軍務署ノ護照ヲ持タ  
セテ奉天ニ遣ル。

尙ホ同時ニ高力屯出張所ノ準備作業多シ。過日送リシ(新民ヨリ)八十名ノ外ニ  
輸卒ヲ送ラレタシト電報アリ。

同四日 曩ニ味噌及醬油ノ製造見込ニ高ニ關シ、野戰經理長官ヨリノ命ナリト  
テ、辻村經理部長ヨリ電報アリ。右ニ對シ左ノ如ク返電セリ午後十二時遼陽發

左ノ如ク經理長官へ答ヘラレタシ。○味噌ハ遼陽營口ヲ合セテ日々二千貫宛  
出來上リ、現ニ各軍へ分配シツマアル處、各軍ノ「受ケ」ヨシ。五月初メヨリ日々  
約五千貫ツツ出來ル見込ミ、故若干ノ粉味噌ノ外ハ味噌ノ追送必要ナシ。○醬  
油ハ倉庫ニテ製造ノ目論見アリテ今頻リニ準備ニ奔走中。未ダ出來上リ分  
量下期日ハ豫定シ難キモ、來ル七月ヨリ月々三百石位ツツ製造スル考ナリ。



四月四日 金子營口支庫長ヨリ電報午後十一時十分受

二日營口ノ地ヲ發シタル船十隻ハ八家子ニ着シ、本日轉載ヲ終リ出帆セリ。

右直ニ守備軍經理部長ヘ電報セリ。

同日 鹵獲品、遺棄品ノ處置ニ關シ前田支庫長ヨリ申出アリ。之ニ對シテ左ノ如ク訓示セリ。

- 一 鹵獲、遺棄品ノ取計ヒハ軍直後ノ支庫長ニ於テ獨斷スルヲ良シトス。
- 二 不當ノ事及不公平ノ事ヲ取計フニ於テハ其責ハ軍直後ノ支庫長ニ在リ。
- 三 是ト見テ爲シタルコトニ就テハ他人ガ不當ト云フモ不公平ト云フモ頓着アル事ナカレ。

四月五日 神尾參謀長ヨリ左ノ通牒アリ。

遼東守備軍司令部參第三六四號

明治三十八年四月三日

遼東守備軍參謀長 神尾光臣

滿洲軍倉庫長日匹信亮殿

別紙坂西少佐ノ來意ニ基キ宣言及義賑局設立案相定メ候就テハ左ノ通承知置有之度

- 一 貴官ガ目下配慮セラレツ、アル關外鐵道輸送ハ良好ナル結果ヲ得ツツアル故故障ノ生ズル迄此儘續行スルコト但、名義ハ坂西少佐ノ來信第三法ノ平糶タルコト。
- 二 前項ノ實行上故障起ルカ或ハ其ノ憂アルトキ又ハ前項ト兩立實行ノ必要アル場合ニハ時機ヲ見テ宣言及義賑局設立案ノ實行ニ取り掛ルコト但、着手スルニハ更ニ通知セラル、筈。
- 三 右ニ付、貴官ハ軍政委員ト協議シ義賑局主事以下職員ヲ選定シ着手ニ當リ支障ナカラシムルコト。
- 但、可成主事以外ノ者ニハ知ラシメ置カザルコト。
- 四 我主事ハ日本軍政官ト定メアルモ該官ハ清國主事ト表面向キノ交渉ニ止メ實行ハ總テ滿洲軍倉庫員ニテ任スルコト。



五 右ニ付本局ハ奉天支局ハ營口ニ置クモノトシ同地軍政官ト豫メ打合

セ置キ實行ニ方ヲ支吾ナカラシムルコト。

津東級第三號

三月十五日

於天津 砲兵少佐 坂西利八郎

遼東守備軍參謀長神尾光臣殿

謹啓今同新民屯行並ニ營口行ノ鐵道運行ヲ溝帮子以東ニ於テ停止セシメタルコトハ袁總督トシテ過早ノ處置タルコトハ小官等モ認メ居ル處ナレドモ直接其業務ヲ擔當スルモノガ(稍)針小棒大的ノ疑アレドモ日本武官ガ營口ヨリ新民屯ニ向ヒ一日ニ數百噸ノ軍需品ヲ強制的ニ輸送スベキヲ命ジ肯ンゼザレバ武力ヲ以テ鐵道ヲ占領スベシト謂セタルト稱シ新民屯ニテハ英文電報ヲ取扱ハシメズ又貨物ノ積卸シヲナサシメズ其他停車場ニ來リ屢騷擾スル報シタル爲メ皆危險ノ虞アリトシ我レニ力以テ之ニ抗スベキモノナキヲ以テ一時之ヲ避クルニ若カズトテ運行停止トナルニ至レルナリ故ニ總督ノ

意中決シテ之ヲ以テ日本ニ不利益ヲ與ヘントスル分子ヲ含ムモノニアラズ只日本ハ武力ヲ以テ清國ノ鐵道ニ望マザルコトヲ確知セバ直ニ舊ノ如ク運轉ヲ開始スルナリ此ニ於テ天津駐屯ノ仙波司令官并ニ伊集院總領事ヨリ其鐵道ヲ占領シ其停車場ニ於テ擾亂ヲ醸スガ如キコトナキヲ保證シ遂ニ運轉ヲ開始スルニ至レリ。

就テハ今後此鐵道ハ十分ニ我軍ノ爲メニ之ヲ利用セザルベカラズ之ヲ全軍ノ上ヨリ見ルトキハ其効程ハ微少ナルベシト雖モ之ヲ利用スルトキハ其一部ニハ確ニ便利ナリト信ジ今後此鐵道ハドコマデモ中立國タル清國ヲシテ運轉セシメ其業務一切ニ干渉セズ中立ノ權利ヲ毫モ侵害スル事ナク換言スレバ露國ハ勿論其他ノ諸國ニ對シ清國ヲシテ中立違犯ノ名ヲ負ハシメズシテ而カモ我ハ之ニ由リテ軍需諸品ヲ輸送シ得ル方法ヲ袁總督ト商議シ其結果左ノ諸手段ニ依ルヲ得策ナリトスルニ決ス。

第一 奉天ニ日清協同シテ難民救濟ノ爲メ義賑局トモ稱スベキモノヲ設ク



(此局名ハ何ト云フテモ可ナリ)

第二 營口ニ同局ノ出張所ヲ置キ適當ナル支那官吏アラバ之ヲ管理セシメ之レナケレバ傳教師ウエイ(魏牧師)ナルモノ居ル筈ナルヲ以テ之ヲシテ其事ヲ監督セシム

而シテ奉天ノ本局ニ要スル(難民ノ爲メニ)糧食、被服ヲ送ルト稱シ其實ハ公然我軍需品ヲ送ル但、我軍憲ヲシテ輸送一切ニハ干涉セザルヲ要ス(支那語ノ賑糧ハ釐金稅ヲ免ジ運賃ヲ割引セラル、モノトス)

第三 ハ平糶之法ニヨル

之レハ官ニテモナシ得ベク又商人ニテモ爲シ得ベシ即チ奉天ハ戰亂ノ後ニテ人民ノ食糧極メテ少ナク物價極メテ騰貴スト言ヒ例令ハ營口ノ商人ハ糧食ノ輸送ヲ願出ヅ然ルトキハ特別ノ詮議ヲ以テ其運賃ヲ割引シテ輸送セシム

此法ニヨルモ其商人ヲシテ軍需品ヲ此ノ名ノ下ニ營口ヨリ奉天ニ輸送セ

シムルコトヲ得ベシ。

第四 稍多量ノ糧食ヲ上海若クハ天津附近ヨリ取ラントスルトキハ左ノ法ニヨル。

奉天將軍ノ名ヲ以テ南洋大臣若シクハ北洋大臣ニ電報シ奉天ノ人民兵燹ノ餘飢餓ニ苦ムノ情ヲ述ベ支那商人ヲシテ前記ノ平糶ノ法ヲナサシム是モ無論釐金ヲ免ジ運賃ノ割引アリ。

第五 第二ニ述ベタル賑糧ハ必ズシモ營口ヨリト限ルニアラズ其他何レノ地ニテモ可ナリ賑糧トアレバ公々然輸送セラル極端ニ言ハバ賑糧即チ米ト限ラザル位ニシテコノ名ノ下ニドンナ物デモ無賃ニテ運ベルト云フテモ可ナル程ナリ夫レニシテモ最モ戰鬪ノ激烈ナリシ而カモ一省ノ中心タル奉天ニ義賑局トモ云フベキモノヲ設ケ置カザレバ其賑量ノ名義ヲ得ルニ困難ナルベシ。

以上ハ軍需品ノ多量ヲ輸送スルニ際シ中立違犯トナラザル爲メノ名義ヲ



附スベキ諸手段ナリトス。

次ニ今後作戦漸次進捗スルニ從ヒ後方連絡線延長シ鐵道アリト雖其他運搬材料ノ需要多大殊ニ馬匹ニ於テ然リトシテ考慮ニヨリ中立地帯ヨリ馬匹車輛ヲ引出ス方法トシテ述ブルコト左ノ如シ。

第六 奉天將軍ハ奉天地方兵燹ノ餘畜類ノ不足甚シク此春耕ニ際シ之ヲ得ルノ道ナキヲ以テ北洋大臣ト熱河都統トニ其旨ヲ電告シ支那人ニシテ畜類ヲ奉天ニ送り耕耘ニ充テントスルモノハ戰地ニ向フテ運ブコトヲ許可セシムルナリ。

第七 大凌河以西ニハ未ダ可ナリノ車輛馬匹アルヲ以テ人ヲ派シ(支那人當地ニ適當ノモノアリ)之ヲ備用セシム。

第八 奉天附近其他一帶ノ人民ノ車輛馬匹ハ成ルベク善ク待遇セラレタシ是レ亦一ニ車輛馬匹ヲ呼ビ集ムル方法ナリ。

第九 新民屯奉天間ノ道路ハ極メテ安全ニシテ嘗テ露人が屢爲シタル如ク

途中貨物ノ強奪ニ遇フガ如キコトナカラシムルコト。

第十 新民屯奉天間ニ速カニ電信線ヲ架設シ奉天ト天津若クハ北京トノ直接連絡ヲ圖ルコト。

第九第十ハ單ニ中立地ヨリ需要品ヲ取ル爲メニ必要ナルニ過ギズ甲ハ途中ノ往來ヲ安全ニシ乙ハ連絡ヲ確實ニス。

大凡右ノ方法ニヨリ相互ノ連絡ヲ確實ニシテ表面止ニハ毫モ日本軍ハ勿論日本人ノ名ヲ出サズ盡ク支那官衙及官吏若クハ商人ヲシテ行ハシメ裏面ハ全ク我用ニ供セシメ而シテ其實行ノ成否ハ間接ニ我手ヲ以テ監視スルトキハ表面毫モ中立ヲ侵サズシテ十分ニ之ヲ利用スルコトヲ得ベシト信ズ。是レ專ラ袁總督ノ發意ニシテ又彼ハ十分之ヲ實行シ得ル算ヲ有ス。

彼ハ常ニ謂ラク凡ソ日本軍ニシテ此中立地ノモノヲ利用シテ事ヲ爲サントスルトキハ豫メ御相談ニ預リタシト是レ彼ノ最モ希フ處ナリ今回ノ營口ヨリ新民屯ニ向ヒテスル鐵道輸送ノ如キモ豫メ御相談アリシナラバ或ハ此度



ノ如キ行違ヲ生ゼズシテ行ハレシナラント存ゼラレ候。  
此事ニ就テハ明十六日天津出發新民屯ヲ經テ奉天ニ向ハル、青木大佐殿モ能ク御承知ニ候間御面會ノ節ハ御聞取下サレ度候。  
先ハ不取敢右報迄勿々

義賑局設立案

- 第一 目的 義賑局ハ戰亂ノ爲メ業ヲ失ヒタル清國難民ヲ救済スルヲ以テ目的トシ第一着ニ奉天附近ニ於テ實行スルモノトス。
- 第二 組織 義賑局ヲ奉天ニ置キ支局ヲ新民屯、營口其他ノ要地ニ置ク。義賑局本局ハ專ラ義賑分配ヲ掌リ支局ハ主トシテ輸送ヲ管掌スル所トス。義賑局ノ職員左ノ如シ。

本局

補給主事 日本軍政官

一名

分配主事

清國官吏若クハ紳董

一名

局員

經理官 清國官吏若クハ紳董

若干名

支局

調辨主事 日本軍政官

一名

輸送主事 清國官吏若クハ紳董

一名

局員

經理官 清國官吏若クハ紳董

若干名

以上ノ外本局及支局ニ計手及清國官吏紳董若干名ヲ置ク。

第三 分擔 各主事ハ其名ノ示ス如ク各事務ヲ擔任シ各本職上ノ系統ニ於ケル上司ノ指揮監督ヲ受クルモノトス

局員以下ハ各其出身系統ニ依リ主事ノ下ニ在テ服事ス

第四 義賑品 義賑ニ供スルモノハ糧食品、飲料、被服其他凡ソ義賑トナルベキ一切ノ物品トス又場合ニヨリ現金ヲ以テ賑恤スルコトアルベシ。

第五 補給及分配 義賑品ハ廣ク義捐ニ依ルモノトス又救難上急ヲ要スル場合ニアリテハ日本軍糧中ヨリ一時供出セラル、コトアルベシ。



義賑品ノ分配ハ補給主事ニ於テ分配スベキ品種數額ヲ定メ分配主事ニ移シ同主事ハ其調査スル所ニヨリ各難民ニ配當スルモノトス。

第六 輸送 義賑品ハ支局調辨主事ニテ取纏メ支局輸送主事ニ引渡シ同主事ハ本局ヘ向ケ發送スルモノトス。

義賑品ノ輸送賃ハ割引セラレ又釐金稅ヲ免ゼラル、モノトス。

第七 報告 義賑局ノ狀況ハ各主事ヨリ本職上ノ上司ニ旬報スベシ。

右ニ付奉天支庫長前田伴次、營口支庫長金子義友ニ左ノ如ク訓令セリ。

訓令 四月八日於遼陽支庫

一 關外鐵道使用ニ關シ別紙前記ノ通りノ通り遼東守備軍參謀長ノ通牒ニ接セリ。

貴官ハ右通牒ニ基キ本職ノ名ヲ以テ其地軍政委員ト協議シ通牒三號主事以下ノ職員ヲ選定シ同五號本局設立ノ準備ヲ打合セ置クベシ。

軍政委員ト協議ヲ始メタル後ハ時々其情況ヲ予ニ報告スベシ。

二 現在ノ場合ニ於テ突然坂西少佐來信ノ平糶法トスルコト困難ノ事情ナ

キニアラザルヲ以テ目下頻リニ斡旋シツ、アル支那白米ヲ新民、奉天邊ニ

賣捌カル、機會ヲ待テ同法ヲ實行セバ名實相伴ヒ甚ダ好都合ナラン。

三 貴官ハ本件ノ準備ト實行ニ於テ圓滿ニシテ好果ノ著シカル様盡力アラシコトヲ希望ス。

四月五日 午後一時十五分、二等計手石原慶之助、三等計手木村隆一大連本倉庫

ヘ到着セル旨電報アリ。依テ營口支庫附ヲ命ジ直ニ出發セシムベキ旨返電セリ。

同五日 庫手田代喬彦大連本倉庫ヘ到着セリ。

同五日 第三軍吉田經理部長ヨリ「烏拉靴ノ新品ニシテ不用ノ物ハ最寄貴倉庫ヘ預ケ入レタシ都合如何」トノ電報アリ。依テ「最寄支庫ニテ預ルコト承知」ノ旨返電セリ。

同五日 辻村遼東守備軍經理部長ヘ電報午後五時遼陽發

夏服ハ貴電ニ依リ倉庫ニテ擔任シ、今輸送中○還送被服防塞服甚ハ非常ニ多



數ナリ。又右ノ内倉庫ニテ既ニ受領セシモノニテモ各品種ヲ混交シ而カモ  
梱包不完全ニシテ中ニハ形ヲ成サザルモノサヘアリ。送狀ノナキモノモア  
リ。概シテ不整頓ト云フノ外ナシ。小數ノ宰領班ニテ之ヲ整理シ還送ヲ全  
フセシコト容易ニアラズ。強ヒテ之ヲ爲サントセバ時機ヲ失スルノ恐レア  
ラン。倉庫デハ還送ノ計ヒニ取掛リシモ一、九九二號(滿發)ノ御達ヲ見タル以  
上ハ手ヲ引クベキ筈ナリ。然レドモ夏服ヲ倉庫ニテ扱フ筆法ヨリスレバ其  
儘ニ捨置クベキニモアラズ。一、九九二號ノ御達シ通リ宰領ニテ扱ハシムル  
カ、夏服ノ筆法デ倉庫ニテ扱フカ、二者其一ニ就テ御回電アリタシ。

右ニ對スル返電六日午後五時四分遼陽受

答、防寒被服ハ夏服ト同一ノ筆法ニテ倉庫ニテ取扱ヒ、又宰領ニ交付スルヲ便  
宜トスル場合ハ宰領ニ取扱ハシメ然ルベシ。當軍ニテハ宰領ニ交付セズ、直  
ニ還送スル考ナリ。

四月五日 各支庫及本倉庫主任者ヲ遼陽支庫ニ會シ、糧秣被服、補給業務ニ關シ

訓示ヲナセリ。

右ニ付、前田支庫長ハ去三日ヨリ當遼陽支庫ニアリ。毎田柳樹屯支庫長、金子營  
口支庫長代理佐野主計ハ四日、大連本倉庫兒玉主計ハ本日何レモ遼陽支庫ヘ到  
着セリ。

同五日 滿洲軍倉庫糧秣業務ニ關シ計畫スルコト左ノ如シ。

計畫書ニ關スル主旨

本計畫書ハ是迄受ケタル命令、訓令、指示及通牒等ニ基キ糧秣業務ニ關シ我カ  
倉庫ノ從フベキ條項ヲ書キ竝ベタルニ過ギス況ンヤ實際ニ於テハ臨機此條  
項ノ斟酌ヲ爲サザルベカラザル場合少シトセズ且今後狀況ノ變化及其他ノ  
要件ニ伴フテ其機ヲ失セズ此計畫書ノ改正ヲ怠ラザランコトヲ期ス

明治三十八年四月五日

遼陽ニ於テ 滿洲軍倉庫長 日 匹 信 亮

滿洲軍倉庫糧秣業務計畫書 (其二)



明治三十八年四月五日ヨリ

第一 滿洲軍ハ昨年九月ヨリ遼陽以北ニ在リテ敵ト對峙中ナリシモ奉天附近ノ大會戰後、軍ハ奉天附近及其以北ニ於テ待機ノ姿勢ニ在リ。

第二 滿洲軍ノ兵額(鴨綠江軍ノ内ニ一個師團)二十一個師團

内譯

第一軍 五個師團半及鴨綠江軍ノ内一個師團

第二軍 六個師團半

第三軍 四個師團

第四軍 四個師團

第三 補給線 將來ニ於ケル軍ノ補給線ハ三トス

一 東清鐵道 軍ノ糧秣ハ從來主トシテ東清鐵道ニ依リ大連、柳樹屯及營口ヨリ遼陽ニ追送シ遼陽支庫ヨリ各軍ニ直接交付セリ當時遼陽以南ノ鐵道力ハ日々約三百乃至三百五、六十貨車ヲ運行セリ今此貨車ヲ奉天ニ

直通セシメラレバ將來ニ於テモ同一輸送力ヲ維持スル割合ナリト雖モ鐵道技術及其他ノ理由ニ依リ直通セシムルコトヲ得ズ故ニ一旦遼陽ニ於テ中繼ギヲ爲シ遼陽以北ハ更ニ運轉ヲ爲サザルヲ得ズト云フ遼陽以北ノ鐵道力日々約二百二十貨車ニシテ内糧秣ノ爲メ百七十貨車ノ供給ヲ受クルコト、ナレリ此輸送量約十四個師團分トス。

二 遼河水路ハ先ヅ三個師團分ヲ輸送シ漸次其力ヲ増加セラレ。

三 關外線ハ三乃至四個師團分ヲ輸送シ得。

第四 各軍日量ノ補給ハ左ノ如シ

一 東清線ニ依ルモノ(附表其一)

甲 李石寨ニ於テ 第一軍(兵站用ノ内半師團分)ハ遼陽ヨリ陸路輸送及鴨綠江軍ノ内一個師團

乙 深井子ニ於テ 第四軍

丙 蘇家屯ニ於テ 第二軍ノ内四個師團



二 水路及關外線ニ依ルモノ(附表其二)

甲 奉天ニ於テ 第二軍ノ内二個師團半

但、水路輸送ノ糧秣高力屯ニ到着ヲ始メタル後輕便鐵道ニヨリ奉天ニ於テ此二個師團半分ヲ補給セラル、計畫ナリ夫レ迄ハ遼陽ヨリ陸路輸送ニヨル。

乙 高力屯ニ於テ 第三軍

第五 準備糧秣

一 各軍貯藏糧秣ハ各、其軍ニ對スル十五日分ヲ標準トセラル。

二 甲、李石寨、深井子、蘇家屯ニハ別ニ準備量ヲ置カズ。

乙、奉天及高力屯ニハ第三軍及第二軍ノ内ノ二個師團半ノ日量ヲ標準トス。

但、場合ニ依リ若干日分ヲ準備ス。

三 遼陽ニハ滿洲軍兵額ニ對スル十日乃至二十日分

遼陽ニハ現在糧秣約六日分アリ今後東清鐵道輸送力遼陽以北ニ比シ其以南ニ於テ日々約七十乃至百貨車ヲ増加セラルベキ見込ミナル故此内ヨリ各般ノ出來事ノ爲三十車ヲ減ズルモノトシ残り五十五車ニテ約四個師團分ヲ日々遼陽ニ貯藏シ四月五日ヨリ起リ約二箇月半即六月二十日頃ニ至レバ遼陽ニテ各種尋常糧秣約二十日分ノ貯藏ニ達セシム。

四 營口及大石橋線ニハ全軍(二十五個師團分)ニ對スル一個月乃至二個月分但、此線ニ在テハ若干ノ干草、薪炭等ヲモ加フル故師團日數ノ總柵數ヲ約三千ト見做ス。

營口ニハ支那米ノ外現在貯藏ノ糧秣ナシ大連灣營口間ノ輸送船ハ十艘一艘平均二萬六千柵ヲ積ミ往復五日ヲ要シ毎日五萬二千柵内一割ヲ糧秣以外ノモノトシテ減シ四萬六千柵(A)内地及營口間直輸送船二十艘往復十五日毎日三萬四千柵内約三分ノ二ヲ糧秣トシ二萬三千柵(B)營口ニ揚陸ス(A)(B)計六萬九千柵ナリ營口ヨリ日々前送量四萬柵ヲ差引キ二萬



遼陽以北ノ特別糧秣列車補充計畫表 (其一) (三十八年四月五日)

遼陽ト李石寨、深井子、蘇家屯間 (本表ノ數字ハ貨車數ヲ示ス)

發	着	發着時刻		列車番	車號	積載區分							備考
		發	着			米	割麥	麥	罐詰	干野菜	調味品	計	
遼陽	李石寨	12.	6.25	401		10	5	27	4	2	4	52	第一軍行四個師團分
同	蘇家屯	4.23	6.55	403		10	5	27	4	2	4	52	第二軍行四個師團分
同	深井子	8.36	2.02	405		10	5	27	4	2	4	52	第四軍行四個師團分
同	李石寨	11.10	6.20	407		6	3	14	2	1	2	23	第一軍行二個師團分

此ノ列車ヲ直通セシムル爲メ營口大連ハ各二個師團分宛ヲ標準トシテ下ノ如ク區分シテ積出スコト但シ李石寨行ハ遼陽支庫ニテ積込ヲ要ス

大連遼陽間

發	着	發着時刻		列車番	車號	積載區分							備考
		發	着			米	割麥	麥	罐詰	干野菜	調味品	計	
大連	遼陽	11.30	10.	13		5	3	15	2	1	2	28	1. 一列車ニハ約二個師團分ノ各品種ヲ配合シテ積込ムト普通トス
同	同	3.	1.32	1		5	3	15	2	1	2	28	2. 此ノ以外ノ列車モ亦之ニ準ジ積込ムモノトス
同	同	6.35	5.12	3		5	3	15	2	1	2	28	3. 糧秣以外ノモノハ必ズ此ノ以外ノ列車ニ積込ムモノトス
													4. 本表指定ノ品種ニ不足アル時ハ他ノモノヲ以テ代用シ次ノ日ノ同番號列車ニテ差引スルモノトス

營口遼陽間

發	着	發着時刻		列車番	車號	積載區分							備考
		發	着			米	割麥	麥	罐詰	干野菜	調味品	計	
營口	遼陽	3.39	10.	310		5	2	12	2	1	2	24	1. 同上
同	同	7.04	1.32	312		5	2	12	2	1	2	24	2. 同上
同	同	10.20	3.12	314		5	2	12	2	1	2	24	3. 同上
													4. 同上

四月五日 新民屯藤田主計ヨリ電報時午後十二時

米 8 麥 16 罐詰 3 干野菜 2 計 34ニ

第二ノ内 二箇所 鴨綠江軍ノ内一個師團ヲ鴨綠江軍ノ内一個師團半ニ

第四ノ内 鴨綠江軍ノ内一個師團ヲ鴨綠江軍ノ内一個師團半ニ

右計畫書中其後左ノ通り改正シ四月十六日ヨリ實施ス

五 大連灣 内地ヨリノ追送品ニシテ二乃至四ニ貯藏セラル、モノ、外ハ悉皆大連及柳樹屯ノ兩倉庫ニ貯藏ス。

九千梱ハ日々營口ニ貯藏セラル、分量トナル此數ヲ以テ營口線貯藏ノ一箇月量二百二十五萬梱ヲ除セバ約七十八日トナル乃チ四月五日ヨリ起算シ之レニ一箇月ノ餘裕ヲ見テ七月中旬ニハ一箇月分ヲ貯藏セラレ十一月月上旬即チ結氷期前ニハ二箇月分ヲ貯藏セラル、答ナリ。



關外線及水路輸送糧秣補充計畫表 (其 二)

營口	關外鐵道	新民	陸路(二里半)	高力屯
米 (割麥共)	600 × 7乃至6	師團分	= 4,200乃至3,600	捆
大 麥	1,250 × 4乃至3	・	= 5,000乃至3,750	・
調味品(エキス)	28 × 7乃至6	・	= 196乃至 168	・
			<hr/>	9,396乃至7,518 捆

營口	水 路	高力屯
大 麥	1,250 × 3	師團分 = 3,750 捆
罐詰肉	209 × 6	・ = 1,254
干物野菜	134 × 6	・ = 804
調味品(エキスヲ除ク)及茶	49 × 6	・ = 294
		<hr/>
		計6,102 捆

備考 携帶口糧及加給品干草薪炭等ハ本計畫以外臨時ノ必要ニ應ジ水路輸送ニヨルモノトス  
 但急ヲ要スル場合ニハ携帶口糧加給品ヲ關外鐵道ニ依リ輸送ス







四月六日 大連本倉庫ヨリ電報午前十一時五分遼陽受

奉天支庫附二等計手一、三等計手二、看護長代用雇員三、磨工一、騎兵蹄鐵工長一、從卒輜重輸卒三今着イタ。工長ハ遼陽支庫附ニセラレタキ獸醫正ノ意見〇高橋主計ノ連レ行キタル從卒ノ代リ一今西春吉ハ大連ニ止メ置キタシ。

右ニ對スル返電午後零時十分遼陽發

答、奉天引當トシテ本日來リシ計手以下ハ皆遼陽へ急行セシメヨ。内、從卒一本倉庫へ殘セ。

右ノ内二等計手一(吉田文五郎)ハ病氣ノ爲メ、一時大連ニ留置キ、其他ハ同六日午後四時四十分汽車ニテ大連ヲ出發セリ。其人名左ノ如シ。

- |          |       |         |       |
|----------|-------|---------|-------|
| 騎兵一等蹄鐵工長 | 鈴木利雄  | 三等計手    | 寺坂綱吉  |
| 三等計手     | 長坂廣吉  | 看護長代用雇員 | 下村吉藏  |
| 看護長代用雇員  | 井谷平太郎 | 看護長代用雇員 | 玉置猶次郎 |
| 磨工       | 佐治真一  | 輜重輸卒    | 安藤鐵三  |

輜重輸卒

山本菊三郎

同六日 竹島第三軍兵站參謀長へ電報午後三時遼陽發

奉天、新民屯間ノ輕便鐵道ハ何日頃迄ニ竣工スルヤ。又其内各區ノ竣工時日何日頃ナルヤ。返待ツ。

右ニ對シ、左ノ返電アリ七日午前八時遼陽受

一週間ノ後ニハ奉天ヨリ老邊マデ通ズル豫定。

同六日 大江第三軍兵站經理部長へ電報午後三時遼陽發

貴軍宛夏服到着ス。遼陽松原兵站司令部へ交付シテヨキヤ。成ルベク貴部ヨリ部員一名派遣セラレタシ。

右返電七日午前四時五分遼陽受

答、夏服受領ノ爲メ部員一名明日出發セシム。

小北河ニアル薪、粟稈ヲ遼陽貴倉庫ニ引繼手續ノ件ハ兵站司令官ヨリ直接貴倉庫長ニ協議スル筈。



四月六日 金子營口支庫長へ電報午後三時五分遼陽發

被服ヲ遼陽へ送ルニハ成ルベク元ノ儘ニテ送狀モ品物モ取替へズ其儘送ラレヨ○品物ト送狀ト員數異ナリ。頗ル混雜ヲ始メタルガ如シ。成ルベク混雜セヌ様盡力アレ。

貴官ハ貴地ノ現在高ト將來入船ノ模様關外鐵道搗精所支那白米及味噌製造ノ景況等ノ調べヲ齎シテ當地へ來ル事出來ザルカ。佐野主計今夜歸ル。

右ニ對シ左ノ返電アリ午後九時三十分遼陽受

答、目下揚陸盛ニシテ作業力足ラズ營口ニ多數ノ商船來リ苦力賃銀日ニ壹圓位ニナル故大部分之レニ吸收セラル機橋ハ忽チ山ヲ成シ雨雪ノ爲メニ心配多シ○輸送ハ東清約八百七十噸關外二三、百噸ト水路ヲ引受ケ居ルニモ拘ラズ品物ハ拂底薪炭多クシテ却テ邪魔トナルニシテ遣リ繰リ中々困難故、少シモ下官ノ手ヲ引キ難シ○水路ハ品物不足ノ爲メ日々四千個位ニ止メ今日ハ一品モ送り得ズ○八家子ニ於ケル今日迄ノ狀況ハ當地着品ヲ直ニ轉載シテ

遲滞ナク輸送シアルモノ、如シ○關外ハ圓滑ニ運轉シアリ。昨今ハ平均三百噸位ナリ○搗精ハ變リナク、一日平均百五十石ヲ仕上グ支那白米梱包改裝モ平均六百ツ、仕上グ居ル○味噌出來高今日迄千三百貫、明日ヨリ二千貫ニシテ箱ニ詰メル方モ之ニ準ズ○目下揚陸シタル船ハ千島薪(琴平炭)四國米、麵麩日野(米)麥福山(麥)副食ニシテ、八日迄ノ入港豫定ハ長幸(炭)盛航被服、麥、炭、英航(薪、炭、芙蓉炭)隆盛(麥)ナリ。

右ニ對スル返電午後一時

答、手ヲ引クコト六ツカシケレバ來ルニ及バヌ○水路ニ送ルモノナキ時ハ薪炭ヲ送りテモヨシ。

同時ニ、大連(宮崎)營口(本城)碇泊場司令官へ左ノ如ク電報ス。

目下、營口ニテハ前送スベキ糧秣拂底ナルニ拘ラズ、内地ヨリハ薪炭ノミ積來リテ困リ居ル。右薪炭ヲ積來リシ船ヲ内地へ返サズシテ大連へ廻ハサレテ當分ノ内同糧秣ヲ營口へ轉送セシメラル、様御取計ヒ願ハレ間敷ヤ。返待ツ。



右ニ對スル營口、本城司令官ノ返電七日午前八時  
三十分遼陽受

貴電御同感ナルモ船繰リノ事ハ當部ニテ取計ヒカネル故貴官ヨリ其筋へ申  
シ出デラレタシ。

大連、宮崎司令官ヨリモ略ボ同様ノ回電アリ。

四月六日 大連本倉庫ヨリ電報午後九時三  
十分遼陽受

參謀次長ヨリ守備軍參謀長へ電アリ○參通第一、二、二一號滿洲軍倉庫營口支  
庫ニ主計一、計手二名ヲ増加シ、且ツ支庫ノ編成ヲ左ノ如ク改メラル。

支庫長ヲ三等主計正トシ、二、三、三等藥劑官ヲ一等藥劑官ニ改ム。

四月七日 金子營口支庫長ヨリ電報午前二時  
遼陽受

昨夜來ノ雨雪ニテ苦力少ナク、作業上差支ユル故兵站司令官ニ協議シテ明日  
(七日)兵站部ノ輸卒百名ヲ借ルコト、シ、明晩ヨリハ汽車ノ積込ミモ苦力ヲ使  
用スルコトニ守備隊長ト協議成レリ。但、警戒ニ就テハ十分注意ス。

次デ又左ノ電報アリ午後零時三  
十分遼陽受

昨日協議纏マリシ苦力ノ夜業ハ計畫上ノ都合ニヨリ見合スコト、ナレリ。

當分兵站司令部ヨリ輸卒及苦力ヲ借リ受クルコト、セリ。成シ得レバ今一  
隊ノ輸卒隊ヲ増加セラレンコトヲ望ム。

同七日 此頃中業務打合セノ爲メ遼陽支庫ニ來集中ノ毎田支庫長、兒玉主計、佐  
野主計午前八時五十分ノ汽車ニテ出發歸任セリ。

同七日 遼東守備軍司令部依田參謀へ電報午後一時十  
分遼陽發

輸卒五百人隊二隊増加セラレタク、參謀長へ申出デ置キシガ、右ハ至急入用ナ  
リ。御詮議振リ聞キタシ。

右ニ對シ、神尾參謀長ヨリ左ノ返電アリ午後七時三  
十分遼陽受

輸卒ノ件、大本營ニ請求中ナリ。不足ノ分ハ土人ヲ使用セラレヨ。

同七日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午後一時十  
分遼陽發

今ヤ營口ヨリハ東清、關外、水路ノ三線ニテ前送スル故、同地ハ糧秣品切レトナ  
レリ。今ノ内ニ同地ニ多クノ糧秣ヲ貯へ、又之ヲ遼陽ニ轉送シ置カザレバ、今



後雨期ニ臨ミ差支ヲ生ズルヲ恐ル。然ルニ大連ヨリ轉送スル少數ノ御用船ノミニテハ前送量欠ニ足ルカ足ラズデアル。内地ヨリ直航船モ被服ノ外ハ不用ナル薪炭ノミヲ積ミ來レリ。故ニ營口ノ糧秣ヲ稍豊ニスル爲メニハ至急左ノ二件御配慮アリタシ。

第一 内地ヨリノ直航船ニテ目下營口ニアルモノト今後來ルベキモノトヲ當分大連灣、營口間ノ輸送船ニ増加セラル、コト。

若シ行ハレザレバ商船ヲ雇ヒ入レタキコト。商船ハ營口ニテ應ズルモノアル見込ミ。

第二 今後内地ヲ發スル船ニハ薪炭ヲ止メ、米麥ヲ積ムコト。

四月七日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後七時四分送陽受

過日星田司令部ニ讓リタル船ヲ上流ニ輸送力乏シキニ拘ラズ、同司令部ニテハ全部下流ニ使用セント云フ。サレド小野崎司令部ヲ補助シ、下流ニ船ヲ下サズシテ上流ノ輸送力ヲ維持セ、シムルノ處置ヲ取レリ。星田司令部ニハ二

百隻差當リ輸送ニ差支ナキ位小野崎司令部ハ少ナクモ六百ハ入用ナルニ未ダ二百ニモ充タザルナリ。

右返電午後十一時三十分送陽發

船入用ナラバ他ヨリ廻ハスコトガ出來ル積リ。何程入用ナルカ。申來レ○

星田司令部トモ成ルベク意思ノ疏通スル如クセヨ。

四月八日 新民屯藤田主計ヨリ電報午前一時三十分送陽受

高力屯ノ倉庫ヲ右岸ニ設クルコトニ就テハ、軍政官井戸川少佐ニ問合ハセタルニ決シテ差支ナイ。總司令部ニ報告シ、是非承認ヲ得ル筈ト○又停車場附近ニ建ツベキ倉庫ニ就テモ同様決シテ遠慮ハ入ラヌ。倉庫ノ便宜ナル様計畫セラレヨト。

戰場ヨリ此地ニ入り込ミ、暴力ニテ馬車ヲ徵發スル爲メ、十分集マル見込ミアル馬車モ恐レテ集マラス故、軍政署ニテ當地ノ名望家ニ説キ、車局ヲ設ケシメ、倉庫其他ニ供給スルコトニ今夕協議セリ。但、ブツシユハ、從前ノ通りノ方法



ニヨルコト。

高力屯ニハ輸卒ノ必要アリ。同地ハ苦力皆無ナリ。

右ニ對スル返電午前三時  
遼陽發

高力屯ノ倉庫ヲ左岸ニ設クルコトハ中立ノ關係ニアラズシテ、今後輕便鐵道ニ依リ奉天へ連絡ノ便利ヲ願慮セルニヨル〇尙ホ能ク考へテ意見ヲ申來レ。

四月八日 新民屯藤田主計ヨリ、生牛ヲ第三軍ニ交付シテヨキカ「トノ電報アリ

(三日記)依テ交付シテヨシト返電セリ。

同八日 金子營口支庫長へ電報午前十一時  
遼陽發

夏服ハ第三軍ノモノヲ先キニ送り來ルベシ〇内譯ト字品ノ送狀ノ寫ト共ニ

〇防寒服ニ付、守備軍經理部長ヨリ左ノ電アリ。

防寒被服ハ夏服ト同一ノ筆法ニテ倉庫ニテ取扱ヒ又宰領ニ交付スルヲ便宜トスル場合ハ宰領ニ取扱ハシメ然ルベシ。當軍ニテハ宰領ニ交付セズ直ニ還送スル考ナリ。

右返電午後四時  
遼陽受

答、夏服ノ送狀ト其内譯書三百十列車ノ宰領ニ托送セリ。

次デ又左ノ電報アリ午後七時  
遼陽受

第三軍行キ被服ハ皆送り濟ミ。

同八日 大連兒玉主計ヨリ電報午前十一時  
遼陽受

今歸着〇貨車ノ件三月三十日電ノ如ク、營口百以上大連百五十以内ト云フヲ、營口百五十以内大連百以上ト變リタルノミニテ、實際ハ營口百四十三、大連百四十發車ス。故ニ鐵道へ交渉スル必要ハナシト考フ〇五日電ノ營口二百車ニナル様ニ應ズル計畫ト云フハ、今更營口ノ五十ヲ大連へ廻ハス事出來スト云フ義ナリ。故ニ大連ハ百車ヲ降ルコトナシ〇鐵道提理部へ確メ濟ミ。

同八日 金子營口支庫長へ電報午後一時  
遼陽發

一萬坪ノ殘リノ材木類ハ來リシヤ〇五千坪ノ材料ハ如何ナルヤ。共ニ「ブツシユ」へ催促アレ。一棟丈至急遼陽ニ建テル筈。



右返電午後九時十  
分遼陽受

一萬坪ノ残りノ材木ハヤツト到着シ、明朝牛家屯ニ陸揚グス〇五千坪ノ分ハ  
五日内地出帆シ、十二日頃入港ノ豫定。

四月八日 大連今泉主計正ヨリ電報午後二時  
遼陽受

一等計手一、二等計手二倉庫附トシテ着イタ〇病氣ニテ残りシ計手一名全快  
セズ。

右ニ對シ、直ニ計手三ノ内一ヲ本倉庫附トシテ二ヲ急ギ遼陽ニ來ルベク命ゼヨ  
ト電報セリ。

其命課左ノ如シ。

本倉庫附二等計手小崎元次郎

遼陽支庫附一等計手今島石太郎

同

二等計手住吉甚一

同八日 新民屯藤田主計へ電報午後四時五  
十分遼陽發

兩覆代用トシテ新民屯停車場へ百二十坪、高力屯ノ右岸へ百坪、左岸へ三百坪

ノ假倉庫ヲ建テ、ハ如何〇右ハ大至急ヲ要ス。尙ホ意見アラバ申來レ。  
右ニ對シ、左ノ返電アリ午後十時三  
十分遼陽受

兩覆代用建築ノ件承知、至急着手ス。當地停車場附近ノ分ハ少々準備シ置ケ  
リ。建築ニ對スル困難ハ材木ヲ集ムルニアリ。日本ノ五里モ行ケバ材木多  
シ。馬車拂底故河ヲ利用シ、筏ニテ高力屯附近ニ下ダスコトヲ偵察中〇亞鉛  
板ハ營口ヨリ送ラル、カ。

同八日 午後七時、金子營口支庫長ヨリ遼河各兵站地へ派遣員ノ件ニ付、左ノ返  
電アリ午後九時五  
分遼陽受

答、八家子ニ一等計手本田鉞三、太灣ニ二等計手山口貢ヲ派遣シアリ。對頭灣  
ニハ未ダ派遣セズ。爲シ得レバ他ヨリ派遣セラレタシ。

是ヨリ先キ營口支庫へ計手二到着(六日)トノ報告アリ。依テ左ノ如ク電報セリ  
午後十一時二  
十分遼陽發

此度計手二名貴庫へ配屬セシハ、水路各地へ出ス必要アルガ爲メナリ。是非



都合シテ一名ヲ出サレヨ。

右ニ付、翌九日二等計手利根川熊作ヲ頭灣ニ派遣スル旨、金子支庫長ヨリ電報アリ。

四月八日 大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後九時四分 遼陽受

辻村部長へ左ノ通り電報シタリ。御承知ヲ乞フ。

小北河ニハ今米二十六日分、大麥三十四日分、麵麩二十六日分、其他副食物若干アリ。最初ノ計畫デハ之ヲ陸送スル考ナリシモ、馬三家子以北ニハ今尙ホ六日分糧秣アリ。且ツ御盡力ニヨリ關外及ビ水路輸送有望トナリタル今日ニ於テ右糧秣ヲ陸路他ニ移スハ頗ル不經濟不得策ナルニ依リ。

一 小北河附近ニアル船ヲ集メテ、之ヲ鐵嶺附近ニ水路輸送スルカ。

二 太灣迄陸路輸送シ、其後ハ貴軍ニ輸送ヲ御依頼スルカ。

三 若シ貴軍ニテ利用ノ途アラバ、過般ノ薪、粟、稗ト同様滿洲軍倉庫ニ引繼グカ。右三者ノ内一ヲ取ルノ外ナシ。一、二ハ貴軍ノ遼河輸送ニ關係アリ。三ハ滿

洲軍倉庫ニ迷惑ヲ掛ケル嫌ヒアリ。御意見承知シタシ。

右ノ件ニ付、辻村經理部長ヨリモ左ノ電報アリ八日午後三時 遼陽受

大江部長ヨリ次ノ電アリ(前項ニ同ジ)○野戰軍ノ便利ヲ計ル爲メ、過般ノ薪ト

同様貴庫遼陽支庫へ引繼グカ、又ハ太灣迄陸送シ、水路輸送ヲナスカニアレド

モ目下水路モ未ダ秩序立タザル爲メ、急ニハ實行シ難シ。就テハ貴官ヲ煩ハ

スノ外ナシト考フ。御意見承知シタシ。

依テ左ノ如ク返電ス八日午後十時 遼陽發

答、小北河ニアル第三軍ノ殘セル糧秣ハ遼陽支庫へ引取ラシム。

四月九日 金子營口支庫長ヨリ電報午前一時十分 遼陽受

品物拂底ニテ十日以後ハ糧秣ノ輸送覺束ナシ。九日モ精米ハ僅ニ三車分ア

ルノミ。止ムヲ得ズ支那米ヲ送ル。今棧橋ニアル船ハ英航薪、炭、芙蓉、炭、蹄鐵

盛航(被服、麥、炭)。

入港豫定ノモノハ金澤薪、炭、長幸炭、能登麥、江陽米、麥、伊吹米、副食ナリ。



四月九日 新民屯藤田主計へ電報午前一時五分速陽發

高力屯ノ右岸へ百坪左岸へ三百坪ノ假倉庫(雨覆代用)ト渡河用トシテ五六十艘ノ船ヲ置クハ新民屯ノミナラズ。全體ヨリ判斷シテ出張所ヲ左岸ニ置キ度故ナリ。

右ニ對スル返電午前九時三十分速陽受

高力屯出張所ノ位置ニ關シ、奉天トノ連絡及全般ノ情況上ヨリ左岸ニ選定ノ理由分リタリ○然レドモ左岸ハ地形上大工事大勞力ヲ拂ハザルベカラズ。即チ

- 一 土地低クシテ雨期ニ浸水ノ害アルト倉庫地ノ河岸ヨリ遠キコト殊ニ此間ハ雨期ニ至ラバ歩キ得ザルコト。
- 二 船着場トシテ一文ノ價值ナシ目下集合シツ、アル百餘ノ船モ皆右岸ニ集マリ一隻モ左岸ニ着カヌヲ見テモ天然上ノ便宜ハ爭フベカラズ。
- 三 左岸ニ倉庫ノ船ヲ着ケル時ハ揚陸地域狹少ナルヲ以テ勢イ第三軍ノ分

ト混淆シ受授正確ヲ失スル恐レアリ。

四 左岸ニハ村落乏シク何レモ皆遠距離ニアリ。

右ニヨリ假倉庫ハ全部右岸ニ移スカ若シクハ左ニ一、右ニ三ノ比ニ建テタシ敢テ卑見ヲ述ブ。

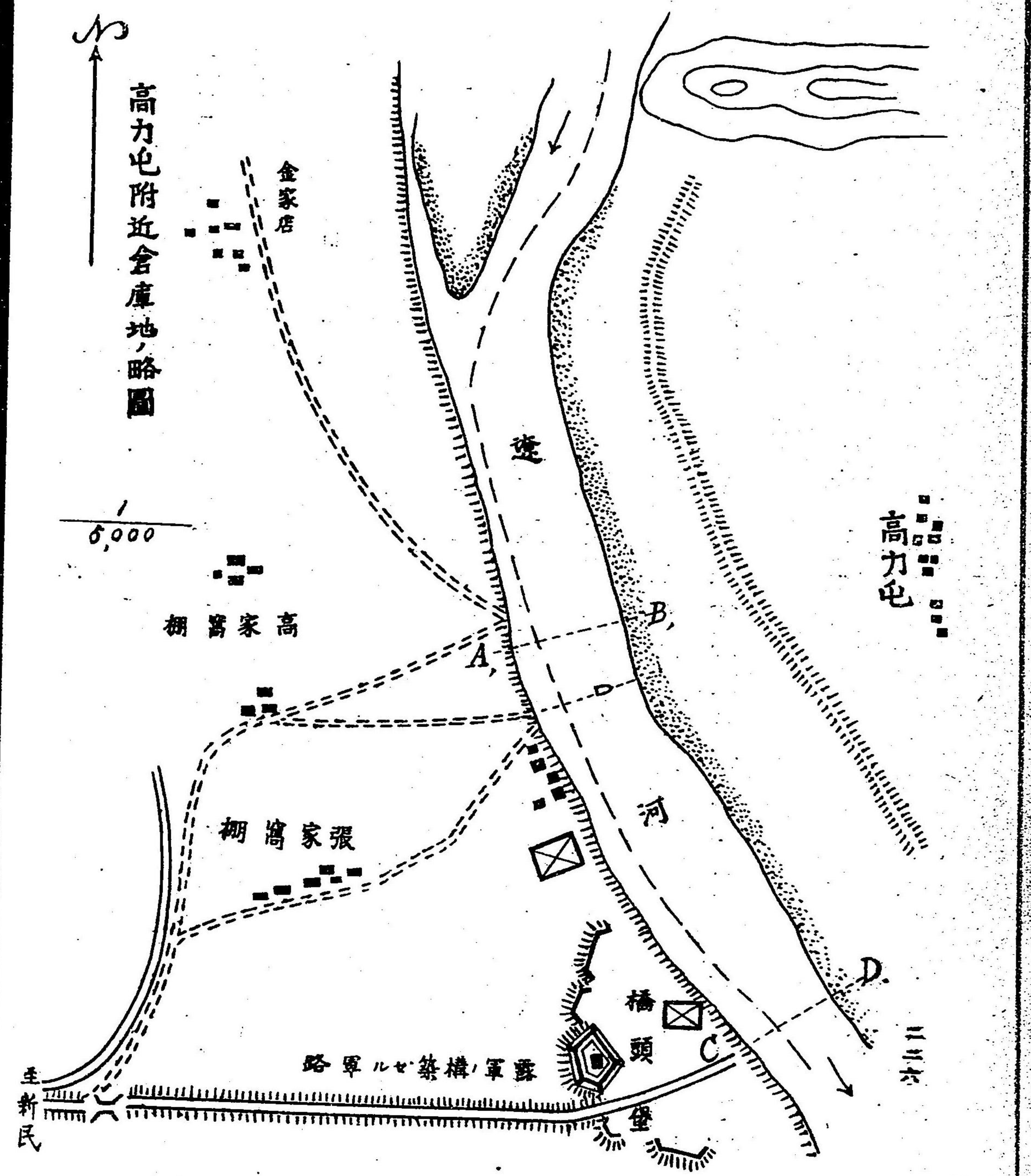
右ニ付、左ノ如ク電報ス午前十一時十五分速陽發

答、高力屯假倉庫ノ位置ハ揚陸地ト架設セラルベキ輕便鐵道ノ關係ヲ顧慮シ、右岸ニ三左岸ニ一ノ割ニテ至急建設スベシ○材料ハ有合セノモノヲ用キ成ル丈其地ニテ調辨スベシ。屋根ハ亞鉛板トシ周圍ハアンペラ等ニテ宜シカラシ○下敷ノ爲メニハ金子支庫長ト打合セ水路薪ヲ取ラバ應用シ得ベシ。同日、藤田主計ヨリ左ノ書面ニ接ス四月六日付

高力屯出張所位置ニ關スル電報今拜讀ス御指示ニ從ヒ左岸ノ地點ニ選定スルコトヲ勉ム。

但、御參考迄ニ別紙略圖ヲ呈ス





高力屯出張所ノ倉庫ヲ遶河右岸ニ設備スルヲ可トス

一 A、B、兩岸ノ比高差ハ少クモ二米、B(左岸)ハ降雨ノ時季ニ至レバ濕潤ノ害ヲ被ルナラン

Aハ比較的高燥ナルヲ以テ倉庫地ニ適ス

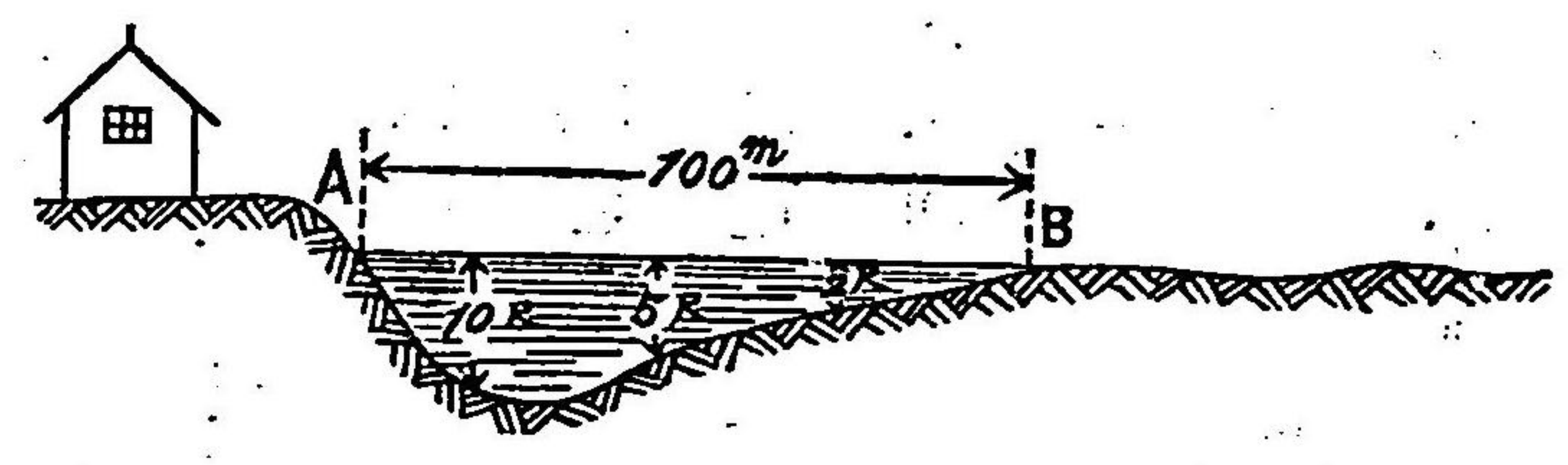
二 Aハ五十石乃至百石積ノ船ヲ河岸ニ横着ケシ得ルモBハ水深淺キ爲メ河岸ニ棧橋工事ヲ施スニアラザレバ着船困難ナリ

三 Aヨリ倉庫迄ハ四十米以内ナルモBハ倉庫迄二百米餘ノ距離ヲ有シ降雨ノ時季ニ至レバ道路浸水シ又泥濘ナルベシ

右岸ノ地ニ倉庫ヲ設クルハ中立侵害云々ノ慮アルベキモ現ニ略

圖ニ示ス如ク露軍ニテハ軍路、橋頭堡ヲ設置シアリタルヨリ見ルトキハ差支ナカルベシ

A.B附近河川ノ断面



四月五日 一等主計 藤田 順



四月九日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午前十一時四分遼陽發

文見タ。麥ト牧草試作ノ件至極同意。増田ヲ差出スカラ御使用アリタシ。

此實行ハ倉庫ヨリモ軍政署ニテヤル方適當ナラン。

同日 金子營口支庫長ヨリ電報午後零時三十分遼陽受

明日ヨリ汽車三ハ被服木炭ノ外積ムモノナシ。又關外ニテ送ル物ナシ。第

三軍兵站經理部長ノ買入レニ係ル鹽魚ヲ送ル積リ。但、同部長ノ請求アリ。

同日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後二時三十分遼陽受

清國武官陳印堂外國人ノ救院ヲ受ケ新民ヲ襲フ企圖ヲ有ス。殊ニ糧秣ニ注

意シ居ルヨシ〇歩哨ヲ増加シテ在庫品ヲ警戒ス。

右ニ付直ニ總司令部井口少將第三軍兵站參謀長遼東守備軍參謀長等へ電報シ、警戒上ニ夫々手配セラレシガ、後偵察ノ歩ヲ進メタルニ、陳ハ巡警ニシテ元ト馬賊ノ出身ナルガ、天津ニアル西洋人ノ手ヲ經テ銃ノ送付ヲ受クル模様アリトノ事ナリシモ、更ニ精探ノ結果、全ク一時ノ風説ニ過ギザルコトヲ儘メ得タリ。

同日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後三時遼陽受

高力屯出張所員トシテ計手二、輸卒三百乃至五百ノ必要アリ。配屬願ハレヌ

カ〇取敢ヘズ當拂ニテ苦力五十名ヲ雇入レ、高力屯ニ出ス。許可ヲ乞フ。

右返電午後三時三十分發

高力屯ニ計手モ輸卒モ今ハ遣リ難シ〇大本營へ請求中ノ計手ト輸卒ガ來レバ幾分カ遣ル〇苦力雇入承知ス。

同日 第二、第三、第四軍經理部長及同兵站經理部長へ電報午後三時三十分遼陽發

防寒被服ハ速ニ取纏メ成ルベク最寄ノ滿洲軍支庫若クハ出張所ニ於テ率領

班へ交付アリタシ。

又、同時ニ大本營直屬部隊へ電報。

防寒被服ハ最寄ノ滿洲軍倉庫又ハ支庫ニ返納シ、其品種員數ヲ奉天ニアル率

領班ニ通知取計ヒアリタシ。

尚ホ同伴ニ付、在鳳凰城濱名鴨綠江軍兵站經理部長へモ電報シタルニ同部長ヨ



リ左ノ返電アリ午後一時三十分遼陽受

貴電承知。當兵站諸部隊ノ防寒被服ハ安東縣へ着シタル夏服宰領班ヲ以テ内地へ還送スル様爲シ在リ。

同九日、第一軍經理部長ヨリ電報午後四時十分遼陽受

氣候及宿舍等ノ關係上ヨリ團隊ノ意見ヲ糺サレタル上、當軍司令官ハ防寒服ノ使用期限ヲ四月盡日限リト命令セラレタリ。故ニ其後ニアラザレバ還送シ難シ。此意見ハ野戰經理長官ニ報告済ミナリ。

四月九日 第二軍兵站經理部ヨリ電報。

當軍軍竝ニ兵站ニテ防寒被服ハ來ル二十日迄着用セシムルコトニ達セラレアルヲ以テ、同日以後ニ非ラザレバ取纏メル事ヲ得ズ。此旨御承知置アリタシ。尤モ已ニ兵站諸部隊ヨリ返納セシモノ當部ニ約百梱アリ。是レハ貴庫へ近日送付ス。

同九日 大連本倉庫ヨリ電報午後九時遼陽受

補缺トシテ計手一、消防機關士二、火夫四、營口支庫ノ補缺消防夫十九着イタ。

右ニ付、直ニ左ノ如ク電命セリ。

計手一ハ營口支庫附トス。○機關士以下ハ機關車着ク迄大連ニ置クコト○消

防夫十九ハ營口ニヤレ。

同時ニ金子營口支庫長へ電報。

今、大連ニ着セシ計手一、(三)等計手梶定次郎、高力屯引當トシテ貴支庫附ヲ命ゼリ。

尙ホ新民屯藤田主計へモ在ノ如ク電報ス。

高力屯引當トシテ計手一營口支庫附ヲ命ゼリ。不日貴地ニ至ルナラン○利

根川計手病氣故代リニ二等計手石原慶之助頭灣へ派遣ノ筈。

同九日 三等藥劑官横山政一郎、同安川榮次郎、大連本倉庫へ着任ス。

同九日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後十一時五分遼陽受

大江部長ヨリ三面船以北ニ多ク糧秣ヲ要スル故此地ヨリ多ク送ルコト。及



二二二  
ビ大麥ヲ多ク要スル由電アリ○麥ノコトハ金子支庫長へ電セリ。

四月十日 在開原中村二等主計ヨリ電報午前零時三十分速陽受

今(九日夜半ナラン)着イタ○今日開原停車場ノ實況ヲ見タ。粟ハ二箇所高粱五箇所ニ山ヲナシ其量粟約二千石高粱約五百石梱包シアルモノ(約二十分ノ一)モ處々ニ燒ケ穴アリ。修理セザレバ運搬シ難シ。收集整理ノ方法調べ中。下官ハ明日鐵嶺ニ行キ第十師團經理部長ニ面會協議スル積リ。

右不明ノ箇所ニハ括弧内ノ如ク推測ヲ附シ直ニ辻村經理部長へ電報セリ。

同日 大連本倉庫倉塚工學士ヨリ同地滿倉ホーム延長工事ノ件ニ付申出テアリ。依テ今泉主計正へ左ノ如ク電命セリ。

倉塚ノ手紙見タ。ホーム工事橋共大層六ツカシイコトヲスル考ヘラシイ。戦争ガ止メバ入用ハナイ。ホソノ一時デアル。六ツカシイコトハ止メテ何ンデモ早ク仕上グル様根本カラ考ヲ改メヨト傳達アレ。

同日 吉田第三軍經理部長ヨリ電報午後五分速陽受四十

目下大麥秣ノ現地調辦困難トナレリ。營口ニナケレバ大連ヨリ廻送シ水路ヨリ多量ノ輸送ヲ希望ス。

右返電午後三時三十分速陽受

大麥ト秣ノ追送承知ス。大ニ綜合セ腕ヲ振テドシ送ル御安心アレ。同時ニ金子營口支庫長へ電報。

其地ニ壓搾干草幾何アリヤ。直グ返。

右ニ對シテ左ノ返電アリ。

答、干草ハ三萬六千五百貫ナリ。

依テ更ニ左ノ如ク電命セリ。

第三軍ニ干草入用ナリ。至急水路ニテ在庫品ヲ皆送レ。

同日 金子營口支庫長ヨリ電報午後三時速陽受

只今碇泊場司令官ヨリ左ノ事ヲ聞ク○内地ヨリ來タル船五ヲ減ジテ大連營口間ニ五ヲ増スコトニ決定セリ。



尙ホ此件ニ付テ翌十一日大連本倉庫ヨリモ左ノ電報アリ。

昨日(十日)運輸通信長官ヨリ大連碇泊場司令官へ電報

○南城、金澤、芙蓉、舞子、第二永田モ大連、營口間ノ輸送ニ供スル爲メ貴官ニ專

屬ス以上午後一  
時十分受電

右搭載量ハ碇泊場ニテモ確ト分ラザルガ、二萬五千乃至三萬個積ト見テ大差

ナカラント。尙ホ司令官ノ話ニ増加船ノ初航海ハ多分營口ニ直航スルナラン。

内一艘ハ字品ヲ出帆セリト以上午後八時  
五十分受電

四月十日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後九時  
五十分受

高力屯ノ糧秣ハ右、左ニ渡シ目下現品ナシ。

馬車ハ昨今雨雪後ノ泥濘ニヨリ積載量ヲ減ズ。故ニ今マデノ一個毎ノ賃銀

ニテハ馬車ノ所得五圓ニ過ギズ。五、六頭ノ馬ヲ使用シテハ割ニ合ハヌ、ブツ

シユ、三井等總掛リデ集メツ、アルモ集メ得ザルコト事實ナリ。依テ道路ノ

良否ニ依リ、當分ノ内五割以下ニ於テ割増許可アリタシ。又時ニヨリ最大限

二倍迄ノ割増許可セラレタシ。此ノ第二ハ決シテ漫リニ實行セズ。

停車場倉庫ハ荷卸シニ便ナル如ク、成ルベク線路ニ接近シテ設クベキモ、鐵道

敷地内丈ハ避ケザルベカラズ。今、驛長ト「エンジン」ヲ訪ヒタルニ「エンジ

ニア」不在ノ爲メ明朝ノ會見ヲ約ス。是サヘ定マレバ大至急着手ス。

驛長等ニ要スル費途未定(多クハ要セズ)ナルモ豫メ許可ヲ乞フ。

右ニ對シテ左ノ如ク電報ス午後十一時  
遼陽發

答、馬車割増ノ件承知ス○關外鐵道ノ使用ハ今後極メテ少數トナス積リ。故

ニ停車場附近ノ倉庫ハ一時見合ハスコトニシテハ如何○貴官ハ一時此地ニ

來リ、代リニ米田主計ヲ貴地ニヤル答○但、驛長等ニ要スル費途ハ支出シテ差

支ナシ。

同日 金子營口支庫長へ電報午後四時  
十分遼陽發

藤田主計當方ニ必要生ジタル故、一時米田ト交代シ、遼陽ニ來ル様取計フベシ。

米田ガ新民屯ノ勝手覺エタル後、中山計手ヲ溝帮子ニ遣ルベシ。



四月十日 金子營口支庫長へ第一軍夏服揚陸ノ模様如何ト電報セシニ左ノ返電アリ午後十時五分遼陽受

第一軍ノ夏服類ハ七八ノ兩日ヲ以テ揚陸ヲ終レリ。揚陸場ノ地點狹キト、夜間ノ盜難及降雨ヲ恐レ、直ニ倉庫ニ收容シ、宰領者ト立會ヒ、各師團毎ニ區別調査セシニ、十二師團宛垂布三捆不足ス。目下取調中。

同日 金子營口支庫長へ電報午後十一時十分遼陽發

今後水路ニテハ四個師團ノ麥ト干草トヲ送レ。薪ヲモ此際送リテヨシ。

同日 金子營口支庫長ヨリ電報午後十一時四分遼陽受

本日揚陸ヲ終リタルモノハ英航、芙蓉、能登、伊吹ニシテ揚陸ヲ始メタルモノハ江陽、明日入港豫定ノモノハ、金澤(薪炭)、四國米、麥、賴朝米、麥、副食第一(大安薪炭)ナリ。

同日 午後七時三十分第三軍兵站參謀長ヨリ豫定ノ如ク貴地ヨリ日々約三日分水路ニテ發送セラレツ、アリヤトノ電報アリ。依テ左ノ如ク返電ス午後

遼陽三十分發

答、目下貴軍方面ヘノ追送ハ水路ノ外、關外線ヲモ用フ。品物ノ損敗ヲ防グ爲メ水路ニテハ副食ト麥ノ半分、米ト麥ノ半分ハ關外線ニテ送レリ。營口準備品ノ都合ニヨリ、今日迄水路ト關外線ヲ合セテ、米四個師團、麥三個師團半トナル。吉田部長ノ請求アリ。麥ト干草ヲ今後比較的多ク送ル筈。

同日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午後十一時五分遼陽發

各軍ノ夏服ハ皆營口ニ陸揚グ終リ、内六七分通り遼陽ニ着キ、第四軍兵站ノ一部へ交付始メタリ。明日第三軍兵站へ交付ノ筈○重モナルモノハ奉天へ汽車全通ノ後ニ送ル○第一へモ一兩日中ニ交付ヲ初ムル筈○第二、三、四軍ヘノ宰領ヲ防寒被服收集ノ爲メ昨朝出發師團所在地ヘ向ハシメタリ。第一軍ノ宰領ハ今營口ニ在リ○衛生ノ顧慮ヨリ第一軍ハ四月中第二軍ハ同二十日迄防寒服ヲ着用セシムル旨申來レリ。

同日 神尾遼東守備軍參謀長ヨリ左ノ通牒アリ四月八日付



着換被服及防寒被服ノ處理方左ノ通り御承知有之度

第一 夏服 夏服ハ到着ニ應ジ各部隊へ交付ス冬服トノ着換ハ各隊長ニ於テ適宜之ヲ定ムベシ。

第二 冬服 絨衣袴ハ夏服ト着換ノ後ニ於テモ各人ニ所持セシメ氣候ノ變化等ニ應ジ適宜着裝セシムベシ但、戰鬪行動其他ノ爲メ各人ニ所持セシメ難キ場合ノ取扱方ハ各部隊ニ於テ適宜定ムベシ。

冬襦袢袴下ハ洗濯手入ノ上還送スベシ但、新品ハ軍經理部ニ取纏メ滿洲軍倉庫ニ預托スベシ。

第三 防寒被服 毛皮胴着及防寒外套、毛皮外套ハ此際速ニ還送スベシ。其他ノ防寒服ニ在テモ更ニ通牒ヲ得テ直ニ還送シ得ル如ク手入及梱包準備等モ爲シ置クベシ。

第四 還送 上掲ノ還送服冬襦袢袴下、防寒外套、毛皮胴着、毛皮外套ハ最寄兵站司令部又ハ支部ニ差出シ字品貨物廠へ向ケ還送スベシ但、毛皮胴着及毛

皮外套ハ可成速ニ發送スベシ又新品冬襦袢袴下アルトキハ軍經理部へ送付スベシ。

總テ還送服ハ各部隊ニ於テ分遣隊出張員等ノ分ヲ取纏メタル上整理シテ發送スベシ但、分遣者ノ爲メ取纏メ遅延ノ恐レアルトキハ僅少ノモノハ後廻シトシ大部分ハ速ニ還送スルコトヲ計ルベシ。

第五 梱包 總テ梱包ハ最堅固ニ行ヒ木札ニ届先着部隊、品目、員數ヲ記シ之ヲ梱包ニ堅着スベシ。

各兵站司令官又ハ支部ハ梱包ノ脆弱ナルモノ及前項ノ木札ナキモノハ之ヲ受取ルベカラズ但、自然ノ解裝等ニ依ル梱包ノ不良ハ發見次第改裝スベシ。

第六 報告 還送被服ハ各部隊ニ於テ調書(品目、員數、梱包數及事故ニヨル現在品中停留品)ヲ作り發送ト同時ニ軍經理部へ送付スベシ。

第七 注意 毛皮及毛織物ハ假令如何ナル大破ノモノト雖モ還送スベシ

第八 雜 ユーラー靴、絨靴、眼鏡ハ各部隊ニ於テ取纏メ最寄兵站司令部又ハ



支部ニ預托シ第六項ニ準シ報告スベシ。

四月十一日 新民屯藤田主計ヨリ電報午前一時三分遼陽受

第三軍兵站山田參謀今日(十日)此地ニ來リ、高力屯糧秣受授ノ件、出張所倉庫ノ位置及之ニ對スル輕便鐵道敷設ノ件並ニ輕便鐵道ヲ新民屯停車場へ延長スルコトニ付協議濟ミ。下官ノ考案通リ贊成セラレタリ。但、高力屯ニ於ケル遼河ノ架橋ハ同參謀ノ言ニ依レバ一時見合ハサル、トノコト。下官ハ一通リ架橋ノ必要アル意見ヲ述べ、又竹島參謀長ニモ其旨打電ス。○井戸川、山田、下官ノ三名當地ノ配備ニ就キ協議ス。後備旅團ハ不日六里北方ニ前進シ、新民屯ニハ直接援護トシテ歩兵二個中隊ト機關砲三門ヲ附セラルコト、ナレリ。右即時、神尾守備軍參謀長へ電報セリ。

同十一日 赤石主計李石寨ヨリ歸着シ、報告シテ曰ク。

米、麥ハ送狀ト相違ナク着スルモ箱物ニ不足多シ。右ハ全ク運行途中ニテ墜落セルガ爲メナラント。

右ニ付、大連本倉庫、營口支庫へ右ノ狀況ト共ニ今後一層積込ミヲ正確ニシ、且ツ「ロツプ」ヲ十分ニ掛ケル様注意スベク電報セリ。

同十一日 新民屯藤田主計へ電報午後四時二分遼陽發

貴官ハ成ル丈至急出發此ノ地ニ來ルベシ。極メテ大略ニ各師團ノ位置ヲ調査スル爲メ奉天ヲ經テ來ルコトヲ望ム。○暹クモ十四日ニハ遼陽ニ着スルヲ要ス。○二十萬分一地圖一部貴官ニ貸與ノ件竹島參謀長へ電報シ置ケリ。○貴官ノ出發ハ米田ノ到着ヲ待ツヲ要セズ。

同十一日 大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後五時遼陽受

答(九日)ノ電報ニ對シ、防寒被服ハ遼陽、小北河、馬三家子、高力屯、三面船兵站司令部へ集積スルコトヲ命ジ置ケリ。依テ右各兵站司令部ニ於テ宰領班ニ交付セシムルコト、セバ好都合ナリ。若シ沙河子ヨリ後方ヲ閉鎖シタル場合ニハ奉天、馬三家子、高力屯ニ於テ交付セシメタシ。○野戰隊ハ直接野戰師團ヨリ宰領班へ交付スルナラン。



四月十一日 金子營口支庫長ヨリ碓泊場司令部ニテ河岸ニ輪卒等ノ湯呑場設  
ノ爲メ亞鉛板百枚讓受タシトノ協議アリ一般ノ爲メニナルコト故渡シタシ  
トノ電報アリ。依テ渡シテ然ルベシト返電セリ。

同十一日 金子營口支庫長ヨリ電報午後十一時三十分 遼陽受

本日江陽丸ヨリ米ヲ揚陸ス。四國丸(米、麥)着棧ス。明日、大連ヨリ入港豫定、日  
野丸(米、麥、副食)隆盛(米、麥、副食)○本日水路十五艘關外百八十噸、東清七百七十五  
噸送レリ。

同十一日 高力屯村岡ヨリ電報午後十二時 遼陽受

新民屯ヨリ米五日、麥二日、エキス一日、鹽二日、煉味噌三十一樽受ケ皆交付済ミ。  
右ハ同夜二時守備軍經理部長ヘ電報セリ。

同十一日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後十時五分 遼陽受

關外鐵道ノ使用減少ノコト承知○停車場附近ノ假倉庫ハ既ニ切組ヲナセシ  
モ、一時見合セ、其材料ヲ高力屯ノ分ニ廻ハス○停車場構内ニ假倉庫ヲ設クル

件ハ差支アラバ何時デモ撤去ストノ條件ニテ談判済ミ○驛長ニハ何モヤラ  
ヌ。

次デ又左ノ電アリ同夜零時五十分 遼陽受

米田午後八時着ス○電見タ。申送り終ル。明日(十一日)午前四時奉天ニ向フ

同十一日 大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後十時 遼陽受

冬襦袢、袴下アラバ二千組(在庫品ナケレバアル丈)交付ヲ乞フ。交付シ得ラル  
ルトセバ、目下井上兵站司令部ヘ出張中ノ萩原主計ヘ渡サレタシ。返待ツ。

右ニ付、二千組都合シテ萩原ニ渡スト返電セシニ更ニ左ノ電報アリ 五十二日午前  
五時四十分 遼陽受

本日(十一日)冬襦袢、袴下二千組請求セシハ防寒被服ノ返納ヲ急ギシ爲メナリ。

然ルニ軍ニ於テハ五月盡日迄毛メリヤス襦袢、袴下ヲ貸與スル趣。然ルトキ

ハ夏服ニ移ルノ時期ナレバ冬襦袢、袴下ノ必要ナキニ付、見合ハサレタシ。

四月十二日 金子營口支庫長ヨリ左ノ報告アリ。



明治三十八年四月十一日

營口支庫長 金子義友

滿洲軍倉庫長 日匹信亮殿

一 今朝義賑局ノ件ニ付與倉中佐ト協議ノ結果左ノ如クニ候。

い 輸送主事

是レハ搗精所即チ東生怡油房主人ニシテ營口ニテハ信用アルモノナリ萬事與倉中佐ヨリ密カニ意ヲ合メ置クコト。

ろ 宣言書及義賑局設置案ヲ軍政署ニテ清譯シ置クコト。

は 袁總督ヲ名譽主事ニ推薦スルコト。

是レハ二三日内ニ與倉中佐守備軍司令部へ出頭スル故内議スルトノコトナリ。

二 今ハ汽車ノ使用圓滑ニ實行セラレアリ昨日溝帮子及營口ノ驛長與倉中佐ヲ訪ヒ日本軍ノ爲メ如何様ニモ取計フ事ヲ申居リシ趣ナリ但支那人ノ事故

當テニハナラズ矢張り油ヲ頂戴シタイ位ノコトナラン。

三 平糶法ノ實行ハ時機ヲ見テスルコト、シ西貢米賣却實行セラル、ニ至ラバ「ブツシユ」一手ニ實行セシメテハ如何後日與倉中佐ト相談ノ時ノ腹ニナル故御内意ヲ漏サレタシ。

四 東生怡油房ノ土地建物ノ持主葉ガ之レヲ抵當ニ六拾萬圓ヲ獨逸人ヨリ借入ル、ト與倉中佐ヨリ聞ケリ但搗精所ノ作業ヲ妨害スルガ如キコトナシ條約書中ニ特ニ此事ヲ明記セシメ三通ヲ作り一通ヲ軍政署ニ保管スルコトニナリ居レリ條約書ハ成立ノ上一見スル積リ。

以上

四月十二日 每田柳樹屯支庫長ヨリ電報午後九時 遼陽受

十二日揚陸丹波丸米四千五百石、副食九千三百十七貫、仁川丸麥四千二百四石、干草七千四百十貫。

芙蓉丸ニ米千五百石、麥四千二百石、副食一萬二千五百三十貫搭載、營口へ輸送



ス。

四月十二日 在前心臺子藤田主計ヨリ電報午後九時五分遼陽受

午後二時前心臺子ニ着ク○用事濟ミタルヲ以テ直グ奉天ニ行ク○大江部長軍ニ行キテ不在○明日右翼軍ヲ調査ス。

同十二日 奉天ヨリ又左ノ電報アリ。

今(九時)奉天ニ着ク○輕便鐵道ハ奉天ヨリ大石橋ノ西千米突迄又馬三家子ヨリ老邊ノ東二千米突迄今日完成。三、四日中ニ奉天ト老邊間完成スルト。

四月十三日 蘇家屯赤石主計ヘ電報正午遼陽發

昨日午後五時半遼陽發ニテ第四軍行夏服千二百五十三捆、中村庫手ト高作輸卒ヲ附シテ送レリ。第四軍蘇家屯司令官ヘ交付シ、同官ノ受領書ヲ兩人ノ内ニ持タセテ遼陽ヘ返スベシ。本日又午後五時三十分發ニテ送ル故豫メ準備アレ。

同十三日 第三軍兵站參謀長ヨリ電報午後二時遼陽受

山田參謀歸リ貴倉庫ト關係ヲ有スル件、新民軍務官及藤田組等ト協議ノ上左ノ如ク決定シ來レリ。

當軍ニ屬スル高力屯兵站司令部ニ於テ計八十艘ノ船ヲ運轉シ、其殘餘ハ悉ク對頭灣兵站司令部ニ渡ス○遼河ハ架橋セズ。門橋一個ノ各個渡シ一箇所ヲ增加ス。滿洲軍倉庫ノ位置ヨリ新民ニ通ズル街道上ノ上流ヨリ架橋セシム○新民停車場北方ヨリ高力屯渡場迄輕便鐵道ヲ敷設スルコトニセリ○船ヲ徵收シ、若クハ水路輸送ヲ爲ス商人一ツモナシ○新民直接援護ノ爲メ大隊本部及ビ步兵第一中隊機關砲四門ヲ配置ス○神尾參謀長ヘハ通知濟ミ。右ハ即日、金子營口支庫長ヘ電報セリ。

同十三日 夏服交付ノ件ニ付、左ノ如ク電報ス午後五時十分遼陽發

黒川第四軍經理部長宛

夏服○六師團行六百四捆、十師團行六百四十九捆、昨日貴軍蘇家屯兵站ヘ渡シ濟ミ。本日軍行キ千百十捆、十師團行二百三十一捆同兵站ヘ渡ス筈。後ハ大



抵十四、十五ノ兩日ニ渡シ終ル見込ミ○兵站行五十八梱去ル七日稻生主計へ、  
十師團行キ百十四梱、十一日貴軍遼陽兵站へ渡シ濟ミ。念ノ爲メ。

吉田第三軍經理部長宛

大江第三軍兵站經理部長宛

左ノ夏服兵站ノ萩原主計へ渡シ濟ミ○十一日兵站行百四十梱、十二日千六百  
二十八梱本日軍行キ四百四十七梱ト九師團行キ五百六梱○後ハ三日間ニ渡  
シ終ル見込ミ。

辻村遼東守備軍經理部長宛

夏服○第三軍ト第四軍へハ約半分渡シ濟ミ。此ノ二個軍ノ残りハ四日間ニ  
渡シ終ル見込ミ○第二軍ノ分ハ汽車全通後奉天ニテ渡ス筈○第一軍ノ分ハ  
營口ヨリ遼陽ニ今輸送中。同軍行キ宰領班ハ本日李石寨ヲ經テ師團ノ所在  
地ニ行ケリ。

四月十三日 大野宇品貨物廠長へ電報午後四時十分發

夏服ハ皆營口ニテ受領、第二、三、四軍ノ分ハ皆遼陽ニ着キ○第三軍ノ半分ハ遼  
陽ニテ、第四軍ノ半分ハ蘇家屯ニテ渡シ濟ミ○残りハ二、三日中ニ渡シ終ル見  
込ミ○第二軍ノ分ハ汽車全通後奉天ニテ渡ス筈○第一軍ノ分ハ營口ヨリ遼  
陽へ今輸送中○還送被服ノ取纏メノ爲メ第二、三、四軍ノ宰領班ハ去九日、第一  
軍ノハ本日遼陽發師團所在地へ向ハシメタリ。

同十三日 金子營口支庫長ヨリ電報午後七時遼陽受

今、本城少佐ヨリ聞クトコロニ依レバ來月上旬ヨリ大連、營口間ノ船ヲ二十五  
艘ニ増ストノコトナリ。輸卒隊今一隊是非配屬アリタシ。又村岡主計職務  
ヨリ左ノ電アリ。共ニ御詮議アリタシ。

水路輸送遂次到着ス。輸卒ノ不足ヲ感ズ。苦力ハ目下募集ノ見込ミナシ。  
少ナクトモ二個小隊ヲ分遣セラレ度御詮議ヲ乞フ。

同十三日 大連本倉庫ヨリ電報午後二時遼陽受

鐵道提理部ヨリ左ノ電話アリ○二十日以後營口發車ヲ百五十以上、大連發車



ヲ百五十以下ニ改正スル積リナルモ、差支ナキカト。

右返電午後七時五十分遼陽發

左ノ如ク提理部ニ答ヘヨ○營口ニテハ未ダ積荷ノ準備出來ザル故、貨車ノ配當ヲ現在ノ如クナシ置カレタシ。(四月第一旬毎日平均大連百五十車、營口ニ百二十車)○準備出來タル時ハ當方ヨリ提理部へ申出ヅルコトヲ怠ラズト。右ニ對シ、同日午後十一時提理部ニテ成ルベク其通リニ爲シ置クベシト答ヘタル旨返電アリ。

四月十三日 大石橋派出所ヨリ電報午後十時遼陽受

他山浦附近線路故障ノ爲メ、汽車不通ニ付、糧秣三十貨車ヲ今卸シタ○其品目、米、麥、挽割、鯖鱈、福神漬、食鹽、茶、砂糖、エキス、高野蕨、粉味噌ナリ。

同十三日 在奉天支庫藤田主計ヨリ電報午後十一時遼陽受

今各師團ノ位置概略調査済ム。明日歸ル。

四月十四日 新民屯米田主計ヨリ電報午前二時二十分遼陽受

當地方税金ト營口當地間汽車運賃、乘車賃ハ總テ軍用手票ヲ通用セシムベク、談判ノ爲メ、明日ハ當地ニ在ル兒玉書記官ト共ニ支那官吏ニ會見ス○結果ハ直グ電報ス。

次デ又左ノ電報アリ午後五時三十分遼陽受

當停車場ニテ汽車ノ運賃ト乘車賃ハ軍票ヲ受取ルコトニ只今驛長ト話纏マリ、明日ヨリ實行スルコト、ナレリ○此運動ノ爲メニ來リシ兒玉書記官ト下官ハ直接驛長ニ面會セズ。内密ニ談判シタルモノナリ。書記官ノ功勞ヲ感謝ス○營口停車場デハ昨日ヨリ軍票ヲ受取ルコト、ナレリ。

右二回トモ其都度辻村經理部長へ電報セリ。

同十四日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午前十時遼陽發

防寒服着用期限各軍一定セズ。率領班ガ纏メテ歸ルニハ六月カラ七月マデ掛ルナラン。各軍ノ率領班ヲ合セバ主計十二、計手十二アリ。此人員ヲ數箇月留メ置キ、又間モナク冬服ノ爲メニ同様ノ筆法デ率領班ヲ派遣セラル、デ



アラウ。斯ノ如キハ人員經濟上不利益甚ダシ。被服ノ扱ヒハ倉庫當然ノ業務ナラン。故ニ爲シ得レバ右ノ内三分ノ一乃至四分ノ一ノ人員ヲ我倉庫附トシテ殘シ、其他ハ此際悉皆本所屬ニ復歸セシムレバ、軍國多事ノ際利益尠ナカラズト思フ。但、殘ス人員ハ被服事務専門ノモノナルヲ要ス。○返待ツ。

尙ホ同時ニ辻村經理部長ヘ左ノ書面ヲ送付ス。  
各軍ノ被服率領人員ノ三分一ヲ殘シ、其他ハ速カニ本屬ヘ歸還セシメラレ度コト。

追送被服ハ滿洲軍ノ分ハ皆營口ニテ倉庫ニ受取リタル故率領ノ仕事ハ防塞服ヲ集メテ歸ルニアリ。此防塞服ヲ集メテ歸ル仕事ニ付テ研究スレバ

第一軍ハ四月末迄各兵ニ着用セシメラルベキ軍司令官ノ命令ナリ。

第二軍ハ四月二十日迄同様。

第三軍ハ防塞襦袢袴下ニ限ツテ五月盡日迄同様。

第四軍ノコトハ未ダ何ニモ聞カザルモ右等ト大同小異ナラン。

右ニヨリ判斷セバ各兵ヨリ防塞服ヲ離サル、時期ハ本月下旬ニ始リ五月末ニ終ル。故ニ之ヲ集メテ倉庫ノ補給線ニ出ルハ五月始メヨリ六月ニ至ルモノト見ザルベカラズ。萬一各軍ノ位置ニシテ此間ニ移動アラシカ、更ニ時日ヲ遷延スルニ至ルヤモ知ルベカラズ。倉庫線ヘ出デタル後ニテモ亦多少ノ日數ヲ要ス。故ニ率領班ガ任務ヲ終ヘテ各其本所屬部隊ヘ歸ルハ六月初ヨリ七月ニ至ル間ニアルモノト見ザルベカラズ。軍國多事ノ間ニ於テ此多人數ヲ左程ノ必要モナキコトニ留メ置クハ人員經濟上不利益甚シキモノト謂ハザルベカラズ。

防塞服ヲ集メ歸ツテ間モナク九月ヨリハ冬服及十月ニハ防塞服ヲ又候率領シテ來ラザルベカラズトセバ多數ノ人ヲ無益ニ勞セシムル次第ニシテ見ルニ忍ビザル所ニ候、故ニ本職ハ其人員ノ三分一又ハ四分一ノ人員ヲ我倉庫員トシテ附屬セシメラルレバ率領班ヨリハ一層正確ニ又一層區域廣ク戰地ノ被服業務ヲ長官ノ意圖ノ如ク實行シ得ル事ヲ明言シテ憚ラザル次第ニ候打



明ケテ申セバ率領班ガ一人モ來ラズトモ夏服ノ交付ト防寒服ノ還送トハ倉庫ニテ出來ル併シ本職ノ望ム所ハ只此度ノ夏服ノミナラズ被服全般カラ申セバマダ各兵站部等ニモイロイロ不整頓ニ爲ツテアルモノハアルラシイ今少シク隅カラ隅迄手ヲ廻スニハ若干名ヲ別ニ倉庫ニ附ケラルレバ極メテ好都合ナル故ニ候又殘シテ倉庫ヘ附ケラル、トセバ其人員ハ成丈ケ被服ノ仕事ニ熟練シタルモノタルヲ要スル事ハ申上ル迄モナシ。

隊附ニ適スルモノハ隊附トシ、金櫃事務ニ熟セルモノハ金櫃部ニ置キ被服ニ慣レシモノハ被服ノ事ニ使用セラル、ハ當然ニシテ又多言ヲ要セズト存候此度率領班トシテ來リシ人員ハ一、二、三、四軍各、ニ主計三、計手(代用)三、故ニ各軍總計

主計十二 計手又ハ代用十二

總計二十四人

ト相成居候此内主計三又ハ四、

計手三又ハ四

丈ケ倉庫ヘ附ケテ、防寒服ノ還送ノミナラズ、アラユル戰地ノ被服事務ヲ扱ハ

シメ、又本秋冬服ト防寒服追送ノ際ノ面倒ヲ防グ事ニ相成ルベク、而シテ他ノ多數ノ主計ト計手ハ多忙ナル處ノ各本所屬ヘ急ギ還サル、様ニセラル、コソ彼我ノ便利ト存ゼラル、故、速ニ御同意下サレテ其筋ヘ御掛合願上候

四月十三日夜

遼陽ニテ

日

匹

辻村部長殿

四月十四日 辻村部長ヨリ左ノ返電アリ午後三時三十分遼陽受

答御來電ノ趣ハ同意スルトコロナルヲ以テ其筋ヘ伺ヒ中ニ付、裁定ヲ得次第  
確答ス。

而シテ同十八日ニ至リ左ノ電報アリ午後六時十分遼陽受

夏服ノ率領者使用ノ件左ノ通經理長官ヨリ來電アリタルニ付御承知アリタシ。

率領班ハ經理部所在地ニ派出シ當該任務ニ服セシメヨ。

同十四日 三等主計米田寬ハ常ニ單獨溝幫子ニ在リテ英清兩國人タル鐵道職



員等ノ間ニ折衝シ我ガ輸送ノ圓滑ヲ圖ルヲ任トセルニ其公務執掌ノ間又屢有  
益ナル報告ヲ致セリ。左ニ記スルトコロノモノ亦主計ガ關外鐵道ノ狀況ヲ極  
メテ簡單ニ顯ハサントセルニ外ナラズ。今其一ヲ送り來レリ。即チ削正ヲ加  
ヘズシテ其儘轉寫セシメ辻村遼東守備軍經理部長其他關係ノ向々へ各一部ヲ  
送付セリ。

明治三十八年四月十日

於溝帮子

米

田

主

計

日匹滿洲軍倉庫長殿

### 關外鐵道報告 其一

位置、距離、關外鐵道ハ山海關ヲ起點トシ營口ニ到ル二百一十一哩(山海關―溝  
帮子百五十四哩、溝帮子―營口五十七哩)其中間驛ナル溝帮子ヨリ岐レテ新民  
屯ニ到ル七十哩ヲ合シテ二百八十一哩ナリ。  
所屬、關内鐵道ト共ニ清國政府山海關内外鐵路總局ノ官營ニシテ即チ官線  
ナリ。

貨物運搬ノ概況 此鐵道ハ遼河ノ解氷期ト否トニ拘ハラズ關内ヨリノ貨物  
ヲ(營口ニハ左程ノ關係ヲ有セス)新民屯以北ノ供給ニ應ズルガ爲メ新民屯ニ  
運搬スルヲ專業トナスガ如シ即チ天津、秦皇島ニテ輸入スル木綿、紡績糸、石油、  
洋蠟、マツチ、食料品、雜貨等竝ニ豐臺、蘆臺、昌邑、開平ノ地方ヨリ産出セル「アンペ  
ラ」石炭、豕、鶏、鶏卵、白菜等ハ日々新民屯ニ向ヒ貨物列車ノ六、七分ハ之ガ運搬ヲ  
爲シツ、アリ。

残りノ三、四分ヲ以テ關内地方及寧遠州、錦州、高橋地方ヨリ産出スル黍、大豆、梨、  
鶏、鶏卵、豕、食鹽等ヲ營口ニ送り營口ヨリ出ヅル貨物ハ主トシテ雜貨ニシテ之  
亦多ク新民屯ニ向フモノナリ。

右ノ如ク貨物ハ關内ヨリ輸出スルノ一方ニシテ一旦新民屯ニ集中ノ後北方  
各地ニ散ジ去ルノ情況ナリ而シテ關内ニ輸入スル貨物ハ絶無ト云フベシ。  
山海關貨物通過ノ模様

其一 我軍奉天占領以前即チ昨年十二月及本年一月ノ頃露軍ニ向ケ戰時禁



制品ヲ送り出スモノアリタルヲ以テ我山海關駐屯隊ニテハ嚴重ニ検査ヲ爲シタルモ占領後ノ今日ハ之ニ反シテ日本人ノ貨物ニ對シ駐屯露軍ヨリ苦情ヲ驛長ニ持掛クルノ有様トナレリ。

其二 山海關驛ハ日露兩國ノミナラズ各國軍ヨリツ、カレタル結果一般貨物ノ通過ハ頗ル困難トナリ一々検査ヲ爲シタル上ナラデハ錦州以東ニ運搬ヲ許サザルヲ以テ新民屯或ハ營口ニ送ラントスルモノハ更ニ錦州ニ於テ切符ヲ購入セザルベカラズ。

過秤 本年二月上旬山海關停車場ニ備附ケタルモノニシテ「レール」附秤ナリ貨車共ニ計ルコトヲ得頗ル便利ナル検査器ナリ。

我軍(山海關駐屯日本憲兵)ニテ差押エタル敵軍需品左ノ如シ。

一月二十八日	米	一八〇噸
同 二十九日	米	二〇噸
同 三十日	米	一四〇噸

同 三十一日

米	六〇包
麥	六〇噸
麥	四〇包
米	二〇噸
麥	六〇噸

二月一日

山海關駐屯各國兵數

露約七〇 佛約一二〇 獨約一三〇 印度約二〇〇 伊約五〇

山海關停車場内ニ於ケル列國兵 露、獨、佛兵共三、四名宛列車ノ發着都度場内ニ出張シ旅客貨物ヲ見巡リツ、アリ。

我糧秣山海關通過ニ就テノ卑見 關内外鐵道ニテ運搬シツ、アル小麥、黍、玉蜀黍、穀、小豆、大豆、食鹽ハ殆ンド同形ノ麻袋ニ容レアルヲ以テ清人ト雖モ識別シ難シ依テ我米、麥ヲ右ト同様ノ麻袋ニ收メ搭載セバ列國兵ハ之ヲ鑑別シ得ズ一方ニ於テ日本黨ト稱セラル、停車場監督英人ノ有名ナル Forly 以下ヲ買



收セバ案外容易ナラント信ズ。

山海關ヨリ溝帮子ニ至ル各驛。

前所 Chien-so

前衛 Chien-wei

中後所 Chun-ho-so

寧遠州 Ning-yuen-chow 農産物ヲ出ス。

連山 Lien-shan 鐵路修繕ノ石材ヲ出ス。

錦州 Chin-chow 豕馬、農産物ヲ出ス。

高橋 Kao-chiao 海岸ニハ鹽田アリ。

大凌河 To-ling-ho

石山站 Shih-shan-chan

馬匹ノ關門通過 馬匹ノ關内ヲ出ヅル事ハ絶對的不可能ナリシモ我軍營口  
占領以來今日迄千餘頭ヲ購求シ關門ヲ通過セシメタルモノアリ其方法ハ夜

陰ニ乗ジ城壁破壊ノ箇所ヨリ牽キ出シ前所若クハ前衛ヨリ容易ク塔載スル  
事ヲ得タルニ依ル。

溝帮子ヨリ新民屯マデノ驛名。

青堆子 Ching-tui-tzu

高山子 Kao-shan-tzu

打虎山 Ta-hu-shan

厲家窩棚 Li-cha-wo-peng

繞陽河 Yao-yang-ho

白旗堡 Pao-chi-pu

新民屯 Shin-min-tun

軌道車體 軌道ハ廣軌ニシテ單線ナリ貨車、客車共ニ「ボギー」式ニシテ所謂四  
軸車ナリ此四軸車ト稱スルハ二軸ツツ前後ニアリテ其各二軸ノ中央ニハ一  
本ノ支柱アリ前後ノ二柱ヲ以テ車體ヲ支フル事恰モ馬車ノ(内地ニアル箱馬



車、幌馬車ヲ云フ前輪ノ左右ニ廻轉シ得ラル、ガ如クナルヲ以テカノ長キ車輛  
ガ如何ニ「レール」ノ灣曲ノ箇所ニテモ自由ニ進行スルノミナラズ二重ノ「パネ」  
ヲ有スルヲ以テ車體ノ動搖ハ隨テ少シ(但、十噸貨車ハ二軸車ナリ)  
之レガ爲メ貨車進行中ニ生ズル貨物墜落ノ危險尠ナキガ故ニ内地ニ於ケル  
ガ如ク多ク「ロツプ」ヲ使用シアルヲ見ズ。

貨車 主トシテ無蓋二十噸貨車ヲ使用シ十噸車ハ此補助トシテ約半數アリ  
此外少數ノ三十噸車、有蓋車、冢車ヲ使用ス冢車ハ中央ヲ仕切りテ上層下層ト  
ナシ一車百頭ヲ搭載シ得。

四月十四日 金子營口支庫長ヨリ電報午前九時十分 遼陽受

大江部長ヨリ左ノ電アリ。送付シテヨキカ。

野戰部隊ハ生野菜缺乏シアリ。貴地ヨリ若干送付ヲ受クレバ幸ナリ。

又同部長ヨリ加給品ノ請求アリ。船ニテ送り差支ナキカ。

右ニ對シ、左ノ如ク電報ス午後十時遼陽發

第三軍請求ノ加給品ヲ船ニテ送ルトキハ第一、急ノ間ニ合ハズ。第二、途中ニ  
テ損敗ノ憂多シ。故ニ爲シ得レバ關外鐵道ニテ送ルコトヲ計ルベシ。

野菜ハ新民屯ニテ購買セシムル方利益ナラン。其譯ハ第一、急ノ間ニ合ハズ。  
第二、營口へ集メルト同資源ノモノガ新民屯ニ集マルモノトスレバ運賃ノ幾  
分ヲ減ズル利益アリト思フ。故ニ米田ニ電報シ置ケリ。

同時ニ新民屯米田主計へ電報。

大江部長ヨリ生野菜送付ノ請求アリ。貴地ニテ買求メ、高力屯ニテ交付ノ取  
計ヒアレ○買入レニ着手セバ、予ト金子へ電報セヨ。

新民屯ニテハ本日ヨリ、營口ニテハ昨日ヨリ、税金、汽車賃共銀票ヲ用キルコト  
ニ談判濟ノ件、三井、ブツシユ等へ通報アレ。

同十四日 金子營口支庫長ヨリ電報午前九時十分 遼陽受

昨今當支庫ニテ使用スル汽車ハ遼陽以北ニ直通ノモノ多クシテ被服ヲ送ル  
ニ不便ナリ。被服ハ早ク送ル必要アラン。遼陽止マリノ列車向ケラレタシ。



右返電 午後十時  
遼陽發

第四軍ノ殘リノ夏服ト第一軍ノ夏服ハ糧秣貨車ヲ綜合セテ至急此地へ送付アレ。

四月十四日 午前十時三十五分大連本倉庫ヨリ「蒸汽ポンプ二臺着」トノ電報アリ。依テ一臺ヲ柳樹屯へ一臺ヲ營口へ送付スベキ旨電命シ、同時ニ金子營口、毎田柳樹屯支庫長へ左ノ如ク電報セリ午後八時遼陽發

蒸汽ポンプ一臺大連ヨリ其支庫へ送ル筈。着セバ直ニ試験ヲ爲シ、成績報告アレ。

尙ホ陸軍省經理局小暮主計正へ左ノ如ク電報セリ午後八時遼陽發

蒸汽ポンプ二臺着ク是レニテ都合三臺トナル。初メノ一臺ハ成績甚ダ宜シク御禮ヲ申ス。後ノ二臺ノ中一臺ヲ柳樹屯へ、一臺ヲ營口ニ備フ試験ノ上成績通報ス○最初ノ申請ハ六臺ノ筈ナリ。残り三臺モ尙ホ盡力アリタシ○大連倉庫用電燈ノ變壓器ハ海軍ノ方デ都合付イタ。他ノ機具一切ヲ至急送付

取計ハレタシ○返待ツ。

右返電 十五日午後三時  
遼陽受

蒸汽「ポンプ」製造ニ時日ヲ要ス。依テ三臺トシ、其不足ハ一號手押「ポンプ」五臺ト「コウハンポンプ」七臺ニテ代用スルコト、シ、送付濟ミ○電燈器具ハ今詮議中。決定マデニハ尙ホ時日ヲ要スルナラン。

同十四日 野戰經理長官へ電報午後三時遼陽發

昨年秋申出デ置キタル大連滿洲軍倉庫地ニ設備スベキ電燈諸器ノ中變壓器ハ大連海軍防備隊ニテ都合ツキタル故、其他ノ諸器具ヲ至急送付セシメラレタシ○返待ツ。

右返電 十六日正  
遼陽受

電燈ノ件守備軍司令官へ申請セヨ(委細郵便)

同十四日 金子營口支庫長へ電報午後三時遼陽發

支那米賣却ノ件如何ナリシヤ「ブツ」ニ掛合ヒ返電アレ。



右返電<sup>午後五時三十分</sup>遼陽受

答奉天ニ行キタル「ブツシユ」ノ使晝歸レリ。賣行十分ニ在ル見込ミ、委細後ヨリ。  
四月十四日 大連本倉庫へ電報<sup>午後三時四十分</sup>遼陽發

割麥ノ件ニ付其筋へ申立ツル考へナル故調査ノ次第ヲ直グ電報セヨ○電燈  
諸器具ノ件ハ經理長官へ電報シ置ケリ。

右返電<sup>午後十二時</sup>遼陽受

割麥ヲ検査セシメシニ概シテ少量ノ砂混入ス。就中大阪東區内平野町二丁目七番地松尾平次郎納メ分稍多キヲ認ム。右ノ砂ハ淡褐色細小ノ砂ニテ搗精粉又ハ石臼ノ碎ケシ細片及乾燥ノ際混入セル細砂ナラント認ム。

依テ更ニ左ノ如ク電報ス<sup>同夜一時十分</sup>遼陽發

割麥ノ検査法稍不確實ナルガ如シ。砂ノ多少ハ分拆法ニヨルベシ。又品質爲シ得レバ產地ノ鑑定等ノ當リヲ附ケテ電報アレ。

右割麥検査ノ結果ニ就テハ後左ノ報告アリ。

### 挽割麥試驗報告

陸軍三等藥劑官 横山政一郎

一 本試験ノ要旨ハ麥飯ハ常ニ砂ヲ混ジ咀嚼ノ際甚ダ不快ヲ感ズ是レ搗精ヲ速カナラシメン爲メ砂ヲ混ジタルニ原因スルハ殆ンド疑ナキガ如シト雖尙ホ其含量ヲ検査シ以テ矯弊ノ資ニ供セントスルニアリ。

二 前項ノ要旨ニ副ハンガ爲メニハ左ノ試験ヲ行フヲ要ス。

A 顯微鏡的検査ヲ行フコト。

毎種三回ノ鏡檢ヲ行ヒタルニ其成績ハ備考ニ記スルガ如シ。

B 檢體ヲ咀嚼シテ其狀況ヲ檢スルコト。

檢體ヲ取り通常ノ如ク洗淘シテ之ヲ炊キ咀嚼ヲ試ミシニ其成績備考ニ記スルガ如シ。

C 檢體其儘ノモノ一定量ヲ取り學術上所定ノ方法ニ依リ灰分量及砂ノ全量ヲ定量スルコト。



D 檢體ヲ通常炊爨ノ際ニ於ケル如ク洗洵シタルモノニ就テ灰分量及砂ノ全量ヲ定量スルコト。

E 前項ノ試験ニ於テ成績量ヲ標準含量ニ比較判斷スルヲ要ス。

茲ニ標準含量ト云フハ檢體ト同產地ニ生ジタル同種ノ正品數百ニ就テ試験ヲ行ヒ其得量ヲ平均シ得タル數是ナリ然ルニ此ノ標準含量ヲ得ルコト容易ノ業ニ非ラザルノミナラズ檢體ノ產地モ亦明カナラズ故ニ已ムコトナクンバ學者ノ發表シタル或大麥ノ試験成績ニ對照スルトセンカ戰地參考書籍ニ乏シキヲ遺憾トス。

四 前項Eニ記スルガ如クナルニ依リ砂ノ混否如何ハ左ノ範圍ニ於テ判斷セザルヲ得ザルニ至レリ。

1 顯微鏡下ノ所見ニ因ルコト。

2 咀嚼上砂ヲ感ズルコト。

3 前項Dノ試験ニ於テ得タル成績ヲCノ試験ノ成績ト對照シ其差ハ主

トシテ器械的混砂ノ汰去ニ因ルコト。

4 灰分過多ノ感アルコト。

五 前述ノ如クナルヲ以テ混入シタル砂量ヲ數字のニ表示シテ判斷ヲ下スハ困難ナルモ器械的混砂アルコトハ殆ンド疑ヒラ容レズ。

挽割麥試験成績表

納人	檢體其儘		洗洵シタルモノ		備考
	灰分%	灰分中砂量%	灰分%	灰分中砂量%	
⊕ 合名會社大矢組	二、四九五	一、〇二五	二、三九一	〇、九二二	多 咀嚼上感觸 ヲ感ジ不快
園 横井慶次郎	二、二九八	一、三〇三	二、一九八	一、五〇五	多 同上甚シ
今 今田安次郎	二、五九一	一、二九〇	二、〇八一	〇、九一三	多 咀嚼上感觸 ヲ感ジ不快
⊕ 妹尾万次郎	二、五九〇	一、〇七二	二、二七〇	〇、八八一	多 稍弱シ
松尾平次郎	二、三三三	九、〇八一	二、二六三	〇、八三〇	多 同上
⊕ 大坂製粉株式會社	二、三三三	一〇、六七三	二、二二二	〇、九〇四	多 咀嚼上感觸 ヲ感ジ不快



砂量比較

檢體其儘		洗滌シタ ルモノノ	差	檢體其儘		洗滌シタ ルモノノ	差
a	一一〇、三三三	〇、九六一	一〇〇、六六二	d	一〇、八二〇	〇、九八一	九、八九二
b	一三、一九七	一、六三七	一一、五六〇	e	九、二二六	〇、八九五	八、二三二
c	一一、二二五	〇、九三三	一〇、二九三	f	一〇、七二四	〇、九〇九	九、八〇五

此検査報告ニ就テハ四月第二旬糧秣業務旬報ニ於テ左ノ如ク報告セリ。

追送ノ割麥ハ概ネ早搗粉又ハ石粉ヲ混シアリ製造家ガ時間ヲ省ク爲メト及外觀ヲ裝フ爲メニスノ如キモノヲ混入セシ次第ニシテ之ヲ我陸軍ノ給養品ニ充ツルハ頗ル不適當ノコト、ス故ニ今後ノ追送品ニハ決シテ斯ノ如キモノヲ送リ來タラザルコトヲ希望ス即チ別紙(前記)當倉庫附藥劑官ノ試験報告表ヲ添付ス。

四月十四日 大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後五時五分遼陽受

當兵站戰鬪序列以外ニ補助輸卒隊八隊第三軍附屬トシテ内地ヨリ到着セリ。

之ニ要スル夏服請求未濟ナリ。約四千人分貴庫ニ在庫品アリヤ。返待ツ。

右返電午後六時遼陽發

答、夏服ノ追送方法窮屈過ギテ少シモ融通ノ途ナシ。貴官ヨリ至急經理長官ヘ請求アレ。

同十四日 午後三時、藤田主計遼陽ヘ來着セリ。

同十四日 第一、二、三、四軍及同兵站經理部長(第一軍兵站)ハ電話電報午後八時遼陽發

發

倉庫ニハ銕ノ罐詰多數アリ。貴軍兵站ヘ追送シテヨキカ。若シ御不同意ナラバ還送シテ内地ノ軍隊ノ給養ニ宛テラル、ヨリ外ニ仕方ナシト思フ。御意見承知シタシ

右ニ對スル吉田第三軍經理部長ノ返電一時五十分遼陽午前十

答、銕罐ハ一般ニ希望少ナキヲ以テ無駄ニナル傾キアリ。寧ロ還送セラル、ヲ適當ト考フ。但シ當軍ニ對スル一日分ノ量丈ハ殘シ置カレタシ。



同、黒川第四軍經理部長ノ返電時四十分 午前十時受一

答、鮭ノ罐詰○給養品ニ充テ難シ。内地へ還送ヲ望ム。

同、大江第三軍兵站經理部長ノ返電時三十分 午後零時受

今ノ景況ニテハ當軍ノ一日分位給養シテ差支ナシ。

同、片山第二軍經理部長ノ返電時二十分 午後三時受

答、鮭罐詰ハ一番兵卒ノ嗜好ニ適セザレドモ一句ニ一回乃至二回ハ給養ニ充

ツベキニ付漸次其割合ニテ當軍兵站ニ交付セラル、ハ妨ゲナシ。

同、木村第二軍兵站經理部長ノ返電時四十分 午後三時受

答、鮭罐詰ノ事ハ軍經理部ヨリ回答スル故同様ニ御承知アリタシ。

同、關本第一軍經理部長ノ返電時三十分 午後四時受

過日野戰經理長官部ノ副食物追送計畫ニ關スル電問ニ對シ、罐詰及鹽乾魚肉

類ハ兼テ約三分ノ一ト回答シ置ケリ。依テ鮭罐モ其三分ノ一ニ包含セシメ

追送セラル、ハ差支ナシ。

四月十五日 新民屯米田主計へ電報時十分 午前四時發

第二軍經理部長ノ要求アリ。野菜類ヲ其地ニテ調辨シ同軍へ送付セヨ○高

力屯以東ノ輸送ニ就テハ調査報告アレ。

其地ニテ調辨シ得ベキ生牛ノ情況取調ベ報告セヨ。同時ニ第二軍片山閣下

へモ電報セヨ。

同時ニ片山第二軍經理部長へ電報。

藤田主計へ御傳言ノ新民屯ニ於テ野菜類調辨ノ事承知ス。早速取掛ル様同

出張所米田主計へ電報シ置ケリ。

又生牛ノ件モ同地ニテ取調ベ直ニ閣下へ電報スル様命ジ置ケリ。

同十五日 竹島第三軍兵站參謀長へ電報時十分 午前四時發

奉天、新民屯間ノ輕便鐵道完成後ハ新民屯ヨリ高力屯間及高力屯ヨリ奉天間

毎日ノ輸送力幾許ナリヤ。御計畫聞キタシ。

右返電時三十分 午前十時受



答新民屯奉天間ニ停車場三馬三家子老邊高力屯ヲ設ケ各停車場間ニ臺車二百ヲ備ヘ一日一回往復セシム。

但新民高力屯間ハ一日二回ノ豫定臺車ハ六十サシテ幅ニ應ズルモノナリ。右ハ最初實施セントスル計畫ニシテ實施ノ上多少變更スルコトアルベシ。○猶臺車ハ多少ノ豫備ヲ有ス。

四月十五日 在奉天司令部第三軍率領班ヨリ電報午後十五時正 遼陽發

遼河附近ニアル部隊ノ還送被服遼河ニヨリ營口ニ送リタシ。就テハ遼東守備軍及第三軍兵站監部ニ交渉シ水路兵站司令部ニ通知スル様取計ヒ頼ム。猶何分ノ返事アリタシ。

右ニ對シ高力屯村岡(主計職務)ヘ電報十六日午後七時 遼陽發

遼河附近ニ在ル第三軍ノ各部隊ヨリ防寒被服送リ來ルベキニ付其レヲ受領シ水路營口支庫ヘ送付スベシ。還送被服ハ之ヲ取纏メ特別ノ率領ヲ附シ猶水路各兵站地ニ營口支庫ヨリ派遣シアル計手ニ特別ノ注意ヲ爲スベキ様電

報スベシ。

又其受領及發送ノ都度本職ト營口支庫長トヘ電報セヨ。

同時ニ鐵路堡兵站司令部第三軍率領班ヘ返電

遼河附近ニ在ル第三軍ノ還送被服ハ滿洲軍倉庫高力屯出張所ヘ送付スベシ  
○同出張所ヘハ本職ヨリ命令濟ミ。

同十五日 韓國遠藤主計監ヨリ電報午後五時五分 遼陽發

御依頼ノ汽船實地取調ノ結果壹萬五千圓ニテ二隻ハ責任ヲ負ウテ世話出來ス。適當ト認ムルモノ九千圓一艘壹萬壹千圓一艘アリ。他ニ五千圓ノモノアレド實用上保證シ難シ。右貳萬圓ニテ二艘買入レルカ或ハ何レカ一艘買入レベキヤ。返待ツ。

右返電午後五時三十分 遼陽發

答貳萬圓ニテ二艘買入御盡力アリタシ○下官ハ當分遼陽ニ在リ。

同十五日 第四軍黑川經理部長ヘ電報午後十一時三十分 遼陽發



夏服昨日軍行キ三百十一、兵站二百八十七、六師團二百九十、十師團百五十四、  
本陣軍行キ百七十三、兵站三百三十三、六師團百二十二、十師團五十三、相ヲ蘇家  
屯兵站へ渡ス。

明日ハ軍行キ二百三十六師團四相同兵站へ渡ス等。  
残り軍行キ四、兵站十二、六師團二百九十七、十師團三十七、相着次第渡ス。  
十三日案内セシ軍行千百十、十師團二百三十一ハ渡シ濟ミ、念ノ爲メ。

四月十五日 曹第三軍經理部長夫江同兵站經理部長へ電報夜十二時 遼陽發  
夏服十四日一師團千十七、九師團六百二十九相。

本日軍行四、七師團七百四十二、九師團二十相ヲ萩原へ渡シ濟ミ。  
是ニテ軍ト兵站ハ略ホ濟ミ。其他ハ着次第渡ス。

四月十六日 金山第四軍兵站經理部長へ電報午前零時三十分 遼陽發  
夏服去ル七日兵站用五十八、桐箱生主計へ〇十一日第十師團行百十四相貴軍  
遼陽兵站へ〇十二日第六師團六百四、第十師團六百四十九相〇十三日軍行千

百十、第十師團二百三十二相〇十四日軍三百十二、兵站二百八十七、第六師團三  
百九十九、第十師團百五十四相〇十五日軍百七十二、兵站三百三十三、第六師團百  
三十二、第十師團五十三、蘇家屯兵站へ渡シ濟ミ。

明日十六日ハ軍二百三十三、第六師團四、同兵站へ渡ス等〇残りハ着次第渡ス。  
同十六日 大野半品貨物廠へ電報午前零時四十分 遼陽發  
夏服三、四軍ハ略ホ濟シ濟ミ。

同時ニ遼東守備軍經理部長へモ其旨電報セリ。  
同十六日 新民屯米田主計ヨリ電報午後六時 遼陽發

野菜一斤約壹圓ニテ三十萬斤ハ集マル豫定。右ニ付金受取リト溝帮子ノ視  
察ヲ兼テ山中ヲ營白ニ遣ルベク、金子營白支庫長ノ承認ヲ求メアサ〇生牛  
ハ此地ヲハ得難シ。新立屯(我十二里)ニハ牛ノ市ガ在リテ四、五日滞在シ居ラ  
ハ五百頭ハ集マル見込ミ。

次ヲ又左ノ電報アリ夜十二時 遼陽發



前電生野菜一斤トセシハ誤リ訂正ス○生野菜ハ主ニ白菜ニシテ百斤壹圓乃至壹圓貳拾錢ナリ。

片山閣下へ左ノ如ク電報ス。

日匹倉庫長へ御問合セノ生牛ノ情況○此地ニテ買入難シ。併シ新立屯此地ノ西南約十二邦里ニハ牛ノ市アリ。四、五日滞在シ居ラバ五百頭位買ヒ得ラル。價ハ骨皮ヲ除キタル肉一斤貳拾五錢乃至參拾錢ナリ。

右返電十七日午前一時遼陽發

答野菜ハ買入レヨ。一旦凍リタルモノヲ買ハヌ様注意セヨ。第二、第三兩軍へ交付方取計ヒアレ。

牛ノ事ハ尙ホ能ク調査研究シ更ニ報告セヨ。

四月十六日 遼東守備軍經理部長へ電報午後十一時五分遼陽發

左ノ件經理長官へ請求セラレタシ。

短靴ノ在庫品約四十萬足アリ。之ニ對スル麻脚紳三千七百足ナリ。靴ニ平

均スル様麻脚紳ヲ送ラレタシ。

目下在庫ノ短靴ハ大方十一文半以上ノモノ、ミナリ。夏期ニ向フ際故各軍ノ要求ハ十文半、十一文多シ。又各軍ハ編上短靴ヲ要求シ來ルモノ多キ故十文半二萬、十一文十一萬足ノ編上短靴ヲ至急送ラレタシ。之ニ對スル卷脚紳約十二萬ノ在庫品アリ。

同十六日 新民屯米田主計ヨリ電報夜十二時遼陽受

昨今道路ノ良クナリシ結果馬車ノ集マリヨシ。今日ハ四百十六臺使用シ、昨日迄到着ノ分皆送ツタ。今ノ在庫品ハ今日到着セルモノ、ミ。

四月十七日 金子營口支庫長へ電報午前一時遼陽發

大江部長ヨリ貴地ニテ生野菜買入レノ件依頼シ來レルモ、新民ニテ調辨セシムルヲ便利ト考へ、米田ニ調査報告セシメタルニ、生野菜(重ニ白菜)百斤壹圓乃至壹圓貳拾錢○生牛ハ骨ナシニテ一斤貳拾五錢乃至參拾錢ナリト。生野菜ハ買入レヲ命ジタルモ生牛ハ高價ナル故見合セ置ケリ。貴地ノ狀況



電報アレ。

右返電 午後三時  
遼陽受

答、白菜百斤壹圓七拾錢位、生牛一ポンド拾錢乃至拾錢五厘、骨無シ百目拾五錢乃至拾六錢ナリ。

四月十七日 金子營口支庫長ヨリ電報 午後七時  
遼陽受

水路輸送ハ途中總テ滞ナシ。四月三日、三日當地送り出ノモノ全部目的地(高カ屯)ニ到着セリ。

右ハ直ニ遼東守備軍經理都長ヘ電報セリ。

同十七日 金子營口支庫長ヨリ電報 午後五時  
遼陽受

五千坪ノ建築材料ハ三十日頃入港ノ豫定ナリ。入港セバ一棟分丈ケ貴地ニ送ル。其以前ニ汽車ノ緩急ヲ計リ、亞鉛板等送リ置キタシ。差支ナキヤ〇工事ノ監督ニハ是非「マダリニ」ガ行キタシト。

右返電 午後九時  
遼陽受

答、倉庫用亞鉛板ヲ先ツ遼陽ヘ送ルコト同意。直グ實行アレ〇「マダリニ」ノコト守備軍ヘ申出ノ上返事ス。

同十七日 金子營口支庫長ヨリ電報 午後九時四十分  
遼陽受

大江部長ヨリ左ノ委托アリ。之ニ應ジテヨキヤ〇中村拾次郎ナルモノ營口ニ於テ東京澤庵漬約二萬貫持チ居リ、一貫目四拾參錢ナリ。購買シテ關外ニテ送ラレタシト。

右直チニ澤庵漬二萬貫委托購買ニ應ズベシト返電ス。

同十七日 金子營口支庫長ヨリ電報 午前十分  
遼陽受

本日揚陸ナシ。明後日ノ輸送ヲ心配シ居リシモ、一艘ノ船入港、明日揚陸ヲ始ムル故辛フジテ糧秣ヲ送り得ベシ。十九日迄ノ入港豫定船ハ昨電、舞子(炭伊吹)米、麥、副食、能登米、麥、副食、割麥末廣(副食)、滿珠(糧秣)ノ外四國、頼朝、日野ノ三艘ニシテ米、麥、副食ナリ。

同十七日 關本第一軍經理部長ヘ電報 午後十一時  
遼陽發



夏服千六百十相貴軍遼陽兵站司令部へ本日渡セリ。後ハ明後日迄ニ皆渡シ終ル見込ミ。

二八二

右ニ付、遼東守備軍經理部長へ電報午後十一時遼陽發

夏服本日ヨリ第一軍へ交付ヲ始メタ。同軍ノ分ハ大抵三日間ニ渡シ終ル見込ミ。

尙ホ同時ニ大野宇品貨物廠長へモ同様電報セリ。

四月十七日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午後十一時遼陽發

糧秣〇鴨綠江軍ノ内一個師團分ノ日量ヲ第一軍ノ兵額ニ加ヘテ、是迄李石藥ニ於テ渡シ來リシガ、總司令部ノ指示ニヨリ、昨十六日ヨリ更ニ半師團分ヲ増加補給ス。

同十七日 梶塚糧秣廠長へ電報午後七時二十分遼陽發

水産卒業者ニヨリ非常ナル利益ヲ得タルヲ謝ス。作戰地區ノ進ムニ從ヒ、倉庫區域モ益々廣ガレリ。右卒業者二三名更ニ御周旋ヲ願フ。返待ツ。

右ニ對シ、二十一日、水産卒業者ノ件ハ承知セリ今詮議中トノ返電ニ接ス。

四月十八日 新民屯米田主計ヨリ電報午前四時二十分遼陽受

十七日現在ノ糧秣ハ今日(十七日)到着セルモノ、ミニテ、直グニ殘ラズ馬車ニ積出シタル故、今輸送途中ニアリ。此ノ停車場ニハ一品モナシ。

同十八日 在炭坑鶴田第一軍兵站經理部長ヨリ電報午前七時三十分遼陽受

營口ニアリト云フ壓搾干草成ルベク多クヲ田邊兵站司令部ニ渡サレタシ。

同十八日 金子營口支庫長へ電報午前十一時三十分遼陽發

水路關外ノ内ニテ加給品ト干草ヲ發送セシ時日、數量電報アレ。

右返電午前十一時三十分遼陽受

答、干草ハ水路ニテ十一日一萬二千七百八十貫、十二日九千七百二十貫、十三日

五千八百八十貫、十四日六百貫、十五日六千五百五十貫。

關外ニテ十七日清酒四十四石六斗ヲ送レリ。

同十八日 吉田第三軍經理部長へ電報午前十一時三十分遼陽發

二八三



倉庫ニハ薪炭ヲ多量ニ貯藏セリ。貴軍ニ入用アルヤ聞キタシ○塵糠干草ハ去ル十二日ヨリ十四日迄三萬五千百三十貫營口ヨリ發送濟ミ。來ル二十二日頃ヨリ高力屯ニテ貴軍兵站糧餉部員ニ渡シ始メルコトガ出來ル見込ミ。右返電十九日午後三時奉天受

答新ハ現地ヨリ調辨セシム。炭ハ一人百日宛ノ標準ニテ追送アリタシ(約八萬人)

四月十八日 大連本倉庫今泉主計正へ電報午前十一時十分遼陽發

大連及柳樹屯ヨリ營口へ日々海送スベキ糧秣ノ内千以上二千捆以内ノ干草ヲ加へテ送レ○柳樹屯へハ貴官ヨリ電報セヨ。

同十八日 金子營口支庫長へ電報午後二時遼陽發

牛皮ニ食鹽ヲ使ヒテ送ルベキヲ石灰ヲ使用スルモノアル爲メ折角ノ皮ヲ無効ニ歸セシメタリトテ大ニ小言ヲ經理長官ヨリ申シ來レリ。谷口ヲ取調べ書面ニテ報告アレ。

右ニ付同二十一日奉天ニ於テ金子支庫長ヨリ提出セシ谷口工學士ノ答申書左ノ如シ。

三十八年四月十九日

營口搗精所ニ於テ 谷 口 雇 員

金子支庫長殿

製革原料トシテ内地ニ送ラレタル牛皮ガ苞藏法其宜シキヲ得ザリシ爲メ不結果ナリシ由ニ付御下問ニ對シ左ノ如ク陳述仕候然シ下官ハ現況ヲ見ザリシ故唯推斷ニ過ギズ候。

御下問ノ要旨

生牛皮ヲ血ノ滴ルマ、生石灰粉ヲ撒布シテ梱包シ内地ニ送リシニ全然不能用ノモノトナレリ。其理由及石灰ヲ用キルノ可否如何。

愚見

右(不能用)ノ意義不精密ニ候得共多分石灰ガ血及ヒ水分ニ溶解シテ其鹽基性作用ヲ以テ牛皮中ノ脂肪ヲ溶解シ去リ革質纖維ヲ膨脹セシメ(即、揉皮作



用ノ際起ルベキ變化ヲ輸送ノ途中ニ於テ起シ或ハ尙ホ進ンテ細菌的作用ニヨリ(製革作業ノ)「ブランニング」チドノトキ起ルトコロノ膨脹セシ纖維ヲ化學的變化ヲ以テ變蝕シ纖維ノ弱クナリシニヨリ其結果牛皮ノ毛ハ剝脫シ皮ハ滯灰白色ニ膨大シテ「ブリーク」ニナリシナルベシト思考ス然レドモ斯ノ如キ變化ハ或ル程度迄差支ナキノミナラズ却テ有効ナルモノナリ何トナレバ此ノ如ク軟カニ脱脂セシ皮ヲ單寧酸又ハ單寧酸ト格魯膜礬土化合物トニ浸漬シテ化學的及物理的ニ革皮ヲ堅韌ナラシムルコトガ揉皮術ノ本旨ナレバナリ。

要スルニ生皮ヲ少シモ乾カスコトナクシテ生石灰ヲ撒布シテ内地ニ送りシハ蓋シ良法ニアラズ然レドモ時寒天ニ屬シ特ニ僅ニ數十日ノ輸送期間ニ全然廢物トナリシト云フハ聊カ棒大ノ説ナルガ如クニ感ズ。

由來石灰ハ揉皮ニ際シ須要ノモノニシテ其水揉法ト乾揉法トヲ撰ハズ石灰ハ第一ニ用キルナリ故ニ乾燥セシ牛皮ニ石灰ヲ撒布スルトキハ消毒ノ

効ヲ全クスル外製革作業ノ際再ビ用ヲ爲スヲ以テ大ニ可ナリト雖モ水分多キ生皮ニ直ニ石灰ヲ撒布スルハ良法ニアラズ。

今後ハ天日乾燥ヲ行ヒテ送ラル、コト最モ簡ニシテ安全ナルベシ又若シ消毒ノ必要アラバ或ル程度迄乾燥シテ後石灰ヲ撒布セラル、ヲ佳ナラント思考ス。

右大要答申候也。

四月十八日

吉田第三軍經理部長へ電報午後二時三分發

大麥ハ去十一月ヨリ十六日迄關外鐵道ニテ五千二十五石師團ノ二十日分既ニ高力屯ニテ貴軍ノ兵站へ渡シ濟ミナラン。水路ハ十一月ヨリ十六日迄三千二百八十五石(十三日分)營口發送濟ミ〇來ル二十一日頃高力屯へ着クナラシメ關外鐵道ハ早ケレバ發送翌日遅クモ三日目ニハ高力屯ニ着ク。水路ハ十日カ、ル〇目下水路ト關外ヲ合セテ、日々六個師團乃至七個師團ノ輸送力ヲ用キ居ル。



四月十八日 大連本倉庫今泉主計正ヨリ電報午後五時三十分遼陽受

野戰經理長官ヨリ守備軍經理部長宛左ノ電アリ。

滿倉ニ在ル防寒被服中新品ハ其儘保管シ古品ハ漸次貨物廠へ返納セヨ。

右現在ノ新品ニ對スル品目員數ヲ電セヨ。

右ニ付各支庫へ新品ノ品目員數ヲ報告スベク電セリ。

同十八日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午後十時三十分遼陽發

夏服第一軍全體ノ約半分本日迄ニ渡シ濟ミ。後ハ三、四日內ニ渡シ終ル見込

ミ。

右同時ニ太野宇品貨物廠長へモ電報セリ。

尙ホ關本第一軍經理部長へモ左ノ如ク電報ス。

貴軍用夏服ハ全體ノ約半分本日迄ニ貴軍遼陽兵站司令部へ交付濟ミ。残り

ハ三、四日內ニ渡シ終ル見込ミ。

同十八日 在唐家屯兵站司令部第一軍澁谷兵站監へ電報午後十一時遼陽發

來ル二十四、五日頃ヨリ汽車ハ奉天ヲ經テ心臺子迄直通スル筈。貴軍ノ糧秣

ハ矢張皆李石寨ニテ渡スベキヤ。將タ其內ノ幾分ヲ心臺子ニテ渡スベキヤ。

御意見直グ電報アリタシ。

右返電十九日午前一時遼陽受

答、心臺子ニテ一個師團分其他ハ李石寨ニテ受ケタシ。

同十八日 在奉天第四軍與山兵站監へ電報午後十一時遼陽發

來ル二十四、五日頃ヨリ汽車ハ奉天ヲ經テ心臺子迄直通スル筈。貴軍ノ糧秣

ハ深井子ヲ止メ心臺子ニテ渡スコト、シテハ如何。直グ返待ツ。

右返電十九日午前零時五十分遼陽受

當軍糧秣心臺子迄鐵道開通ノ時期ニハ左ノ通り輸送シ吳レル様豫テ鐵道提  
理部ト打合セ濟ミナリ。

○心臺子卸シ日々三個師團半分、奉天卸シ日々一個師團半分○其時期ニ至ラ  
ハ深井子卸シヲ止メル○故ニ右ノ通り二箇所ニテ受ケタシ。



四月十八日 在奉天第二軍竹中兵站監へ電報午後十時遼陽發

來ル二十四、五日頃ヨリ汽車ハ奉天ヲ經テ心臺子迄通ズル筈 貴軍ノ糧秣ハ

蘇家屯ヲ止メ奉天ニテ渡スコト、シテハ如何。直グ返待ツ。

右返電十九日午後三時奉天發

糧秣ヲ蘇家屯ニテ受取ルヲ止ムルコト差支ナシ。奉天ニハ多分ニ集積シタルヲ以テ、此地ニテ受取ルコトヲ止メ、二個師團分ニテモ可ナルヲ以テ、當分心臺子ニテ受取リタシ。如何。

同十八日 豫テ着手中ノ大連ニ於ケル滿洲軍倉庫專用ホーム延長工事落成ノ旨本倉庫ヨリ報告アリ。

同十八日 金子營口支庫長ヨリ電報夜十二時遼陽發

本日芙蓉、伊吹ヨリ米、麥、副食ヲ揚陸ス。明日ハ此ノ外ニ四、五艘(多クハ糧秣揚陸スル筈)。

本日、東清五百二十八噸、關外三百五十噸、水路十三艘送レリ。

四月十九日 毎田柳樹屯支庫長へ電報午前一時遼陽發

前方各支庫ノ狀況ハ輸卒隊不足シ困リ居ル故、其増加ノコトヲ其筋へ申請申ナルモ容易ニ運ブ模様ナシ。就テハ貴地ニアル輸卒隊ノ内二隊ヲ遼陽以北ニ移シタシ。代リニ苦力ヲ傭入レ應用スルコト出來ザルヤ。意見至急電報アレ。

右ニ對シ、左ノ返電アリ午前二時五十分遼陽發

目下陸揚及海送盛ニシテ之ニ要スル苦力日々四百名内外ヨリ得ラレズ。此上使用セントセバ、他ヨリ募集シ來ラザルベカラズ。故ニ今輸卒隊ノ一隊ヲ缺クトキハ業務ニ差支ヲ生ズ。當地碇泊場ノ如キ五百人以上編成ノ輸卒隊四隊モ附屬シアリ。此等ノ内ヨリ綜合セテ方其筋へ御交渉アリテハ如何。

同十九日 倉庫長ハ前田支庫長、萩原獸醫正、藤田一等主計等ト共ニ午前八時三十分遼陽出發、同十一時五十五分蘇家屯ニ下車シ、午後零時四十分渾河ノ假橋ヲ渡リ、同三時奉天支庫ニ到着ス。尙ホ辻三等主計、下士以下七名ハ翌二十日奉天



へ來着セリ。

四月十九日 午後五時倉庫長ハ總司令部ニ至リ、落合少將及尾野參謀ニ會見シ、打合セタル事項左ノ如シ。

一 倉庫長ヨリ申出タル要領。

イ 各軍ノ所要糧秣多キニ過グル結果、各隊ノ給養ニ影響ヲ及ボシ、何時モ比較的古ビタルモノヲ以テ、其給養ニ充テラル、ニ至ル。

ロ 兵站等ニ於テ糧秣ノ取扱ヒ及ビ其保管法等十分ナラザルモノアルガ如シ。其結果トシテ各隊ハ不十分ナルモノヲ食セザルベカラザルニ至ル。

右ニ對シ、尾野參謀返答ノ要旨左ノ如シ。

委細承知セリ。各軍へ其旨通知スベシ。又糧秣ヲ過分ニ多ク所有スルトノ不可ナル旨ヲモ懇々通知スルコトニスベシ。各師團へハ豫テ一週間量丈ヲ宜シキ旨示シ置キタルナリ。

兵站ハ十日乃至二週間モアレバ可ナラン。滿洲軍倉庫ハ其直後ニ於テ一箇月分ヲモ貯藏セバ可ナルベシ。尙ホ其上營口及大連ニ貯藏セシムル筈ナリ。若シ先頭ニ多クノ物ヲ所持シテ後方ニ少キトキハ甚ダ不都合ナ譯ナリ。

申出ノ事ハ委細承知セリ。能ク各軍へ通知スルコトニス。

二 各軍へノ交付地ヲ改ムルコト。

イ 來ル二十四、五日頃汽車ハ遼陽ヨリ奉天ヲ經テ心臺子迄開通ノ筈ニ付、倉庫長ト各兵站監トノ間ニ於テ協議セシ結果次ノ如シ。

1 第一軍ハ心臺子ニテ一個師團分其他ハ李石寨ニテ受取リタシ。

2 第二軍ハ蘇家屯ニ於テ卸スコトヲ止メルモ差支ナシ。奉天ニハ多量ノ糧秣アルヲ以テ同地ニテモ不用ナリ。心臺子ニテハ二個師團以上受取リタシ。

3 第四軍兵站監ヨリ回答。



心算子ニ於テ三個師團半奉天ニ於テ一個師團半ヲ渡サレタシ。

右ノ狀況ニ對シ總司令部ニテ此際各軍ノ請求通り實施スルコト委細承知ス。

次ニ第二軍片山經理部長ヲ訪問シ打合セタルトヨロ左ノ如シ。

- 一 銜ノ健詰ハ折角持來リシモノ故十日ニ二回位給スルコト異論ナシ。
- 二 副食物ハ三分ノ二追送セラルレバ可ナリ。
- 三 牛ノ生肉ヲ一日九千貫一人九十匁ニテ十萬人分ヲ十日ニ四回宛送ラレタシ。

但此九千貫ニ乗ズル四回三萬六千貫ヲ十日ニテ除シ毎日三千二百貫送ラル、モ可ナリ。

又生牛ニテ送ラル、モ各師團ニテ屠殺スルコトヲ得。

四 支那米ト挽割麥ヲ與フルトキハ内地米ハ半分トナル。其レゾハ兵ガ實際困ルデアラウ。此事ニ對シテ既ニ苦情ヲ申出デシモノアリ。即チ某後

備旅團ノ如キハ他ハ六合ノ内支那米一合ノ割ニ與ヘラレアルニ、我旅團ニハ何故ニ合ノ割デ渡サル、ヤト、又石ガ多イトカ何トカデ困ルト、中々苦情多シ。總司令部ヘハ實ハ言ヒ兼ヘルシ困ツテ居ルト。

五 三日間ニ百二十匁宛ノ生野菜ヲ追送セラレタシ。

尙ホ倉庫長ヨリ各兵站等ニテ糧秣ヲ過多ニ貯藏スルハ甚不利益比較的吉ビタルモノヲ食セザルベカラザルニ至ルコト其一、充分ナル保存ノ出來ザルコト其二ナルヲ以テ、或ル程度以外ハ師團及兵站等ニ貯藏ノ必要ナキコトヲ陳述シタルニ、片山閣下モ同意セラレ、尙ホ各當局者ニハ其旨示シ置クト答ヘラレタリ。

四月十九日 遼陽橋元主計ヨリ電報午後九時五分奉天受

夏服ハ本日雨天ノ爲メ第一軍ヘノ交付ヲ見合セタリ。

同十九日 是レヨリ先キ野戰經理長官ヨリ辻村遼東守備軍經理部長ヘ關外鐵道ノ輸送手数料ハ餘リ高キニ過ギザルカトノ電報アリ。依テ營口支庫長ヲシテ右減額ニ關スル交渉ヲ開カシメタルニ對シ、左ノ報告アリ。



三十八年四月十八日

營口支庫長

金

子

義

友

滿洲軍倉庫長日匹信亮殿

手數料減額ノ件ニ關シ昨日三井ノ遠藤來リテ曰ク「目下ノ狀況ニテハ一月ノ仕拂金額ハ約四萬五千圓位ニシテ二割五分ノ手數料ハ壹萬貳千圓未滿之ヲ折半スレバ一人ニテ六千圓以內ナリ之レニテモ引合附カズ此以上減額セラレテハ困ル故事情ヲ推察シ吳レヨ」ト甚ダ曖昧ナル申出ニ付手數料トシテ配當ノ金額ト諸實費ノ關係ヲ聞キタルモ要領ヲ得ズ其ノ言フ處少シモ減額ヲ拒絕スルノ理由トハナラヌ再考スルノ約束ニテ去レリ彼ノ眼中ニハ唯一ノ三井アルノミニシテ國家觀念ナドハ夢ニモ無イ位實ニ驚嘆ノ至リナリ多分彼ハ自ラ手ヲ引クナラン然ルトキハ反テ幸ナルベシ。

此件ニ就テハ猶數回交渉セシメタル後更ニ左ノ報告アリ。

三十八年五月十八日

營口支庫長

金

子

義

友

滿洲軍倉庫長日匹信亮殿

關外鐵道使用ニ關スル手數料引下ニ就テハ盡力致居候モ相手ガ外國人故當方ニ思フ程ニ思ヒ吳レズ爲メニ交渉中々困難ニ有之候。...

「フツシユ」ハ獨リヂアルコトヲ少シク危ミ居ル狀況アリ是レ荷物が多クナリ一方ニハ人ノ不足ナルヲ恐ル、ニハアラザルヤヲ疑フ。

成ルベク三井ト合同シテヤリ度希望ナルガ如シ隨テ手數料モ思フ程ニ引下ル能ハザルベシ併シ大ニ盡力シ居ル故後ニ吉報ヲ呈スルコト之レアラ

ン乎。

併シ二人ナレバ一割五分一人ナレバ一割二分位ハ拂ハザル可ラザルベシ。

「フツシユ」ノ言フニハ今ハ戰爭中故何事モナケレドモ平和トナリシ曉ニ露國側ヨリ彼是レ言ハル、トキニ言開キノ出來ル様ナシ置カザルベカラズ即チ手數料中ニハ其危險ノ代價ヲモ含有シ居ルコトヲ承知シ吳レヨト云ヘリ尤ナ點モアルベシ。

「フツシユ」二人ニヤラスコトハ與倉中佐モ少シク危ム點アリ同官ハ今一箇



月丈ケ此儘ニ打過グルヲ可トストノ意見ナリ是ハ今少シク鐵道ノ方ヲ固  
メ置キ大丈夫ト認メタルトキ人ヲ代ルナリ價下ヲスルニアラザレバ中途  
ニ於テシクジル様ノコトアリテハ不利益ナリトノコトナリ此事ニ關シテ  
ハ同官ヨリモ意見ヲ申送ルトノコトナリ。

來月ヨリハ無論一日平均千噸位ヲ出スコトニ「ブツシユ」ト約束セリ差當リ  
明後日位ヨリ六百噸以上ハ出來ルダケ増發シテ來月ヨリノ輸送力ヲ試ム  
ルコトニナシ置ケリ故ニ支庫ヨリ河北停車場ニ荷物ヲ出スコトハ一日二  
萬梱乃至二萬五千梱ニ増加スルコトヲ命令セリ。

尙ホ同伴ニ付與倉軍政官ヨリモ左ノ書面ニ接ス。

三十八年五月十九日

陸軍歩兵中佐

與

倉

喜

平

滿洲軍倉庫長日匹信亮殿

拜啓關外鐵道ニ依ル荷物輸送人取換及運賃引下ゲ方ノ件ニ付今般金子主  
計正ヨリ御相談ニ預リ候同氏ノ意見ハ至極適當ニシテ國家的ヨリ打算セ

ハ一時モ猶豫スベカラザル次第ト存ジ候然ルニ今若シ僅カノ利益國家經  
濟ヨリ云ヘバノ爲メニ餘リ細カシキ事ヲアセリ候得バ之ガ一ノ導火線ト  
ナリテ露人ガ我輸送ヲ妨害セント試ミツ、アル今日或ハ種々ノ中傷的動  
作ヲ爲シ更ニ過日ト同様ナル不利ノ形況ニ陥ルコトナキヲ保セラレズ翻  
テ一方ヨリ之ヲ見レバ御承知通り現在ニ於テハ鐵道局モ亦多數ノ利益ヲ  
得テ内心大ニ喜ビ居ルコト、存ジ候故ニ若シ爾後益々輸送量ヲ増加ストセ  
バ彼ノ滿悅モ亦知ルベキコトニ候果シテ然リトセバ彼等ハ此利益ニ浴ス  
ルノ結果ヨリ自然輸送停止云々等ノ儀ハ萬無之事ト思考セラレ候モ然ル  
ニ前陳ノ通り露人ガ我輸送ニ對シテ妨害ヲ試ミントスルノ際ニモ有之事  
ナレバ輸送人交換及運賃引下ゲノ事ハ充分慎重ノ態度ヲ取ルコト必要ト  
存ジ候尙又更ニ輸送ヲ命ズベキ者モ現在ノ三井及ビ「ブツシユ」等ニ比シテ  
ハ如何ト被察候兎ニ角此際尙ホ一個月位ハ單ニ運賃ヲ若干引下グル迄ニ  
止メ可成慎重ニ御處置有之事得策カト金子主計正ヘモ申上置候ニ付自然



同君ヨリ意見書差出セルコトナラント存ジ候へ共尙ホ小生ノ愚見一應申進候實ハ二三日内ニ馬匹買入停止ノ件モ有之一寸天津北京迄旅行致候間何トナク小生ノ意見ヲ仙波青木ノ諸士ト談合シ他日ノ誤解ヲ防カント存居候右得貴意度如斯候。

四月二十日 新民屯米田主計ヨリ電報午前五時四十分奉天受

今ノ糧秣卸場ハ狹クシテ雨天ノ日ニハ泥濘ナリ。曩ニ藤田主計カ倉庫建築地トシテ選ビシ所ハ停車場ノ北方ナル輕便鐵道ノ基點トスベキ場所ニテ、地質モヨク場所ハ廣シ。故ニ是非此處ニ卸シ場ヲ移ス計畫ナルガ、引込ミ線ハ僅カニ三、四貨車ヲ入ル、ノミ。然ルニ此線端ハ切斷シタル如ク、約五米突ヲ隔テ、又線路アル故之ヲ連絡セシムルコトヲ昨日驛長ニ談シタルニ、今左様必要デモアリマセスト曖昧ナル返辭ナリシ。此男山海關ニ居ル頃ノ振合ニ付及川中佐ノ話アリシ故多少ノ支出許サレタシ。軍政官トモ協議セリ。此地ヨリ遼河右岸迄ノ輕便鐵道ハ下官ノ名義ニテナス様ニト井戸川少佐ヨリ

話シセラレタル故其意ヲ以テ運動スル積リ。

右ニ對シ、左ノ如ク電報セリ午前十一時奉天發

電見タ○糧秣卸場及線路連絡ノ件承知ス。申越シノ費用ハ支出シ、其額ヲ電報スベシ○新民ヨリノ輕便鐵道敷設ハ藤田組ノ名義ニテナスベシ。藤田ハ一時此地ヘノ出張ナリ。井戸川少佐ニモ通知アレ○奉天ヘ送ル目的ニテ生牛ヲ買ヒ始メヨ。但、一時ニ五十頭以上ヲ集メ送ルコトハ避クベシ。又價格ハ漸次引下グル様盡力アレ○現地調辦倉庫建築ノ件其他打合セノ爲メ明日中此地ニ來ルコトヲ得ザルカ。

右返電午後九時四十分奉天受

今歸リ高力屯ヨリ電見タ。明朝出發貴地ニ行ク○生牛ハ新立屯ヘ買ヒニ遣レリ○井戸川少佐ニ會ヒ、電命ノ事ヲ語リ協議セリ○里村通譯ハ昨夜歸リタルニヨリ報告書ヲ出サシメタリ。明日携帶ス。

右里村通譯ノ提出セシ報告書左ノ如シ。



## 法庫門、鄭家屯及附近ノ物資取調報告書

## 通過地大略及日程

四月八日午前七時出發午後七時小塔子ニ着宿泊ス小塔子ニハ店。旅舍馬宿五軒、雜貨店一軒、戸數約七十、豚一斤二十仙、鶏、卵等ハ皆無尤モ附近ノ村落ヨリ集メ來ラバ多少アルベシ。

同九日午前六時出發、丁家房身ニ達ス小塔子ヲ去ル北方四十五清里、山麓ニ位置シテ水清ク樹木多シ戸數百以上、天和店外ニ三軒ノ宿アリ軍票ノ流通圓滑ナリ鶏、卵、野菜多少アルモ一時ニ多額ノ供給見込ミナシ牛ハナシ馬匹モ少ナシ、午後二時五臺子、四臺子ヲ經テ法庫門ニ達ス。

同十日午前六時ヨリ終日法庫門市内ノ市場、各商家ニ就キテ物價、物資ノ現在高ヲ、官憲ニ就キテ地方ニ、關スル交通機關等ノ事ヲ調査ス。

十一日午前六時發午後六時七家子福順店ニ一泊ス六家子ハ寒村ニシテ數アルニ足ラズ。

十二日午後二時遼陽窩棚ニ着ス。

十三日午前六時發蒙古内地ニ入ル午後六時哈拉火哨ニ達ス。

十四日午前哈拉火哨ヲ發シ鄭家屯ニ向フ凡ソ二十清里前進セシ時馬賊ニ遭遇シ危險甚ダシキヲ以テ不得已急行別道ヲ取リテ遼陽窩棚ニ歸着シ直チニ太平街(其レヨリ約二十清里西南ニ退ク)。

十五日鄭家屯ヨリ歸レル我將校斥候前田少尉ニ就キ最近ノ鄭家屯ノ情況ヲ聞ク外ニ一週間以前鄭家屯ヨリ來リシ支那商人(牛馬ノ市場ヲ所持スル人)ニ遇ヒ尙ホ確實ナル事情ヲ聞ク終日太平街ニ留ル。

十六日再ビ北進セントシテ土人一名ヲシテ遼陽窩棚ニ至リ情況ヲ探ラシム同午前十時金國障氏ノ部下八騎及前記土人共ニ鄭家屯ヨリ歸着ス其ノ情報ニ依レバ遼陽北東三十清里ノ地點ニ露騎數十騎遼河ヲ渡河シ來リテ馬賊ト遇戰中ナリト是ニ於テ予等ハ康平縣ニ向ヒ出發ス。

十七日康平縣發午後四時法庫門ニ歸着ス。



十八日午前六時法庫門發午後七時小塔子ニ着。  
十九日午前六時小塔子發午後四時新民府ニ歸着ス。

法庫門

法庫門ハ開原康平兩縣ノ界ニ位置シ遼源州蒙古内地ニ通ズル關門ニシテ奉天新民屯營口ニ對スル尙ホ張家口ノ北京天津ニ於ケルガ如シ。土地高燥市街亦見ルベク商家豊ヲ連ネテ商業頗ル繁盛ヲ極ム實ニ新民屯以北初メテ見ルノ都府ニシテ古來蒙古ニ通ズル交易上重要市場トシテ天津北京營口遼クハ山西省山東省上海等ノ商人來往少ナシトセズ市内獸皮問屋雜貨問屋穀物問屋豆油製造所等最大ナルモノ四十餘軒特ニ有名ナルモノヲ舉レバ德生店(穀物問屋)大有店(德盛貨店)萬德貨店(糧米局)即チ穀物屋及旅舍兼業獸皮問屋トシテハ廣和德店廣發德寶源泰泉記等ノ如キハ各多少ノ獸皮ヲ賣買スル店トシテ知ラル貨物運送ハ一ニ遼河ノ水利ヲ利用シ營口ヨリ三面船迄水利運送シ三面船ヨリハ馬車ニヨリテ輸送セラルハノ外新民屯ヲ經テ馬

車輸送ノ途アルノミ從テ貨物ノ高價ニナルハ勢ヒ已ムヲ得ザルナリ次ニ大略物資ノ價格ヲ示サントス。

高粱米	一擔(我一石五斗)	拾貳元五角
麻油	百斤	四拾五元
豆油	百斤	拾元
豆粕	大五十四斤一個 小三十二斤一個	八元五角 五元五角
綠豆	百斤	五元五角
生牛	一斤 (活牛)	四拾仙
豚	同	拾五仙
羊	同	四拾仙
鷄	一羽	五拾仙
鷄卵	二百個	貳元五拾仙
白菜	百斤	貳元五角



葱	百斤	拾元
豚鬃	四最寸長上鬃等一斤	壹元九角
豚毛	一斤	拾五仙
牛皮	上乾百斤	六拾元
馬皮	同 大一枚	參元七拾仙
馬鬃	最上一斤	參元五拾仙
狗皮	同 一枚	八拾仙
小麥	一擔	貳拾五元
白米	同	五拾六元
土產煙草	百斤	參拾元
豆素麵	百斤	八元五拾仙
麻	最上 百斤	五拾五元
生牛	一頭 (精肉二百斤)	七拾元

自法庫門至各地馬車運賃及船賃

自法庫門至營口

自法庫門至三面船馬車賃	穀類 每一百斤	參拾仙
自三面船口船賃	同上	貳拾仙
自法庫門至三面船馬車賃	穀物百斤 = 付合計	五拾仙
自三面船口船賃	牛皮類 一百斤	參拾仙
自法庫門至三面船馬車賃	牛皮類 一百斤 = 付合計	貳拾仙
自三面船口船賃	同	貳拾仙
自法庫門至三面船馬車賃	豆 一個	五仙
自三面船口船賃	同	五仙
自法庫門至三面船馬車賃	豆粕一個 = 付合計	七仙
自三面船口船賃	同	七仙
自法庫門至三面船馬車賃	豆油一籠	壹元五拾仙
自三面船口船賃	同	參拾仙



豆油一籠ニ付合計

壹元八拾仙

自法庫門至新民府

自法庫門馬車穀物類 每一百付

壹元

同 同 豆粕 大一個付

七仙

同 同 豆油 一籠四百斤入

貳元五拾仙

同 同 牛皮類 一百斤

六拾仙

自法庫門至鐵嶺

自法庫門馬車穀物 一百斤ニ付

參拾仙

同 同 牛皮 同

參拾仙

同 同 豆油 一籠四百斤入

貳元五拾仙

自法庫門至各地馬車借入料(馬四頭立)

至三面船 九十清里

九元

至鐵嶺 九十清里

拾元

至新民府 百六十清里

貳拾元

至昌圖府 百二十清里

參拾元

至開原 百二十清里

參拾元

至鄭家屯 百六十清里

參拾五元

(但鄭家屯ハ目下馬車雇入レニ應セズ  
モ少ナク從テ其ノ價格モ一定セズ)

法庫門ニ於ケル通貨及各地ニ對スル爲替取引

一 通貨ハ洋圓銀、馬蹄銀、各店發行ノ錢帖(手形)及我軍票ノ流通ハ圓滑ナリ。

一 爲替取引ハ奉天、新民、營口各地ニ對スル爲替振出ノ比較的便利ニ確實ナルヲ認ム各分支店ヲ有スルモノ、外營口ニ於テハ義泰德、協盛豐、永盛德、外數軒新民ニ於テハ德興店、德成店、信和店、永昇店、義成棧等外十數軒、奉天ニ於テハ永慶店、裕慶店、謙勝亭等各地ニ於ケル有名ナル商家ハ各戸法庫門トノ爲替取引ヲ成シ居ルナリ。

生牛、馬匹等ノ取引慣例



法庫門ニハ前記店ナルモノアリ多クハ大旅舎ニシテ種々ノ營業ヲ兼業スルノ側ヲ一定ノ取引手数料ヲ賣方買方ノ兩方ヨリ收得シテ賣買ノ周旋ヲ成ス即チ牛馬獸皮類等ハ此ノ方法ニヨリテ是等仲買人ノ手ニ由リテ爲スヲ列トセリ其ノ手数料ハ百分三乃至五トス(買價)

遼陽窩棚ト物資ノ價格

遼陽窩棚ハ法庫門ヲ去ル西北方約百二十清里戸數百餘ノ一小村ニ過ギザルモ此ノ地以北鄭家屯ニ達スル廣原百二十清里ノ間ハ蒙古ノ大廣原ニシテ人家少ナク樹木亦繁茂セズ渺茫タル天然ノ好牧場展望數十里ニ達ス遼陽窩棚ハ其ノ驛關ノ位置ヲ占ムルガ故ニ行旅常ニ絶エズ宿舎シ物資ノ集マルコト少ナシトセズ。

高粱	一斗(支那)	壹元五仙
元豆(大豆)	同	九拾仙
小米(粟)	同	壹元參拾五仙

豆粕	中	壹元
豆油		壹元五仙
白米	一斗	九元
白面(小麥粉)	一斤	參仙
雞	大一羽	貳拾五仙
雞卵	一百個	壹元
猪(生)	一斤	拾五仙
牛	精二百斤内外 一頭ニ付	六拾元

(但生牛、雞ハ甚ダ少數ナリ)

哈拉火哨

哈拉火哨ハ遼陽窩棚ヲ去ル正北約五十清里ニシテ戸數約百、住民ハ全ク蒙古人ナルモ十中ノ三分位迄ハ滿洲人ノ住居スルヲ見ル、穀類ハ僅少ニシテ數フルニ足ラズ。



生牛	二精百斤内外約一頭	五拾五元
雞	一羽	貳拾五仙
雞卵	一百個	壹元
豚(活)	一斤	拾五仙
羊	一頭	七元
山羊	一頭	參元

鄭家屯

鄭家屯ハ哈拉火哨ヲ去ル正北七十清里ニシテ戸數人口法庫門ノ倍數ニアリ物資ノ集散モ亦法庫門ノ比ニアラズ就中生牛馬匹ハ東北勃圖山北東東西兩哈拉巴山ニ亘ル數十里ノ沃野ヨリ集マリ來ル牛馬羊ノ類夥シク是等ノ牛馬多クハ東南大民屯船口(船口ハ遼河渡シテ經テ奉化ニ轉送セラレ楊家、任家、王張、張家、陳方ノ各船口ヲ渡船シテ北ハ「ハルピン」ヨリ南昌圖、奉天、吉林、法庫門等ノ各地ニ輸送セラル。

牛馬市 (鄭家屯ニ於ケル)

鄭家屯ニハ福順店、廣德魁、廣盛太、世合當等ノ旅舍ヲ兼ネタル仲買問屋アリ尙ホ此外ニ數軒ノ小問屋アリテ日々牛馬市ヲ開キ賣方買方共ニ前記店ノ構内ニ入り來リテ盛ニ生牛馬匹ノ取引ヲ成スモ一切店ノ番頭若シクハ掌櫃ニ一任ス而シテ賣買ノ結了セル時該掌櫃ハ買方ヨリ代金ヲ收メ是レヲ其ノ馬ノ持主ニ仕拂フヲ常トス或ハ店ヘ自カラ牛馬ノ委託賣買ヲモ成スコトアリ然シテ牛馬一頭ニ付手數料一元ヅツ賣方買方ノ兩方ヨリ收得スルナリ其他賣買ノ有様ハ我東北秋田附近ノ糶市又ハ馬市ニ相似テ是等仲買番頭連中ノ内ニハ間々惡漢アリテ買方特ニ外國人ナド自カラ現場ニ出張スル時ハ實際ノ價格ヲ云ハズシテ出放題ノ價格ヲ稱スルコト殆ンド法外ナルモノアリト云フ。

牛ノ種類ハ純然タル蒙古産ニシテ彼ノ山東省産ノ牛ニ比シテ稍、小形ナレドモ肉質ニ於テハ自然放牧ノ牛ナレバ敢テ劣ル處アラザルガ如シ長毛ニシテ稍、角ノ長キハ寒國産ノ特性ヲ現ハシ我但馬邊ノ産ニ酷似スルヲ見ル馬ハ主ニ鄭家



屯西北ノ方面ヨリ出ヅルモノ多キモ中ニハ以南即チ哈拉火哨以北ノ平原ヨリ集マリ來ルモノ少ナカラズト云フ馬種モ俗ニ滿洲馬ト云フ蒙古産ニシテ首幅廣ク鬃尾長ク垂レ體格ハ總テ小形ノモノ多シ馬市ニ出ヅルモノハ駒ハ最も多ク牝馬ハ至テ少ナシ價格一頭十四、五元ノ駄馬ヨリ數百元ニ達スル良馬亦少ナシトセズ。

例年一、二、三、四、五、六、七ノ七箇月間ハ馬ノ市ニ出ヅル數牛ヨリモ多ク八、九、十、十一ノ四箇月間ハ之レニ反シテ牛ノ數馬ヨリモ多シトス其ノ原因ハ毎年四月ヨリ五、六月ニ至ル冬期ハ道路氷結シテ牛ノ歩行ニ便ナリ又七、八、九ハ耕作ノ時期ニシテ牛ノ使役ニ用ヒラル、モノ多キニ因ル然ルニ馬ハ七、八、九月以後道路泥濘ノ時期ニ於テ牛ニ比シテ歩行ノ困難少ナク特ニ蒙古ハ他ノ清國地方ニ比シテ馬ハ最も多ク乘馬ニ用ヒラル、モ其一因タランカ蒙古内地ヨリ來ル馬匹ハ荒馬(野馬)多クシテ全ク蹄鐵ナシ。

遼源州、鄭家屯物資價格一覽

高粱米	一斗(我約一斗五升)	八拾五仙五吊八
大豆	同	七拾九仙五吊貳
綠豆	同	貳元四拾仙拾六吊
小豆	同	壹元參拾六仙九吊
粳米(米)	同	八元參拾參仙五拾五吊
小米(粟)	同	壹元參拾六仙九吊
元米	同	壹元參拾壹仙八吊六百七
蕎麥	同	七拾仙四吊六
芝麻	同	參元六拾四仙貳拾四吊
谷子	同	參元六拾仙貳拾四吊
小麥	同	貳元四拾仙拾六吊
大麥	同	壹元五拾仙九吊九
棉花	一斤	六拾壹仙四吊



豆餅	(豆粕)	參拾九仙貳吊六
蘇油	百斤	八元四拾八仙五拾六吊
豆油	同	九元拾仙六拾吊
莫豆	一斗	七拾參仙四吊八

(壹兩銀換九吊貳 銀壹元六吊六)

鄭家屯ニ於ケル物資現在高

小米 (粟)	三百石
高粱米	一千石
大麥	三百石
豚	一千頭
生牛	三百頭
馬匹	三百頭
貨物馬車	三百臺 (馬匹四頭計一臺ニ付平均)

右ハ鄭家屯官憲ニ就キテ前田騎兵小隊長ノ取調べタルモノニ依ル(三十八年四月)鄭家屯ヨリ奉天マデ馬ヲ牽キ行クニハ五日間ヲ要ス法庫門ハ三日間、鐵嶺ハ四日間、昌圖ハ三日間、開原ハ五日間、長春ハ十日間、新民屯ハ五日間ヲ要ス牛ハ馬ノ約倍數ノ時日ヲ要ス(但、右ハ冬期道路ノ凍結セル好時期ヲ指ス)夏期ハ道路泥濘多クノ日數ヲ要スト雖モ牧草多ク原野ニ生ズルヲ以テ經費ノ點ヨリ云フ時ハ寧ロ夏期ノ輸送ヲ以テ可トスベシ。

牛馬ノ輸送ニ當リ解氷期ニ於テ遼河ヲ渡リ得ベキ地點ハ遼陽窩棚ノ正東約十三清里ノ地點ニ二道家船口アリ一隻ノ大形渡舟アリ一時ニ牛馬十頭ヲ渡シ得其ノ上流約四十清里哈拉泌屯船口アリ一隻ノ渡舟アリ一時ニ八頭ヲ渡シ得其ノ上流約三十清里揚家屯船口アリ二隻ノ小形渡舟アリ連結セバ一時ニ十頭ヲ渡シ得其上流約三十清里李家船口アリ二隻ノ小形舟アリ揚家屯同様其上流約四十清里ニシテ大民屯船口アリ一隻ノ小形舟アリ其上流五十清里ニシテ陳才船口アリ大形一隻ヲ有スト頭以上ヲ渡河シ得其ノ上流尙ホ數個ノ渡河場アリ



レドモ之レト大差ナシ但目今遼河ノ東岸ハ露兵ヲ以テ充サレ鄭家屯ニ於ケル  
清國官憲ハ陳才船口以北ノ渡船ヲ悉ク陸ニ引揚ゲ全然渡船ノ途ヲ絶チタリト  
聞ク

要スルニ遼陽窩棚以北鄭家屯附近ニ於テ生牛馬匹ノ買收ハ容易ニシテ價格モ  
亦法庫門以南ノ地ニ比シテ大ニ廉ナリト云フベシ然ルニ現今鄭家屯遼陽窩棚  
ノ間敵騎ノ一部隊横行シ加フルニ哈拉火哨線以西ニ於ケル蒙古馬賊ノ群出沒  
自在ニシテ到底物資ノ輸送見込ミナキガ如シ。  
右調査ノ結果報告候也。

明治三十八年四月十九日

通譯 里 村 重 雄

滿洲軍倉庫長日匹信亮殿

四月二十日 韓國京城遠藤主計監ヨリ電報午後九時十

小蒸汽ノ事ハ仁川碇泊場其他專門技術家ニ依頼シ調査セシニ適當ニシテ安  
價ノモノヲ得ントシ意外ニ困難ヲ感ジ爲メニ日數ヲ要シタリ。數回往復ノ

結果第十永田丸八千八百圓常盤丸壹萬六千圓何レモ吃水速力構造完全ニテ  
直ニ買上ゲニ應ズルコト、ナレリ。依テ念ノ爲メ一應御意見ヲ確メ取計フ  
コトニシタシ。

右返電午後九時四十

答二艘買入レノ上營口へ廻送方御取計ヒテ願フ○代價ハ營口着ノ上同地ニ  
テ仕拂フテハ如何。返待ツ。下官ハ當分奉天ニ在リ。

同二十日 遼陽橋元主計ヨリ電報午後十一時五

夏服本日モ雨天ノ爲メ輸送力ナク第一軍へ渡スコト能ハザリシ。

四月二十一日 大連武内鐵道副提理へ電報午後零時三

來ル二十四日ニハ心臺子へ直通ノ由右ハ試運轉ナルヤ貨車ノ供給ヲ受ケ得  
ルヤ。返待ツ○遼陽以北ノ貨車請求ニ關シテハ前田遼陽支庫長ト岡野少佐  
トノ間ニ打合セ濟ミ。其レニテヨキヤ。

右返電午後四時五十



答二十四日ヨリ心臺子迄列車運轉開始ス○遼陽以北ノ貨車供給ハ前田支庫  
長ト岡野少佐トノ打合セ通りニテ宜シキ筈ナリ。

四月二十一日 金山第四軍兵站經理部長ヨリ足布九千五百ノ請求アリ。依テ  
電話ニテ左ノ如ク回答セリ午後四時  
二十分發

御請求ノ足布ハ品未着故大連へ着キ次第早速送付方取計ハセマス。  
尙ホ此件ニ付他ノ部隊ヨリモ請求アリ。皆同様ニ回答セリ。

同二十一日 大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後六時  
遼陽受  
割麥前方ニ少ナシ。關外線ヨリモ來ラザルモノ、如シ。取敢ヘズ二千石程  
奉天線ニテ前送シタシ。現品ハ遼陽井上司令部へ渡サレタシ。

右返電

割麥ハ遼陽ヨリ送ルコトハ道路惡シクシテ無駄ノ經費多カルベシ○軍ノ一  
日分ヲ明日ノ内ニ營口ヲ發シ關外鐵道ニテ送ラシム。營口へハ今命令濟ミ  
○後ハ續イテ送ル。

同二十一日 左ノ人員ヲ奉天支庫ニ集メ補給業務ニ關シ訓示セリ。

前田	支庫長	(奉天)
金子	支庫長	(營口)
今泉	主計正	(大連)
橋元	主計	(遼陽)

同二十一日 金山第四軍兵站經理部長ヨリ左ノ通牒アリ二十一日付

豫テ御協議致置候生牛、生野菜、當軍向フ一ヶ月間日々ノ所要量ハ左記ノ通り  
ニ候間購買方御依頼致候  
尙ホ追送實施ノ期日御確定相成候ハバ御通報ヲ煩シ度候

(左記)

生牛 百十一頭 生野菜 五千貫匁

四月二十二日 大江第三軍兵站經理部長へ電報午前十時  
奉天發

割麥百六十石關外鐵道ニテ本日正午發車ノ筈○明晩迄ニ高力屯ニ於テ貴部



糧餉部員ニ渡ス筈○後ハ二千石ニ達スル迄續々送ル。

三三三

四月二十二日 遼陽鐵道提理部出張所岡野少佐へ前田支庫長ヨリ左ノ如ク電報セシム午後十一時十分奉天發

開通後四月中ハ遼陽以北糧秣ノ爲メ百六十五車ヲ要ス。内、李石寨ハ八十奉天へ十五、心臺子へ七十貨車ナリ。念ノ爲メ○五月一日以後ハ右ノ外五十五車増加ヲ要スル見込ミ。

同二十二日 在前心臺子大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後三時十分奉天受  
雨期以前ニ於テ高力屯以北ニ多量ノ糧秣ヲ集積スル必要アリ。依テ營口集積量ノ許ス限リ日々十個師團内外ノ糧秣ヲ水路ト關外線トニテ前送アラバ幸ナリ。此集積糧秣ハ輸送力ノ關係上將來他軍へ分配スル必要起ルヤモ計リ難シ。此場合ニ快ク之ニ應ズル様今ヨリ準備スル考ナリ○高力屯以北ノ輸送力ハ漸次増加シツ、アリ。現ニ高力屯ヨリ對頭灣ニ百艘以上ノ船ヲ貸與シアリ。

同二十二日 遼東守備軍司令官へ電報午後七時二十分奉天發

當倉庫員二等主計坂本昌二昨二十一日病氣後送セラレタリ。至急補充セラレタシ。

尙ホ同時ニ辻村經理部長へ電報

當倉庫員二等主計坂本昌二昨二十一日遼陽兵站病院ヨリ後送セラレタリ。代員トシテ三等主計竹下止戈雄ヲ復歸ノ事ニ取計ハレタシ。

同二十二日 在奉天總參謀長ヨリ左ノ電報アリタル旨、大連本倉庫ヨリ電報午後十一時奉天受

各軍ニ有スル濡レ米ハ賣却スルカ、或ハ味噌等ノ製造ニ使用セラレタシ。其他ノ支那米ハ各軍ニ支給スルヲ要ス。濡レ米ノ現在高ハ各軍ノ報告ヲ集メ通報スベシ。

同二十二日 大連本倉庫磐井藥劑正ヨリ電報午後七時十分奉天受

長谷川軍醫正(野戰衛生長官部)ヨリ鴨綠江軍方面ニハ支庫ヲ要スルナラント

三三三



ノ電アリ。衛生材料補給上必要アリ。其旨返電セントス。御意見伺フ。成  
ルベク成立センコトヲ希望ス。

右返電 二十三日午前  
五時奉天發

答、鴨綠江軍糧秣ノ約半分ハ現ニ李石樂ニ於テ我倉庫ヨリ交付シアリ。遠カ  
ラザル内ニ同軍ノ全部ヲ當方面ヨリ交付ノコト、ナル様子ナリ。故ニ衛生  
材料ニ在テモ同様ナラン。同方面ニ支庫設置ノ必要アリト思フ。

四月二十二日 曩ニ電報ヲ以テ大連ヨリ送付セシメタル二十四日以後ノ改正  
汽車運行表同日夜半到達セリ。依テ大連本倉庫ヘ左ノ如ク電報ス 同夜零時  
十分奉天發  
改正ノ運行表ニテ二十四日ヨリ遼陽ヲ發スル列車ニ接合セラルベキ貨車ニ  
ハ左ノ如ク本日ヨリ積込ムベシ。

一列。割麥五、麥十四、罐詰三、干野菜二、草六車。

三列。草三十車。

九列。米十、麥七、調味品五、加給品二、草六車。

十五列。米四、割麥一、麥六、罐詰半車、干野菜半車、調味品一、薪七、炭十車トス。

加給品ハ酒一合、煙草二十本、甘味品十五匁ノ割ニテ二車ニ平均ニ積込ムコト、

右ニ對シ、左ノ返電アリ 二十三日午前  
四時三十分奉天受

答、一列ハ時間過ギ三列ハ間ニ合ハズ。九列ヨリ命ノ如ク積ム。

次デ又左ノ電報アリ。

今答ヘタ電ハ誤解ナリ。二十四日ヨリ命ノ如ク積ム。

右ニ付左ノ如ク電報ス 二十三日午前  
八時十五分奉天發

遼陽ヲ二十四日ニ發スル列車ニ接合スル爲メ大連二十三、九列ヨリ前電ノ  
如ク積込ムベシ。

右ニ對シ、左ノ返電アリ 二十三日午後  
零時四十分奉天受

本日(二十三日)九列ハ命ノ如ク積ム。十三列ハ是迄通り積ミ今夜一列ヨリ貴  
命ノ割ニテ積ミテヨキカ。

依テ更ニ左ノ如ク電報ス 二十三日午後  
一時三十分奉天發



答、二十四日ヨリ改正ニハ十五列、大連午後十一時發アル筈。其レニハ前電ノ如ク配合シテ積込ミ十三列アラバ適宜ニ積ミテヨシ。

然ルニ又前電ニ依レバ漬物ハ送ラズトモヨキモノ、如シ。若シ送ルコトナラバ何列ニ積ムベキカトノ電報アリ。依テ漬物ハ調味品ノ内ニ融通シテ積メト返電セリ。

後又左ノ電報アリ二十三日午後七時奉天受

二十三日ノ十三列ハ當地ニ於テ十五列ト名ガ變ルト提理部ニテ言フ故ニ命ノ如ク積ム。

○大連發七時二十二分ノ汽車ハ二十三日ニモ二十四日ヨリニモナシ。又二十三日十一列ハ午後七時十分ナルモ倉庫ニテ使用スルモノニアラズト。

四月二十三日 神尾遼東守備軍參謀長へ電報午前一時三十分奉天發

藤田主計ヨリ左ノ報告アリ○陳印堂(清國巡警)ニ對スル嫌疑ハ全ク水解セリ井戸川軍務官曰ク初メ同人ヲ疑ヒタルハ關外ニアル日本間諜ノ情報ト新民

屯土人ノ密告ト符合シタルニヨレリ。其後取調べヲ重ネタル結果同人ノ行動ニ付テ疑フベキコトナキニ至レリ。又武器ヲ關外ニ持來リシ形跡モナシト。

同二十三日 第二回糧秣業務計畫ヲ定ムルコト左ノ如シ。

第二回計畫書ノ説明

甲 改正ノ要點

- 一 四月二十四日ヨリ東清鐵道ハ奉天ヲ經テ心臺子迄全通セララル、ニヨリ第二、第四兩軍ヘノ補給地深井子及ヒ蘇家屯ノ兩所ヲ廢シ奉天及心臺子ヲ新ナル補給地トセシニアリ。
- 心臺子方面ナル第一軍揚屯兵站部ヨリ輸送ニ便ナル同軍ノ一個師團ノ日量ヲ心臺子ニテ交付ノ事トセリ。
- 二 遼河水路輸送ノ三個師團日量ヲ五個師團ニ改メラレ關外鐵道ト合シテ九個師團日量ヲ高力屯ニ集メ此處ニテ第三軍ニ交付ス同軍ニ於テ其所要量ヲ使用シ殘餘ハ馬蜂溝ニ貯藏セラル、筈蓋シ不日鐵嶺附近ニ一



大倉庫ノ設備ヲ願慮セララル、ニヨル。

三 各軍貯藏糧秣ノ關係等ニヨリ本期間補給ヲ中止セシ部分等アリテ輸送力ニ餘裕ヲ見ルニ至リタルヲ以テ此間ヲ利用シ各軍ニ對シ均シク干草ノ補給ヲナスヲ得ルニ至リシハ軍馬ノ給養上利益多カラシ。

四 各軍ノ實際ニ照シ其要求ニ應ジ追送副食物(罐詰、干野菜類)ノ補給ハ全量ノ三分一トシ尙ホ第二第四ノ兩軍ニ對シテハ特ニ其照會ニ應ジ別ニ全量ノ約三分一ヲ我倉庫ニ於テ(營口、新民等ニテ)生肉、生獸、生野菜類ヲ調辨シ送付ノ事ニセリ。

乙 五月一日以後ニ於テ本計畫ニ加除ヲ要スル點ハ其期ニ臨ミ決定ノ筈  
明治三十八年四月二十三日奉天ニ於テ、

滿洲軍倉庫長 日 匹 信 亮

第二 滿洲軍倉庫糧秣業務計畫書 (其二)

明治三十八年四月二十四日ヨリ

第一 滿洲軍ノ給養兵額ハ約二十二個師團トス

内 譯

第一軍 五個師團半及鴨綠江軍ノ内一個師團半

第二軍 六個師團半

第三軍 四個師團

第四軍 四個師團半

第二 軍ノ補給線ハ三條ニシテ毎日左ノ師團日量ノ輸送力ヲ有ス

甲 東清鐵道ニヨルモノ

糧秣ノ爲メニ供給ヲ受クベキ貨車數ハ遼陽以南ニ於テ二百五十其以北ニ於テ二百二十トシ此輸送力約十八日分トス。

乙 遼河ノ水路ニヨルモノ

當分五日分ノ輸送力ヲ用ユ。

丙 關外鐵道ニヨル輸送力モ約五日分ノ見込。



第三 各軍日量ノ補給地ハ左ノ如シ。

甲 東清線ニヨルモノ(附表其一)

- a. 李石寨ニ於テ 第一軍(一個師團缺)及鴨綠江軍ノ内一個師團半
- b. 奉天ニ於テ 第四軍ノ内人一個師團半ト馬一個師團
- c. 心臺子ニ於テ 第一軍ノ内一個師團

第四軍ノ内人二個師團、馬二個師團半

第二、第四軍用ノ壓搾干草ハ奉天ニ於テ補給ス。

第一軍用ノ同品ハ同軍ノ日量ト共ニ交付ス。

第二軍全部干草ハ別ナリト第四軍ノ内一個師團ハ當該軍ニ於ケル貯藏品ノ關係上五月一日以前ニ於テ補給ヲ要セズ

乙 水路及關外線ニヨルモノ

此兩線ハ各特種ノ性能ヲ有スル故之ニ應ジテ輸送品ヲ選擇シ兩線相共通シテ豫定ノ輸送ヲ全ウスル計畫ナリ(附表其二)

第四 準備糧秣

此糧秣ハ悉皆高力屯ニ於テ第三軍ニ交付ス同軍ニ於テ日量以外ノ糧秣ノ主ナルモノハ馬蜂溝附近ニ於テ特別ニ貯藏セラル、筈

甲 各軍ノ貯藏糧秣ハ各其給養兵額ニ對スル十五日分ヲ標準トセラル

乙 軍ノ直後ニアル補給地

- a. 李石寨、心臺子ニハ別ニ準備量ヲ置カズ。
- b. 奉天、高力屯ニハ當該各軍ヘ交付日量ヲ標準トス。  
但、場合ニヨリ若干日分ノ貯藏ヲ爲スコトアリ。

丙 遼陽ニハ軍ノ十日乃至二十日分

遼陽現在糧秣ハ約八日分アリ東清線ノ輸送力、遼陽以北ニ比シ其以南ノ供給ニ於ケル日々約三十車ノ増差アリ此内ヨリ各般ノ出來事ノ爲メ十車ヲ減ジ残り二十車ニテ約一個師團半ノ日量ヲ日々遼陽ニ追送セバ四月下旬ヨリ起リ約三個月半即チ八月上旬ニ至レバ貯藏量ノ中數即チ軍ノ十五日



分ニ達スルヲ得ベシ遼陽倉庫ノ建物ハ雨期ニ在テハ十五日分以上ノ貯藏ヲ爲サンニハ勢、俵物等ヲモ野積ニセザルベカラザルニ至ルヲ以テ特別ノ必要起ラザル限リハ此中數ニテ止メル計畫トセリ。

丁 營口及大石橋線ニハ全軍二十五個師團分ニ對スル一箇月乃至二箇月分但、此線ニ在テハ若干ノ干草、薪炭等ヲモ加フル故師團日數ノ總相數ヲ約三千ト見做ス。

α. 營口ニハ支那米ノ外現在糧秣軍ノ約三分ヲ有スルノミ營口、大連間ノ糧秣ノ爲メ用ヒラルベキ運送船ハ現在十五艘、一艘平均二萬六千捆積ミ毎月往復四回ノ割ニテ毎日平均陸揚ダ約五萬二千捆内一割ヲ糧秣以外ノモノトシテ減ジ四萬七千捆(A)内地ヨリ營口ニ直送船十五艘毎日平均二萬六千捆ノ内糧秣約三分ノ二即チ一萬七千捆(B)トシA、Bノ計六萬四千捆現在日々前送量五萬ヲ引キ残り一萬四千捆假リニ四個師團トシ四月二十四日ヨリ月末迄ニ僅カニ軍ノ一日分強ヲ營口ニ剩スノミ前ノ

三日分ト共ニ是等ノ數ハ不時ノ故障ニ備フルノミ

故ニ營口大石橋線貯藏ノ目的ヲ達スル爲メニ更ニ左ノ計畫ニヨル

大連、營口間ニ於テ糧秣ノミニ使用セラルベキ計算ノ運送船ヲ二十艘トシ毎日平均六萬九千捆(A)内地、營口間ニ於テ糧秣ノミニ使用セラルベキ計算ノ運送船十艘毎日平均一萬七千捆(B)トシA、Bノ計八萬六千捆ナリ今後軍ノ兵額ノ増加ノ場合アルモ營口ヨリ約六萬捆ノ追送ヲ爲スモノトセバ差支ハナカラン。86,000—60,000=26,000 計算ヲ便ニスル爲メ二萬五千捆ト見做シ以テ冬期ニ於ケル營口貯藏要數ノ最小限タル全軍ノ一ヶ月量二百二十五萬捆ヲ除セバ三個月即チ五月初メニ起リ七月末ニハ貯藏ヲ終ユベク同算法ニヨリ最大限タル二ヶ月量ヲ十月末即チ遼河結氷期前ニ於テ營口ニ貯藏シ終ル計畫ナリ。

戊 大連灣 内地ヨリノ追送品ニシテ乙、丙、丁ニ貯藏セルモノト輸送途中ニアルモノ、外ハ悉皆大連及柳樹屯ノ兩倉庫ニ貯藏ス



四月二十三日

辻村遼東守備軍經理部長へ電報午前三時奉天發

東清鐵道ハ二十四日ヨリ心臺子ニ直通ノ豫定ナルニヨリ總司令部ノ意圖ト各軍ノ要求ト輸送力ト在庫品等ニ鑑ミ此方面ノ糧秣業務ハ四月中左ノ如ク實行スル筈。

第一軍へハ李石寨ニテ六個師團、心臺子ニテ一個師團

第四軍へハ心臺子ニテ約二個師團半、奉天ニテ約一個師團

第二軍ハ奉天附近ニ多クノ糧秣アル故交付セズ此等ヨリ生ズル貨車ヲ以テ別ニ干草ト木炭此後若干ノ薪ヲ第二軍へ、干草ノミヲ第一軍へ交付シ始メル筈、尙ホ第四軍兵站ト今相談中。

同二十三日 大連本倉庫磐井藥劑正ヨリ電報午後三時三分奉天受

當分ノ内毎日大連發奉天行キノ一車ヲ衛生材料ニ配當ヲ乞フ。但、遼陽送リハ明日ヨリ中止ス。

右返電午後三時四分奉天發







遼陽	李石寨	後 10,55	前 5,25	1	5	5	25	3	2						9	50	1	311	第一軍宛約六個師團ノ内
同	心臺子	前 1,55	前 8,30	3	6	2	11	1	1	1,5					7,5	30	3		第二軍ノ内二個師團
同	同	前 4,55	前 11,30	5	3	1	6	0,5	0,5	0,7	0,3				15*	30		315	第一軍宛約一個師團
同	同	前 7,55	後 2,30	7															
同	李石寨	前 10,55	後 5,25	9	10		7			5	2				6	30	9		第一軍宛約六個師團ノ内
同	奉天	後 1,55	後 5,55	11															
同	心臺子	後 4,55	後 11,33	13	6	2	15	1	1	1,5	0,5				3	30		307	第四軍宛約八二個師團、馬二個師團半
同	奉天	後 7,55	後 11,55	15	4	1	6	0,5	0,5	1		7	10	20	50	15	309	薪炭、干草、第四軍宛約人一個師團半、馬一個師團	

1.此列車ヲ直通セシムル爲メ大連及營口ヨリ下ノ如ク區分シテ積出スコト

2.心臺子行列車ハ遼陽支庫ニテ積込ヲ要ス

### 大 連 遼 陽 間

發	着	時 刻		列 車 番 號	積 載 區 分													備 考	
		發	着		米	割 麥	麥	罐 詰	干 野 菜	調 味 品	加 給 品	薪	炭	干 草	計				
大 連	遼 陽	前 2,0	後 10,28	1		5	14	3	2							6	30	1. 本表 1. 3. 9. 15. 列車ハ遼陽以北ニ直通セシムルタメ糧秣ノミヲ積載シ他ノモノヲ積込マズ 2. 在庫品ノ都合ニヨリ本表指定ノ品種ニ不足アルモノハ他ノ同種ヲ以テ代ヘ積込ミ次ノ日ノ同一番號列車ニテ差引ヲナス様勉ムルコト 午前五時發列車ハ遼陽支庫ニテ積込ヲ要ス	
同	同	前 5,0	前 1,28	3	6	2	11	1	1	1,5						7,5	30		
同	同	前 8,0	前 4,28	5															
同	同	前 11,0	前 7,28	7															
同	同	後 2,0	前 10,28	9	10		7			5	2				6	30			
同	同	後 5,0	後 1,28	11															
同	同	後 8,0	後 4,28	13															
同	同	後 11,0	後 7,28	15	4	1	6	0,5	0,5	1		7	10			30			

### 營 口 遼 陽 間

發	着	時 刻		列 車 番 號	積 載 區 分													備 考	
		發	着		米	割 麥	麥	罐 詰	干 野 菜	調 味 品	加 給 品	薪	炭	干 草	計				
營 口	遼 陽	前 1,45	前 8,58	303															1. 本表 307. 309. 311. 313. 315. 列車ハ遼陽以北ニ直通セシムルタメ糧秣ノミヲ積載シ他ノモノヲ積込マズ 2. 在庫品ノ都合ニヨリ本表指定ノ品種ニ不足アルモノハ他ノ品種ヲ代ヘ積込ミ次ノ日ノ同一番號列車ニテ差引ヲナス様勉ムルコト 3. * 印ノ貨車ニ積載シタルモノハ當分ノ内遼陽ニ荷卸シ * 15 ニハ生肉、生野菜ヲ積載スル積リ
同	同	前 4,45	前 11,58	305															
同	同	前 7,45	後 2,58	307	6	2	15	1	1	1,5	0,5				3	30			
同	同	前 10,45	後 5,58	309											20	20			
同	同	後 1,45	後 8,58	311	5		12								3	20			
同	同	後 4,45	後 11,58	313													30*		
同	同	後 7,45	前 2,58	315	3	1	6	0,5	0,5	0,7	0,3				15*	30			
同	同	後 10,45	前 5,58	301											3				



關外線及水路輸送糧秣補充計畫表 (其二)

(九個師團計畫)

備考 必要ニ應シ臨時ニ加給品ハ關外鐵道ニテ携帶口糧ハ關外鐵道又ハ水路ニテ輸送ス

營口	關外鐵道	新民	陸路(二里半)	高力屯
	內地米	4,200		
	支那米	600		
	割麥	600		
	調味品ト茶(粉味噌ノ三分一ヲ除ク)	940		
	營口製味噌	100		
	大麥	3,560		
		計 10,000捆		

營口	水路	高力屯
	大麥	7,690
	罐詰肉	600
	干野菜	300
	漬物	360
	携帶口糧	1,100
	壓搾干草	1,450
	薪	1,000
		計 12,500捆

關外、水路合計 22,500捆



答、大連午後七時二十分發十五列ノ薪一ヲ減シ衛生材料ヲ積ムベシ。

次、又左ノ電アリ午後五時三十分奉天受

遼陽ノ病院ニ交付スベキ衛生材料五百三十梱(三車)今夕十三列車ニ積ミタシ承認アリタシ。右ハ支庫ニテ品切ノモノナリ。

右返電午後六時十分奉天發

答、今夕十三列ノ内衛生材料三車積込ミノ件承知ス。

四月二十三日 韓國京城遠藤主計監ヨリ電報午後六時十分奉天受

汽船常盤丸船主言フ左右ニ托シテ熟議抄ラズ。故ニ貴軍司令官ノ名ヲ以テ徵發スベキニ付其旨電報ニテ當部ヘ申越サレタシ。當部ハ其レヲ以テ船主ニ取次ギ直ニ營口ニ廻航セシムベシ。

次、又左ノ電報アリ午後六時五十分奉天受

過刻電報セシ常盤丸ハ壹萬五千圓ニテ賣渡ス旨船主承諾セリ。依テ徵發ハ止メニセン。同船ハ至急大連ニ向ケ出帆スルコトニ仁川碇泊場ニ依頼セリ。



大連ヨリ更ニ營口ニ廻航ノ事ハ大連碇泊場ニ依頼スル筈。代金仕拂ハ營口ニテナス筈。他ノ一艘ハ修繕ノ爲メ一週間程遅レル。

同二十三日 金山第四軍兵站經理部長ヨリ左ノ照會アリ。

別紙當部用建築材料貴倉庫營口支庫ニ於テ購入ノ上當部へ御送付相成度此段及御依頼候也

營口ニテ購買スベキ建築材料

第四軍兵站經理部

品名	數量	長サ	末口	單價	納人
杉丸太	八百七十本	十尺	三寸	一本ニ付七拾五錢	森田欽次郎
同	五千六百九十九本	十四尺	三寸	同 壹圓拾錢	同
同	六百四十本	三間	三寸	同 貳圓	同
杉中横	二千本			同 參拾參錢	同
鐵	五百五十貫			一貫ニ付七拾錢	同

品名	數量	間	寸	單價	納人
洋釘	一萬斤			百斤ニ付拾四圓	森田欽次郎
杉丸太	千四百六十七本	三間	四寸以上五寸以下	一本ニ付一六圓五拾錢	山ノ井格太郎

備考 荷積噸數ハ合計約四百八十五噸

右ニ付金子營口支庫長へ左ノ如ク申遣ス。

別紙ノ通り金山經理部長ヨリ依頼有之候ニ付爲シ得レバ盡力相成様希望スル所ナレ共此例ヲ開ク時ハ今後他軍ヨリノ依頼アル場合ニ於テ斷リ難キ心配ナキニアラズ併シ糧秣以外ノ列車ニ於テ融通附クコトナラバ成ル丈ケ盡力セラレ度右ハ經理部長ト倉庫間ノ今後公務上ノ關係ヲ圓滿ナラシムルコト、モ相成好都合ト存セラレ候貴官ノ意見ヲ聽キ度旁、如斯候也

四月二十四日 遼陽橋元主計ヨリ電報奉天受

夏服全部到着セリ○第一、三、四軍共略ホ渡シ濟ミ。第二軍ハ近々當地ニテ渡ス筈○第一、三軍ノ渡シ残り少數ト遼陽第五臨時築場團及煙臺採炭所行ハ明



日二十四日(當地ニテ渡ス筈。第四軍ノ渡シ残り少數ハ明後日奉天支庫へ送ル。總司令部及ヒ同部附屬電話隊ノ分ハ第四軍ノ分ト共ニ送ル。

同二十四日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午前二時三十分奉天發

夏服第一、三、四軍へ略ボ渡シ濟ミ〇二軍へハ近々ニ渡ス〇總司令部ト其直屬部隊ト其他ノ獨立部隊等へハ明日(二十四日)カラ渡シ始ムル筈。

同二十四日 是ヨリ先キ遼陽支庫附岡主計病氣ノ爲メ不日入院ヲ要スル旨申來レリ。依テ本職ニ隨行セル辻三等主計ヲ一時應援トシテ兼勤セシムルコトトナシ、橋本主計へ左ノ如ク電報ス午前二時三十分奉天發

岡主計ノ代リニ辻主計ヲ一時貴庫附兼勤トシテ明日(二十四日)赴任セシム。篤ト申繼ギヲナサシメヨ〇岡主計ハ成ルベク遼陽ニ於テ療養シ、速ニ全快セシムル様配慮アレ。

同二十四日 石井建築部長ヨリ大連伏見臺前ヨリ旅順街道ニ通ズル輕便鐵道軌道約一哩分一時貸與セラレタキ旨照會アリ。依テ入用ノ節ハ何時ニテモ返

却セラルベキ條件ヲ以テ貸與ノコトラ承諾シ、其旨同部長へ返電シ、且大連本倉庫へ電命セリ。

四月二十四日 大連本倉庫へ電報午前二時三十分奉天發

此節追送品中ニ珍シキ品ガアラバ電報セヨ。又其見本ヲ特使ニ持タセテ來レ〇煉味噌モ同様トス。

同二十四日 新民屯米田主計へ電報午前三時三十分奉天發

麥ト割麥ヲ第三軍經理部長ヨリ請求アリシ故此品ヲ急イデ送レ。

同二十四日 汽車開通ニ付新ニ出張所開設ノ爲メ派遣シタル在心臺子兵站司令部松野主計へ電報午前十一時三十分奉天發

其地ノ準備出來タカ。直グ返。

次デ左ノ如ク電報ス午後零時三十分奉天發

第五列車今着ク。直グ貴地ニ向ヘリ。第一軍へ交付方準備アレ。

右ニ對シ左ノ返電アリ午後一時五十分奉天受



答、第四軍ノ爲メニハ差支ナシ。第一軍ハ今事務員着ク。打合セ居ル。明日  
デナケレバ用意出來ヌ。第二軍ハマダ來ヌ。○下官ハ第四軍兵站宿舍ニ入ル、  
家屋使用シ得ルモノ六棟アルノミ。事務所兼宿舍建設ヲ昨夜支庫長へ申請  
シ置ケリ。

同二十四日 遼陽橋元主計ヨリ電報午後零時三十分奉天受

汽車ノ運行ニハ變更ナシ。第十五列ト第三百九列ト結合シ奉天ニ直通、第十  
三列ハ遼陽ニ止マリ、第三百七列ノミ心臺子ニ直通。○以上岡野少佐ニ就キ儘  
メタリ。

同二十四日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午後零時四十分奉天發

干草ト薪炭ハ第四軍へモ第二軍ト同様奉天ニテ交付スルコトニセリ。○汽車  
ハ本日ヨリ豫定ノ如ク心臺子ニ全通セリ。

同二十四日 前心臺子大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後二時二十分奉天受

當軍ニ於テハ五月初旬ニ盛ナル招魂祭ヲ舉行セラル、答ニテ軍經理部長ヨ

リ何か珍ラシキ加給品、副食物ヲ買求メクレトノ事ナリ。就テハ當部ヨリ營  
口へ主任者ヲ派シテ此要求ヲ充タスモノヲ買求ムベキ筈ナルモ、勝手不案内  
ナルモノヲ派シテモ其効力少ナク、又其輸送ニ關シテハ是非貴倉庫ヲ煩ハサ  
ザルヲ得ズ且ツ營口ノ市場ヲ搔キ廻ハス嫌ヒアリ。依テ營口支庫ニ於テ何  
ナリトモ適宜ノモノヲ調辨シ、關外線ニテ送ラル、方好都合ナリ。否ヤ返○  
加給品三回分程至急御送付頼ム。

右返電午後二時三十分奉天發

答、招魂祭ノ買物承知ス。取調べタル上意見申出ヅ。○加給品モ直グ送ル。但  
一回分トハ酒二合、煙草二十本、甘味品三十枚ナルヤ。○酒一合、煙草二十本、甘味  
品十五枚ナルヤ。○此分別ニ分量アリヤ。直グ返。

右ニ對シ左ノ返アリ午後六時奉天受

加給品ハ一回分二合、二十本、三十枚デ追送頼ム。之ヲ給與スルドキニハ軍デ  
分量ヲ極メル。



右ニ付、金子營口支庫長へ電報時三十分奉天發

五月初旬ニ第三軍ニ盛ナル招魂祭ヲ行フ爲メニ何か珍シキ加給品、副食物ヲ營口ニテ買求メ關外鐵道ニテ送付依頼シ越セリ。至急取調ベテ返アレ。

次デ又左ノ如ク電報ス二十五日午後五時奉天發

第三軍八萬人ニ對スル加給品一回酒二合、煙草二十本、甘味品三十匁ノ割ニテ至急關外鐵道ニヨリ送付取計ヒアレ。

四月二十四日 大連本倉庫兒玉主計へ電報午後二時三十分奉天發

今後大連ト柳樹屯ヲ合セテ毎日草五千捆以上ヲ營口ニ輸送ヲ要ス。至急實行セヨ。

大連柳樹屯船出ノ都合ヲ見計ヒ貴官ニテ適宜積込ミ配當シ、至急予ニ報告セヨ。

右ニ付、今泉主計正ヨリ左ノ返電アリ同夜一時二十分奉天發

答、碇泊場ト協議ノ上船十五ノ内五ハ大連廻ハシトナル〇一艘一箇月約四回

ノ航海ノ見込ミ、柳樹屯モ大連モ一艘ヲ三千捆積ノハ十八萬捆トナル。貴命ノ數ト三萬捆超過スルモ豫定ノ航海ヲセザル船モアルベシ。故ニ支庫長ト一艘ヲ三千捆積ムコトニ決議ス〇右報告ス。

四月二十四日 金子營口支庫長へ電報午後三時十分奉天發

黒川部長ヨリ依頼アリ〇蒟蒻粉二萬貫、苦鹽五百貫營口ニテ買入レ送ラレタシ。皆ナケレバ出來ル丈直グ送レ〇返待ツ。

右ニ對シ左ノ返電アリ午後四時四十分奉天發

黒川部長ヨリ依頼ノ蒟蒻粉及苦鹽目下品切レナリ。

同二十四日 心臺子松野主計ヨリ電報午後二時二十分奉天發

第一軍渡シノ列車荷卸濟ミ。今歸路ニ就キタリ。

同二十四日 奉天以北迄鐵道開通ニ就テハ蘇家屯及深井子ノ出張所ヲ閉鎖シ、

同地出張員ハ奉天支庫へ引揚ゲル旨前田支庫長ヨリ報告アリ

同二十四日 遼東守備軍司令官へ電報午後七時奉天發



本日ヨリ汽車心臺子へ開通ニ付第二第四軍(約一個師團)へ奉天ニテ第一軍ノ一個師團ト第四軍ノ殘リハ心臺子ニテ糧秣ノ交付ヲ開始セリ。但第二軍へハ干草薪炭生肉生牛生野菜ノ外其他ノ糧秣ハ同軍ノ都合ニヨリ當分交付セズ○心臺子へ奉天支庫ヨリ松野主計ニ下士以下二十五ヲ附シテ出張セシム○蘇家屯深井子ノ出張所ハ之ヲ撤セリ○右報告ス。

同二十四日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午後九時四分發

第二軍經理部長ヨリ生牛肉九千貫ヲ毎旬四回ツツ生野菜一萬二千貫ツツ毎三日一回ツツノ割ニテ○第四軍兵站經理部長ヨリ毎日生牛百十一頭ト生野菜五千貫ノ割ニテ今後續イテ營口新民屯等ニテ調辨送付ノ依頼アリ。承諾シ實行ニ着手セシメタリ。

右ニ對シ翌二十五日左ノ返電アリ午前十一時十分奉天受

生牛類調辨補給ノ電見タ。大ニ切望シタル處ナリ。尙ホ第一軍方面モ缺乏ノ趣ナリ。補給方講ゼラレタシ。

四月二十四日 營口支庫長ヨリ電報午後十時四分發

去十九日電命ニヨリ高力屯ニ炭ヲ送り始メタルニ大江部長ヨリ本日左ノ電アリ○新民屯米田ノ通報ニヨレバ前送品中ニ木炭アリ當分木炭ノ必要ナキニ付貴地ニ留メ置キ他ノ糧秣ヲ前送セラレタシ○故ニ明日ヨリ炭ノ輸送ヲ中止ス。

右返電午後十一時十五分奉天發

答、本職ノ命アル迄炭ハ引續キ前送スベシ

同時ニ大江兵站經理部長へ電報。

炭ハ貴軍經理部長ノ請求ニヨリ追送シツ、アリ。若シ不用ナラバ同部長ト御打合セノ上本職ニ申越アリタシ

右ニ對シ左ノ返電アリ午後五時十分奉天受

木炭ノ件ハ軍へ打合セ濟ミ。小北河ヨリ前送中ノ木炭二十五萬貫(先頭ハ昨日高力屯へ着アリ。之レガ盡クル場合ニハ更ニ前送ヲ御依頼ス。



此件ニ付、後高力屯村岡へ左ノ如ク電報二十一日午後三十分薪炭ハ第三軍ニ交付セズ。出張所ニ保管シ置ケ。

同二十四日 曩ニ野戰經理長官へ申請シタル電燈ノ件ニ付左ノ通牒アリシ旨大連本倉庫ヨリ報告アリ。

四月十六日付經長第四〇一號摘要昨年末申出ノ電燈器具材料ノ件ハ成ルベク旅順鹵獲品ヲ以テ充用シ、其不足分ヲ遼東守備軍經理部ヲ經テ申出ヅベシ。右ニ付、本倉庫今泉主計正へ電報午後十一時奉天發

電燈器具ノ件經理長官ノ通牒通り直グ取計ヒアレ。

此件ニ就テハ今泉主計正ヨリ守備軍經理部へ協議ノ上五月一日ニ至リテ申請書ヲ提出セリ。

同二十四日 奉天支庫設置ニ關シ左ノ命令ヲ受領ス。

參第四三二號

命令 明治三十一年四月

遼東守備軍司令官 男爵 西 寬 二郎

滿洲軍倉庫長日 匹信亮殿

奉天ニ滿洲軍倉庫ノ支庫ヲ設置スベシ

四月二十五日 遼東守備軍司令官へ電報

去ル二十二日參第四三二號命令ニ依リ同日奉天ニ支庫ヲ設置シ、滿洲軍倉庫奉天支庫ト稱ス。右報告ス。

同二十五日 遼陽橋元主計ヨリ電報午前一時二十分奉天受

夏服第一軍ト第三軍ノ渡シ殘リノ分本日(二十四日)當地ニテ渡シ濟ミ。昨日(二十三日)電報ノ通第四軍ノ渡シ殘リノ分ト總司令部及同部附屬臨時電話隊ノ分ハ明日(二十五日)奉天支庫へ送ル。又遼陽第五臨時築城團及ビ煙臺採炭所行各三棚ハ明日渡ス。○第二軍用ハ曩ニ兵站經理部ノ當地殘留員吉村主計ニ於テ同軍用全部當地ニテ受取ルトノ事ニ付、其計畫ヲナシ置キタルニ、本日ニ至リ同主計ヨリ兵站用ノミ受取ルト申出デタリ。依テ軍行キ及各師團ノ



交付方ニ付軍經理部長へ電報交渉中。

同二十五日 大連本倉庫及柳樹屯支庫へ電報午前三時發

營口ノ現在品ハ米麥ニ對シ副食物多キニ過グ。故ニ營口支庫長ヨリ特別ノ請求アル迄ハ副食物ヲ送ルコトヲ止メ○其代リニ米麥ヲ送レ。

右ハ同時ニ金子營口支庫長へモ其旨電報セリ。

同二十五日 辻村遼東守備軍經理部長ヨリ電報午前十一時發

竹下主計派遣方主計課長へ打電シタルニ左ノ回電アリ○竹下ハ目下歸郷療養中ニテ充テ難シ。依テ計手ヲ上級職務トシテ充ツル見込ミナリ。又増設師團編成ノ爲メ多數ノ主計ヲ要スルニ依リ、中央ニテモ全般ノ人繰リ困難ノ場合故將來ハ指名シ來ルモ應ジ難キニ付了承アリタシ。

右ニ付留守第一師團經理部坂田主計監へ左ノ如ク電報ス午後零時三十分發

當倉庫員タリシ竹下三等主計ハ後送後目下歸郷療養中ナルガ病氣全快ニ付當倉庫へ歸リタキ旨申來レリ。當倉庫ニテモ同官ハ創業以來ノ事ヲ知レル

モノ故是非歸サレタク希望ス。閣下ノ御配慮ニヨリ是非復任ノ出來ル様願ヒタシ。倉庫ハ缺員一、後送者一、猶今入院者二、出來タ。宜シク願フ○下官ハ當分奉天ニ在リ。

右返電二十八日午前七時二十分奉天受

竹下主計復任ノ事稟申セシニ既ニ補缺シアリ。且ツ歸還者ハ成ルベク補充要員ニ充テザル方針ナリト云フ。再考アリタシ。

四月二十五日 大連本倉庫ヨリ電報午後七時發

仁川碇泊場ヨリ左ノ電。

常盤丸明日出帆ニ付船員十一名本日假雇入トナシ置ク。委細文。

右ニ付大連本倉庫今泉主計正へ電報午後七時發

常盤丸其地ニ來ラバ營口へ廻送セラル、様今日カラ大連碇泊場司令官ニ協議シ置クベシ。

次デ又遠藤主計監ヨリモ左ノ電報アリ午後八時十分奉天受



常盤丸ハ明日仁川出帆大連ニ廻航セシム○該船主トハ本職ニ於テ假契約ヲ結ビ置キタリ。其要件ハ

- 一 常盤丸ヲ一萬五千圓ニテ貴倉庫ニ於テ買上タルコト。
- 二 四月二十五日仁川ニテ引取り其後一切ノ責任ハ官ニ於テ負擔スルコト。

三 代金ハ營口へ回送ノ後貴倉庫ニテ支拂フコト

等ナリ。本契約ハ貴官ニ於テ然ルベク處置セラレタシ。該船乗組員ハ其儘乗船回航セシム貴倉庫ニテ雇入レタルコトニ致シタシ。給額標準ハ仁川碇泊場ヨリ通報アル筈。

右ニ對シ、左ノ如ク返電ス時二十六日午前一時三十分奉天發

答、常盤丸ニ對スル御配慮ヲ謝ス。乗組員ヲ皆引繼キ雇入レタシ、宜シク願フ

○以後同船ニ關スル責任ハ當然下官ニテ負擔ス。

次デ又左ノ電報アリ時二十六日午後六時五十分奉天受

常盤丸ハ出帆セリ。他ノ一艘ハ目下、鎮南浦碇泊場ニ借上ゲアル第十永田丸ニテ貴倉庫ニ買上グルモ船主及ビ右碇泊場ニテ差支ナキ旨協議調ヒ來リシ處借上ゲ契約元ナル運輸本部ニ必要アリトテ借上ゲヲ解除スルコトヲ承諾セズ。宇品碇泊場ヲ經テ再三交渉セシモ應ゼズ。其他ニ責任ヲ負フテ周旋スベキ船當方面ニナシ。右ノ次第故一艘ハ他ノ方面ニテ求メラレタシ。

翌日更ニ又左ノ電報アリ時二十七日午前十一時二十分奉天受

第十永田丸ハ運輸本部ニテ解約ヲ承諾セル旨昨夜電報アリ。船主ヨリ同部へ解約出願中ナリト。依テ昨日ノ電報取消シ、買入ノ手配スベシ。該船ノ修理ハ三日頃終ル豫定。

右返電時二十八日午前十一時五分奉天發

答、第十永田相談好都合ノ由宜シク願フ。

四月二十五日 遼陽橋元主計ヨリ電報午後十一時三十分奉天受

夏服本日午後二時發ニテ總司令部行キ四十五梱、同部附屬電話隊十二梱、第四



軍一柵、同兵站十柵、第六師團三十四柵、第十師團二十九柵奉天支庫へ送レリ。  
又第五築城團下煙臺採炭所用六柵渡シ濟ミ〇之ニテ第二軍以外ノモノハ全部渡濟ミ。

四月二十五日 午後十二時高力屯村岡主計職務ヨリ藤田主計宛防寒被服受授方其他ノ件ニ付電報アリ。

依テ左ノ如ク返電ス二十六日午前一時奉天發

防寒被服ハ柵包ノ儘受授スベシ。内容ヲ改ムル必要ナシ〇小屋掛材木代壹千圓以上トハ何坪ノ代ナルヤ〇糧秣ノ下敷ニハ營口ヨリ薪ヲ送ル筈。但、買入レ濟ミノモノハ其レデヨシ。後ハ見合ハスベシ。

右ニ對シ左ノ返電アリ二十六日午後一時奉天發

木材ハ四百坪ノ分ナリ。既ニ豫定數約三千五百ヲ伐採セリ但、小屋掛ニ不適當ノモノハ枕木ニ使用ス〇營口ヨリ高價ノ薪ヲ運賃ヲ拂ヒテ送ルヨリハ四寸ヨリ六寸迄ノモノ約參拾五錢ニテ買收スル方得策ト存ズ〇營口支庫長ヨ

リモ木材代問合セアリ。意見申出デタ。

同二十六日 金子營口支庫長へ電報午前一時奉天發

今後關外ニテ四個師團水路ニテ五個師團ノ積出シ準備ニ差支ナキヤ。直グ返。

炭二十五萬貫第三軍ニ於テ小北河ヨリ高力屯へ廻セシ由ナル故其倉庫ヨリノ水路輸送ヲ中止スベシ。

右返電午前三時五分奉天受

答、關外及水路ノ輸送量益スコト差支ナシ。

右ニ付、辻村遼東守備軍經理部長へ電報午前八時五分奉天發

營口ヨリ水路輸送ハ現在三個師團量ノ處五個師團量ニシタシ。御承認ノ上ハ其筋ヨリ關係兵站司令部へ御指命至急御取計願フ。

右ニ對シ左ノ返電アリ午前十一時五分奉天受

答、水路輸送ハ五個師團迄増加スベキ事ニ數日前命令濟ミ。但、營口ニ品薄ノ



爲メ實行ハ後レルナラン○尙ホ最大輸送力モ用ユベキ要起ルヲ慮リ調査中  
○今明日中ニ上田參謀貴地ニ着スル筈打合セアリタシ。

四月二十六日 金子營口支庫長へ電報正午奉天發

今後水路ハ日々左ノ品種五個師團量ヲ輸送スベシ。

- 大麥 七六九〇梱 携帶口糧 一、一〇〇梱
- 罐詰肉 六〇〇梱 干草 一、四五〇梱
- 干野菜 三〇〇梱 薪 一、〇〇〇梱
- 漬物 三六〇梱

同二十六日 金子營口支庫長へ電報午後七時四分奉天發

奉天以北ニ集マリアル各軍ニ於テハ酒保用等ノ物資ニ缺乏シ、各部隊ハ非常ナル高價ニテ不十分ナルモノヲ調辨セネバナラヌ勢ニ迫リ居レリ。故ニ此際各軍ノ代表者トシテ支庫ニテ買入レ、汽車便ニテ奉天ニ送ル手段ヲ取ルコトニ就テ總司令部ヨリ談シアリ。依テ速カニ品ト代價等ヲ取調べ内報スベ

シ。左ニ記スル品ト代價ハ與倉軍政官ヨリ取調べ、總司令部へ報告セシモノナリ。

- 酒(五千樽) 拾九圓五拾錢 古酒 貳拾壹圓五拾錢
- 味噌(五萬貫) 六拾錢 ビール(五千箱) 拾壹圓
- 岩ねこし(六十萬袋) 壹錢五厘 葡萄酒(千ダース) 五圓八拾錢
- 醬油(千石) 參拾貳圓 罐詰類(一萬ダース)・參圓參拾錢
- 酢(二百石) 貳拾八圓 鹽 魚(千貫) 壹圓八拾錢
- 玉子(五十萬個) 壹錢貳厘
- 山ノ井ト云フ商人ガ最近營口相場ナリトテ本職へ述ブル處次ノ如シ
- 醬油 三斗六升入 七圓乃至八圓
- 味噌 十八貫入 七圓乃至八圓
- 大根漬 十八貫入 六圓五拾錢
- 午券 一貫匁 七拾錢



若布

一貫匁

壹圓(一個八厘五毛)

酒

一樽

拾七圓

委細ハ今夜八時奉天發特便ニテ手紙出ス。

次デ又左ノ如ク電報ス奉天發 同夜一時

大江部長ヨリ左ノ電アリ。

恩賜品又ハ大阪製菓會社ノ分ト同一程度ノ「ビスケット」ハ營口ニテイクラ

ニテ買入レ得ベキヤ。遼陽ニテ前記大阪會社製ノモノ一貫匁貳圓四拾參

錢ニテ納ムルモノアリ。價格相當ナルヤ。昨日返電アリシ、目下御取調中

ノ中ニ右種類ノモノ含ミアルヤ、返。

先刻電報セシ總司令部ノ委托品取調べ急グ。貴官ノ意見丈ニテモ電報アレ。

翌二十七日 金子支庫長ヨリ電報午前九時四分奉天受

第三軍招魂祭用加給品取調べ價格左ノ如シ。必要ノ品ト數量直グ電報アリ

タシ。

ビール

一箱

拾圓八拾錢

酒

四斗四升入

拾九圓七拾錢

煙草

(天和)二十本入

五錢五厘

菓子

(三種取交セ)百匁

貳拾錢

夏密柑

貳錢五厘

玉子

壹錢壹厘

同日更ニ左ノ返電アリ午前八時四分奉天受

答、目下物資多數現存ス。軍政官ノ取調べタル價格ヨリモ廉價ニ買入レ得ル

見込ミ。其一、二ヲ擧グレバ左ノ如シ。

古酒(金露)

拾九圓七拾錢

味噌

十八貫入

九圓乃至拾圓

漬物

上等十六貫入

六圓五拾錢

ビール

一箱

拾圓八拾錢



壹錢壹厘

玉子

ビール、漬物ハ早ク買入ニ着手シタシ。價格ノ變動ヲ恐ルレバナリ。○山ノ井ノ云フトコロハ最下等品ノ價格ナラン。詳細ハ本日中午ニ取調べ報告ス。

四月二十六日 遼陽橋元主計ヨリ電報午後八時奉天受

第二軍用夏服本日午後ヨリ兵站ノ分渡シ始メタ。明日ヨリ軍ノ分モ渡ス筈。

右ニ付、辻村遼東守備軍經理部長ヘ電報午後十時奉天發

夏服第一、三、四軍ノ殘リト總司令部ト附屬電話隊第五築城團、煙臺採炭所ヘハ

本日迄ニ渡シ濟ミ。○是レニテ第二軍ノ外皆濟ム。○第二軍ヘハ本日ヨリ渡シ

始メタ。

四月二十七日 遼東守備軍々醫部賀古部長ヘ電報午前一時奉天發

當倉庫員一等主計赤石雄作、二等主計坂本昌二、三等主計岡熊之助ノ三人遼陽

ニテ入院シ、坂本ハ大連迄後送ニナリ、岡モ亦後送トナルヤノ話アリ。若シ大

連ニ止マリアルコトナラバ成ル丈同地ニテ療養セシメラル、コトニ願ヒタ

シ。○山口三等主計モ一兩日中ニ入院スルコトニナルトノ話。御一考ヲ願フ。

同二十七日 大連本倉庫今泉主計正ヨリ電報午前一時奉天受

四月十七日附野戰經理長官ヨリ辻村經理部長ヘ通牒アリ。

一 遼東守備軍ノ兵站管區擴張ノ結果安東縣ニ差當リ滿洲軍倉庫ノ派出所

ヲ設置シ、鴨綠江軍ヨリ引繼ギノ内同所ニ集積シアル糧秣及ビ目下内地ヨ

リ同軍ヘ輸送シツ、アル糧秣ヲ受領セシムベシ。

二 前項派出員ニハ鴨綠江軍ヨリ貴軍ヘ轉屬セシメラルル倉庫要員ヲ以テ

充ツベシ。

辻村部長ノ移牒追書ニ第二項倉庫要員トアルハ主計二、計手四ナリト。

同二十七日 大連本倉庫ニ於テ三輪島ヲ庫手ニ採用ス。

同二十七日 遼陽橋元主計ヨリ電報午後七時奉天受

本日夏服兵站(第二軍)ノ分全部渡シ濟ミ。○軍行ハ七百八十九梱交付セリ。

右ニ付、辻村遼東守備軍經理部長ヘ電報午後七時三十分奉天發



夏服〇二ノ兵站皆渡シ濟ミ〇軍ノ分一部渡シ始メタリ。

四月二十七日 金子營口支庫長へ電報午後十時十分發

總司令部ノ尾野參謀明朝六時發ニテ貴地ニ行キ與倉軍政官ノ處ニ泊ル筈〇  
總司令部ヨリ依托セラレタル食品類買入ノ件ハ萬事同官ノ意圖ヲ受ケテ取  
リ計ヒアルヲ要ス。昨日手紙中ニアル直段ノ決定ヲ倉庫ニテ引受ケルコト  
ハ取り止メトナル故ニ直段ノ事モ一應尾野參謀ニ申出デ其決定ヲ受クル筈  
〇此品ハ總司令部ガ買入ル、ヲ倉庫ニテ取扱フマデナリ。責任ハ凡テ總司  
令部ニアリ。品ノ鑑定ニハ遼陽ノ木寺ト山岸ノ二人(共ニ雇員)ヲ明朝出發貴  
地ニ行カシム〇尙ホ與倉中佐ト打合セ置カルベシ〇大江部長ノ依托アリ。  
目下營口ニ着シアル海老澤作次郎ノ樽詰練買入ニ着手アレ〇五千坪ノ材料  
着セシヤ。

同二十七日 總司令部ニ於テ尾野參謀ト會見シ、左ノ約束ヲナス。

一 新民屯ニ於テハ酒保ニ屬スル日本品ヲ買入レザルコト。

二 新民屯ニ於テ同地ニ集マル生牛、生野菜等ヲ滿洲軍倉庫ニテ一手ニ買入  
レ、之ヲ各軍ニ交付スル故各軍ヨリハ同地へ買入ノ爲メ入り込マザルコト。  
此件ニ就テハ新民屯軍務官ヨリ總司令部へ申出アリ。

總司令部ニ於テモ此事ヲ必要トス。

三 支那人ニハ新民屯ニ於テ物ヲ買ヒ之ヲ奉天ニ持テ込ムコトヲ許セリ。  
之レガ爲メニ途中ニ於テ若干ノ宿泊所ヲ許可セリ。

四 今ハ滿洲軍ノ休養ノ時期ナリ。此際加給品ヲ成丈ケ豊カニ補給スルコ  
ト。

五 總司令部ニ於テハ關外鐵道ヲ當テニセズ。只此鐵道ニテ輸送セラル、  
ヲ最モ希望スルノミ。

六 水路輸送ハ十個師團許守備軍司令部へ要求シ置ケリ。

七 水路ニテ高力屯以北ニ上ボセシモノハ馬蜂溝ニ集メ置クコトヲ第三軍  
へ通ジ置キタリ。



八 滿洲軍倉庫ハ今カラ直ニ鐵嶺通江口ノ設備ニ掛リテヨシ。馬蜂溝ニテハ第三軍ヨリ其集積セル糧秣ヲ受取リテ可ナリ。

九 營口ニアル酒保品又ハ副食物ヲ買入ル、ハ目下ノ狀況奉天附近軍隊所在地ニ品物拂底シ、非常ニ高價ナル故、各隊ノ便利ヲ計リ、之レニ代テ買收シ、之ヲ各隊ニ分ツガ爲メニシテ給養品トハ全ク別ナリ。

故ニ倉庫ハ毫モ責任ノアルニアラズ。其責ハ全ク總司令部ニ在リ。只其扱ヒヲ倉庫ニ依頼セシノミ。

但、倉庫ヨリ申出ヅル其買收品ノ品質不良又ハ不廉等ノ意見ニ對シテハ總司令部ニ於テ決シテ異議ヲ插マズ。

四月二十八日 大連本倉庫磐井藥劑正ヨリ電報午前十一時五分奉天受十

第二、第四軍請求ノ衛生材料千八百五十二梱五月三日迄ニ貴地ニ送りタシ。

明日(二十八日)ヨリ六日間二車宛御都合願ヒタシ。

右ニ對シ、左ノ如ク返電ス。

本日ヨリ六日間十五列ノ薪炭、干草ノ内ニテ衛生材料ニ二車ヅツ綜合セスベシ。

同二十八日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午前十一時五分奉天發

赤石一等主計痔ニテ入院昨日手術ヲ施サレタル故一ヶ月以上ハカ、ルト云フ。昨日、岡三等主計入院後送トナル○山口三等主計昨日入院セリ。業務多忙ノ折柄補充員直グ願フ○岡ノ代リニ竹下ヲ願フ。名指ヲ嫌ハル、モ業務ノ爲メニハ代ヘラレヌ。採否ハ其筋ノ御隨意ナリ。

同二十八日 賀古軍醫部長ヨリ電報午前十一時三分奉天受

二等主計坂本昌二大連兵站病院ニ入院ノ處病床ノ都合ニヨリ既ニ内地へ後送セリ。赤石一等主計岡三等主計ハ未ダ大連ニ來ラズ。入院ノ上ハ成ルベク當地ニテ療養セシムルコトヲ病院長ニ命ジタリ。

依テ遼東守備軍司令官へ左ノ如ク電報ス午後三時奉天發

赤石主計ハ入院シ、一ヶ月以上ナラデハ全快六ヅカシト言ヒ、岡三等主計ハ後送トナリ、山口三等主計モ入院セリ。代員補充ヲ申請ス。



右ニ對シ辻村經理部長ヨリ左ノ返電アリ二十九日午後六時奉天發

貴倉庫補缺員ノ件電照セシニ左ノ回電アリ○營口増員ニ去ル十一日ニ中央馬廠ノ一等主計石原正雄ヲ坂本ノ後ニ三師團十一補助輸卒隊附山内峻ヲ一昨日命課濟ミ。岡ノ後ニハ竹下ヲ計ラフ。

四月二十八日 金子營口支庫長ヨリ電報午後二時五分奉天發

金露酒、澤庵漬、醬油ハ目下在荷多數ニシテ買入ノ好時期ナリ。購買シテハ如何○金露ハ拾九圓、澤庵上物十六貫六圓五拾錢、醬油上物一石參拾圓位ナリ。委細ハ特使ニテ報告セリ。

右返電午後三時奉天發

答、酒及副食品ハ大連ノ我倉庫ニ山ヲ爲シアル故買入ル、必要ナシ○此程電報セシハ總司令部ノ依頼アリシニヨル○委細特使。

次デ又左ノ如ク電報ス午後三時三十分奉天發

總司令部ニテ買入レル品ハ酒味噌、岩おこし、醬油、酢、ビール、鹽魚トス。大根漬

等アラバ貴官ヨリ尾野參謀ニ話スベシ○同官ハ今夕七時十五分貴地ニ着ク筈○貴官ハ停車場ニテ待受ケ一通リ支庫ノ情況及陸揚ゲト三個處ノ積込ミノ有様ヲ陳ブベシ。成ルベク今夜カ明日ノ内ニ支庫現在ノ有様大倉庫ヲ一覽ニ供スベシ○「トロック」ノ準備ヲナシ置キ、若シ都合ヨクハ搗精所ニ案内スベシ

同二十八日 金子營口支庫長ヨリ電報午後六時奉天發

建築材料(五千坪ノ分)ハ目下選リ分ケ中悉皆整理シ終ルニハ尙ホ五日ヲ要ス○此材料ハ何レニ送付スベキヤ。

右返電午後六時奉天發

建築材料ハ汽車全通ノ上殘ラズ鐵嶺ニ直送スル筈○皆デ幾貨車ニナルカ。ドウ云フ方法ヲ送ルカ。意見ヲ附シテ電報アレ○汽車ハ五月十日頃鐵嶺ニ直通スル筈。

後、建築材料輸送ニ要スル貨車數ハ二百輛ヲ要スル見込ミトノ返電アリ。



四月二十八日 新民屯米田主計ヨリ電報奉天後一時

昨夜軍務所へ左ノ情報アリタルニ依リ守備隊長ニ協議シ警戒ヲ嚴ニセリ。

昨二十六日夕敵騎約四百遼陽窩棚法庫門北方約十六里ノ南方約三里ノキ  
ユボウカイセンニ前進シ來ル。我ガ松浦騎兵隊ハ七家子附近ニ在テ此敵  
ヲ監視シアリ○敵騎ハ遼河右岸ニ進出セシガ故ニ將來其一部ハ新民方面  
ニ進入シ來ルコトアルヤモ知レヌ。注意ヲ要ス。

同二十八日 遼陽橋元主計ヨリ電報奉天後九時三十分奉天受

本日第二軍行夏服類九百四十五捆交付セリ。残り四千七百四十一捆アリ○  
今朝營口ヨリ夏襦袢袴下第七經理部行二百六十三、第八經理部行百七十五、防  
蚊覆面第四經理部行百四十七捆受入レタリ。

同二十八日 曩ニ遠藤主計監ヨリ通報アリタル小蒸汽船常盤丸無事大連ニ到  
着セル旨今泉主計正ヨリ報告アリ。尚ホ大連ヨリ營口迄ハ更ニ母船ヲ要スル  
故其廻航方ヲ碇泊場司令部へ照會シ、明後日出帆セシメラル、等ト。

右ニ付遠藤主計監へ電報。

常盤丸二十八日無事大連ニ着セリ。三十日營口へ廻ハス等。御配慮ヲ謝ス

○第十永田ヲモ宜シク願フ。

尚ホ同時ニ金子營口支庫長へ電報奉天後十時二十分奉天發

仁川ニテ買入レタル小蒸汽船常盤丸本日無事大連ニ着セリ。明後日貴地へ  
廻航ノ筈。

同二十八日 第三軍兵站經理部員池田一等主計奉天支庫へ來リ、先キニ同兵  
站經理部ノ依頼ニ係ル生物ノ調辨高ニ關シ、左ノ約束ヲナス。

- 一 生 牛 毎月 千五百頭
- 一 生 野菜 毎月 八百貫
- 一 生 魚鹽若シクハ開キモノ 八萬人ニ對スル分

但、交付地ハ高力屯及鐵嶺トス。

右ニ付金子營口支庫長へ電報奉天後十一時三十分奉天發



生牛千五百頭、生野菜八萬貫ヲ毎月第三軍へ交付スル爲メ新民屯ニテ購買セシムベシ。

四月二十八日 生牛、生野菜調辨ノ件ニ付、藤田主計ヲシテ新民屯米田主計へ電報セシメタルニ、翌日左ノ返電アリ時二十九日午前四時三十分奉天受

答、段々取調ノ結果生牛ハ此地ノ最モ有力ナル支那人某ニ今後七日ノ後試ミニ先ヅ五十頭當地ニ曳キ來ラシメ、實見ノ上價格ヲ定メ買入ル、コトニ漸ク今朝約束濟ミ○此ノモノハ「ポンド」拾貳錢デハ應ジ難シト云ヘリ○右ニ對シ肉質良ク價安ケレバ毎日百頭ヅツ買續ケテ宜シキ旨告ゲ置ケリ○尙ホ明日錦州ヨリモ牛ヲ送り來ル筈。之トモ約束スル積リ○其後軍務署ニハ各部隊ヨリ入り込ムモノヲ嚴重ニ取締リツ、アルモ毎日七、八十噸乃至百噸ヅツ此ノ地ニ着スル白菜ハ皆賣捌カレ、一旦暴騰シタル價格ハ更ニ下落ノ氣配ヲ見ズ。昨今ハ百斤壹圓七、八拾錢ニテモ相手ニナラズ。依テ密行者ハ見附ケ次第軍務署ニ届ケ相場ノ引キ下ゲニ勉メツ、アリ。貴電ニヨリ明日試ニ着手ス。結果ハ更ニ電報ス。

同二十九日 第一軍兵站經理部長ヨリ電報午前零時五分奉天受

臺灣米使用ニ就テハ軍司令官ヨリ其筋へ申請ニ付、當分補給見合ハサレタシ。右返電午後二時奉天發

答、御來意ニ應ジ何分ノ沙汰アル迄臺灣米ノ追送ヲ見合サシム。

同二十九日 大連本倉庫今泉主計正へ電報午前零時三十分奉天發

五月十日頃汽車鐵嶺ニ全通ノ豫定ナル故藥劑正獸醫正ノ意見ヲ聞キ鐵嶺支庫準備員トシテ左ノ人員ヲ至急向ケラル、様守備軍參謀長、同經理部長、同軍醫部長ニ協議スベシ。

- 三等主計正 一 一等主計 四
- 一、二、三等主計 四 計手 一、二
- 一等藥劑官 一 一、二、三等藥劑官 一
- 看護長 三 磨工 一



一等獸醫

一

一、二、三等獸醫

一

歸鐵工長

二

此ニ應ズル乘馬、馬卒、從卒等

四月二十九日 金子營口支庫長へ電報午前九時奉天發

關外ト水路ニテ九個師團ノ輸送ハ水路ノ先頭ガ對頭灣ニ達セシ頃ニ關外ノ方ヲ右ノ表面ニヨリ發送始ムベシ。即、同時ニ高力屯ニ着セシムルヲ要スル故ナリ。

同二十九日 藤田主計ヲシテ新民屯米田主計へ左ノ如ク電報セシム午前十時奉天發

里村、相良、田崎其他内外人ヲ論セズ。早ク牛ト野菜ヲ買求メヨ。○余(藤田)ハ明朝出發貴地ニ行ク。

次デ又左ノ如ク電報ス午後二時奉天發

情況ニ變化アリ。生物調辨ハ一寸見合ハスベシ。○情況變化ノ事他言無用ナリ。○藤田ノ出張ハ見合ハス

同二十九日 第三軍竹島參謀長へ電報午前九時十分奉天發

當倉庫品ニシテ奉天新民間ノ輕便鐵道ニヨルヲ便トスルモノ少ナカラザル故輸送ノ事承諾シ置カレタク又手續キ通報アリタシ。

右ニ對シ、左ノ返電アリ午後五時三十分奉天受

本日高力屯迄輕鐵ノ敷設終レリ。明三十日ヨリ奉天高力屯間ヲ運轉ス。○昨日池田主計へ御話ノ生肉野菜類奉天ニ送ル件承知セリ。一旦「トロック」約七八十臺位ナラバ差支ナシ其手續キハ奉天ヨリ送ルモノハ同地岡本兵站司令部ニ新民ヨリ來タルモノハ高力屯小野崎兵站司令部ニ輸送ノ請求セラレタシ。新民高力間ハ一時敷設ヲ中止セリ。其事情ハ必要ナレバ總司令部ニテ聞カレタシ。

同二十九日 金子營口支庫長へ電報午前十時十分奉天發

第三軍招魂祭五月三日頃行ハル、ニ付品買入レ急ク由申來レリ。「ビスケット」ハ遼陽ニアル故イラヌトノコト。



四月二十九日 大連本倉庫今泉主計正へ電報午前十時發

鐵嶺支庫設置セラル、前ニ同地へ出張所ヲ置クベキニ付清水主計ヲ派遣セシムル考ナリ。差支ナキカ。

尙ホ同時ニ營口金子支庫長へ電報。

鐵嶺ニ出張所ヲ置ク爲メ明日前田主計正ヲ派遣ス。其支庫ヨリ綜合セテ主計一ヲ同出張所宛トシテ至急此地ニ送レ。人名極リ次第電報アレ。

同二十九日 大連本倉庫今泉主計正へ電報正午發

申請シアル輸卒二隊ハ急グ。イツ配屬ニナルカ。參謀部ニテ聞合セ、返。鐵嶺引當トシテ二隊ト營口高力屯ヲ含ムニ更ニ一隊ヲ軍司令官へ申請シ置クベシ。

同二十九日 大江第三軍兵站經理部長へ電報午後二時發

總司令部ノ指示ニヨリ鐵嶺ニ當倉庫ノ出張所ヲ置ク爲メ、前田主計正以下ヲ明日出發同地ニ派遣ス。馬蜂溝ニ貯藏セラレアル糧秣ハ右出張所ノ準備出

來次第引渡サレタシ。返待ツ。

同二十九日 營口金子支庫長ヨリ電報午前二時受

本日當支庫附トシテ計手二名第四師團ヨリ到着セリ。支庫ニ留メ置キ差支ナキヤ。

右ニ付直ニ左ノ如ク返電ス。

答、計手二名共奉天ニ來レ。主計一ヲ奉天ニ急行セシメヨ。

同時ニ大連今泉主計正へ電報。

清水主計ヲ直グ此地へ出發セシメヨ。事務用品ヲ若干持來レ。至急柳樹屯支庫長ヲ呼出シテ左ノ事ヲ談ゼヨ。遼陽奉天ニテハ主計四名入院シ、輸卒隊ハ四隊アルモ數ヶ所ニ分レ、晝夜ノ業務繁劇ニシテ非常ニ困難ナリ。鐵嶺ニ出張所ヲ置ク爲メ、明日前田ニ此地ノ一隊ヲ連レテ同地ニ行カシム。故ニ奉天ノ不足ハ遼陽ヨリ、柳樹屯ノ半隊ヲ一時遼陽ニ送レ。其不足ハ苦力ヲ雇入レヨ。申請ノ輸卒隊來レバ、柳樹屯へ返ス。



四月二十九日 大連今泉主計正ヨリ返電午後五時五分受

答清水主計ハ明日出發セシム。事務用品ヲ持チ行クコト承知ス。○柳樹屯輸卒半隊派遣ノ事ハ支庫長ニ電達セリ。出發ハ鐵道輸送ノ關係モアレバ決定次第電ス。○申請シタル輸卒二隊ハ本日頃ヨリ宇品ヲ出發スル筈ナリト。○鐵嶺引當輸卒二隊ト營口引當ノ輸卒一隊ハ軍司令官ニ申請シ置キタルモノ。鐵嶺支庫準備要員ノ件ハ電命ノ通り取計ヒタリ。

右ニ付、左ノ如ク電報ス午後六時十分奉天發

鐵嶺引當ノ輸卒ハ三隊營口引當ハ一隊都合四隊ナリ。

次デ又左ノ如ク電報ス午後九時十分奉天發

申請セシ二隊本日頃宇品出帆ナレバ其レヲ遼陽以北ニ送レ。○柳樹屯ノ半隊ハ元ノ儘ニセヨ。

同二十九日 金子營口支庫長ヨリ返電午後十二時奉天受

松谷主計ハ最壯健ニシテ立廻ハルニハ適當ト思フ。依テ之ヲ派遣ス。○明朝

出發セシム。

同二十九日 奉天ニ於テ第二軍片山經理部長ヨリ左ノ協議アリ。

- 一 軍ハ不日行動ヲ開始ス。其早キモノハ三日頃ヨリス。
- 二 軍ノ各師團ニハ七日分ノ糧秣ヲ有ス。行動中ハ之ヲ使用セシムルヲ以テ行動間ハ滿洲軍倉庫ヨリ奉天ニテ補給見合サレタシ。
- 三 生肉、生野菜、干草、薪炭ノ類ヲ已ニ發送セルモノハ此地ノ兵站ニテ受領スルモ其餘ノモノハ見合ハサレタシ。
- 四 心臺子ニテ五月一日ヨリ補給ヲ受クルコトニ就テハ兵站經理部長ニ打合サレタシ。
- 五 沙河及奉天附近ニ同軍ガ冬營ノ爲メ集積シ置キタル殘留品ヲ倉庫ノ物品トシテ送ラレタシ。

尙ホ木村第二軍兵站經理部長ノ五月一日以後ニ於ケル糧秣補給ニ關スル希望左ノ如シ。